

須賀川市健康増進計画

～一人ひとりが健康で

ともに暮らせるまち須賀川～

平成23年3月

須賀川市



はじめに

「健康」でいきいきと生活することは、誰もが望む共通の願いです。

しかし、近年の健康を取り巻く環境は、食生活の偏り、運動不足などによる生活習慣病が増加傾向にあります。また、少子高齢化や核家族化の進行に伴い、育児に対する不安や健康への関心がますます高まっております。

このようなことから、より健康的な生活を営むためには一人ひとりが健康に対する認識を高めることが何より大切であり、また、効果的に健康づくりを推進するためには、行政はもとより社会全体で支援体制を整備していくことが重要であります。

国においては、平成12年に「21世紀における国民健康づくり運動（健康日本21）」を策定し、壮年期死亡の減少と健康寿命の延伸のため様々な取り組みを行っています。

本市では、これらの国の動向を踏まえ、平成13年度に健康寿命の延伸などを目的とした須賀川市保健計画「須賀川市健康アップ21」、平成14年度には母子保健計画「須賀川市すこやか親子21」を策定しましたが、この度、これらの二つの計画の最終評価を行うとともに、この二つの計画に「食育推進計画」を加え統合した「須賀川市健康増進計画」を策定いたしました。

本計画は、「一人ひとりが健康で、ともに暮らせるまち須賀川」の実現を掲げ、一人ひとりが生涯を通して豊かな人生を送るため、妊娠、出産期から高齢期までのライフステージごとに応じた健康づくりを総合的に推進する内容となっております。

計画の推進に当たりましては、関係機関・関係団体との連携強化を図り、協働して本計画を推進して参りたいと存じますので、市民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

結びに、本計画の策定に当たり、貴重なご意見、ご提言を賜りました「須賀川市健康づくり推進協議会」「市民懇話会」の皆様をはじめ、関係者の皆様から感謝申し上げ計画策定のご挨拶といたします。

平成23年3月

須賀川市長 橋本克也

目次

第1章 須賀川市健康増進計画策定にあたって

第1節	計画策定の趣旨と背景	7
第2節	計画の目的と目標	8
第3節	関連計画との位置づけ	9
第4節	計画の基本方針	10
第5節	5つの領域とライフステージの設定	12
第6節	計画期間と評価	13
第7節	計画の策定体制	13

第2章 須賀川市民の健康の状況

第1節	市民の健康状態	17
第2節	健康の現状と課題	
1	領域1 栄養 食生活と歯	31
2	領域2 身体活動・運動	38
3	領域3 疾病予防(メタボリック・がん・感染症)	40
4	領域4 たばこ・アルコール・薬物防止	46
5	領域5 健やかなこころ 休養	49

第3章 健康づくりの取り組み

第1節	5つの領域のめざすもの	55
第2節	市民懇話会からの意見	58
第3節	ライフステージごとの取り組み	
1	妊娠・出産期	60
2	乳幼児期(0歳～就学前の親子)	63
3	学童期(6歳～12歳)	66
4	思春期(13歳～19歳)	69
5	青年期(20歳～39歳)	72
6	壮年期(40歳～64歳)	75
7	高齢期(65歳～)	79
第4節	成果目標	
1	妊娠・出産期	82
2	乳幼児期(0歳～就学前の親子)	83
3	学童期(6歳～12歳)	84
4	思春期(13歳～19歳)	85
5	青年期(20歳～39歳)	86
6	壮年期(40歳～64歳)	87
7	高齢期(65歳～)	88

第4章 計画の推進に向けて

- 第1節 市民との協働による取り組み 91
- 第2節 推進体制の整備 91

第5章 「須賀川市健康アップ21」「須賀川市すこやか親子21」最終評価

- 第1節 「健康アップ21」「すこやか親子21」の概要 95
- 第2節 「健康アップ21」最終評価 96
- 第3節 「すこやか親子21」最終評価 110

資料編

- 1 市民アンケート調査結果概要 129
- 2 市民懇話会 174
- 3 健康づくり推進協議会 176
- 4 計画策定の経過 179



【第1章】

須賀川市健康増進計画策定に あたって

第1章 須賀川市健康増進計画策定にあたって

第1節 計画策定の趣旨と背景

近年、我が国は医学と医療技術の進歩や経済・社会生活の向上などにより、平均寿命が大きく延伸し、今や世界有数の長寿大国となりました。

その一方で、少子高齢化社会の進行とともに、生活習慣の多様化によって、がん・脳卒中・糖尿病などの生活習慣病に起因した寝たきりや認知症などの介護を必要とする人の増加により、医療費や介護給付費の増大は社会的課題にもなっています。また、核家族化や少子化の進行、近隣社会との希薄化などにより、育児に不安を持つ母親や子どもの虐待に関する相談件数が増加し、家庭での育児機能が低下してきている状況にあります。

このような状況の中、国は、国民が一体となった健康づくり運動を推進し、壮年期死亡の減少と健康寿命の延伸を図ることを目的に、平成12年3月に「21世紀における国民健康づくり運動(健康日本21)」を策定し、平成15年5月には「健康日本21」を中核とする国民の健康づくりと疾病予防を積極的に推進するため「健康増進法」が施行されました。また、母子保健事業の指針として、平成12年11月に、女性が安心して子どもを産み、ゆとりを持って育てるための基盤となる「母子保健の国民運動(健やか親子21)」を策定し、平成17年6月には正しい食習慣を定着させ、食を通じた豊かな人間性の育成を目的とした「食育基本法」が施行されました。さらに、「健康フロンティア戦略」では、生活習慣病対策について、平成17年度から10年間のがん対策、心疾患対策、脳卒中对策及び糖尿病対策の具体的な数値目標が掲げられました。その他「自殺対策基本法」、「がん対策基本法」及び「高齢者の医療の確保に関する法律」などの施行により、健康で長生きするための様々な各種対策が講じられました。

このような国の動向を踏まえ、本市では、計画期間を10年間として国の「健康日本21」「健やか親子21」の理念を取り込み、平成13年度に健康寿命の延伸等を目的とした「須賀川市保健計画須賀川市健康アップ21」(以下「健康アップ21」)を策定しました。また、平成14年度には安心して妊娠、出産、育児ができることを目的とした「第二次須賀川市母子保健計画須賀川市すこやか親子21」(以下「すこやか親子21」)を策定しました。平成13年度に策定した「健康アップ21」が、平成22年度が最終年度であることから、その評価を行うとともに、平成23年度「すこやか親子21」の評価も併せて行い、新たに「食育推進計画」を統合した「須賀川市健康増進計画」を策定することとしました。本計画は、妊娠、出産期から高齢期までのライフステージごとに健康づくりを総合的に推進する計画で、行政機関をはじめ、職場、地域、学校、保健・医療機関、健康づくりの関係団体等と協働しながら、市民一人ひとりの健康づくりを支援します。

第2節 計画の目的と目標

1 目的

本計画は、須賀川市総合計画の目標である「心ふれあうまちづくり(保健福祉の充実)」を基本理念に、「一人ひとりが健康でともに暮らせるまち須賀川」の実現を目的とします。

健康に対する考え方は、従来の単なる「病気ではない」という考えから、病気や障がいがあっても社会の中で積極的な役割を果たし、生きがいを持って自立した生活ができるなど、生活の質の向上に重きをおく方向へと変化しています。

また、病気になってからの治療ではなく、妊娠・出産・育児の期間から学童期、思春期、青年期、壮年期、高齢期までのライフステージにおいて食生活、運動、休養、喫煙などさまざまな生活習慣の見直しや環境改善により病気の発生そのものを予防する一次予防が重要となっています。

これらのことから、「一人ひとりが健康でともに暮らせるまち須賀川」の実現に向け以下の4点を目標として計画を推進していきます。

2 目標

- ① 健康寿命の延伸
- ② 生活の質の向上
- ③ 壮年期死亡(早世)の減少
- ④ すこやかな子育ての推進

健康寿命とは

心身ともに自立して健康で暮らせる期間

具体的には、身体機能面での健康寿命は、食事・更衣・排泄・入浴などの日常生活動作(ADL)を自立して行える生存期間を意味し、精神機能面では認知症のない生存期間

生活の質(quality of life)とは

クオリティ オブ ライフ(Quality Of Life)の略

人がどれだけ人間らしい望みどおりの生活を送ることができるかを計るための尺度として働く概念。

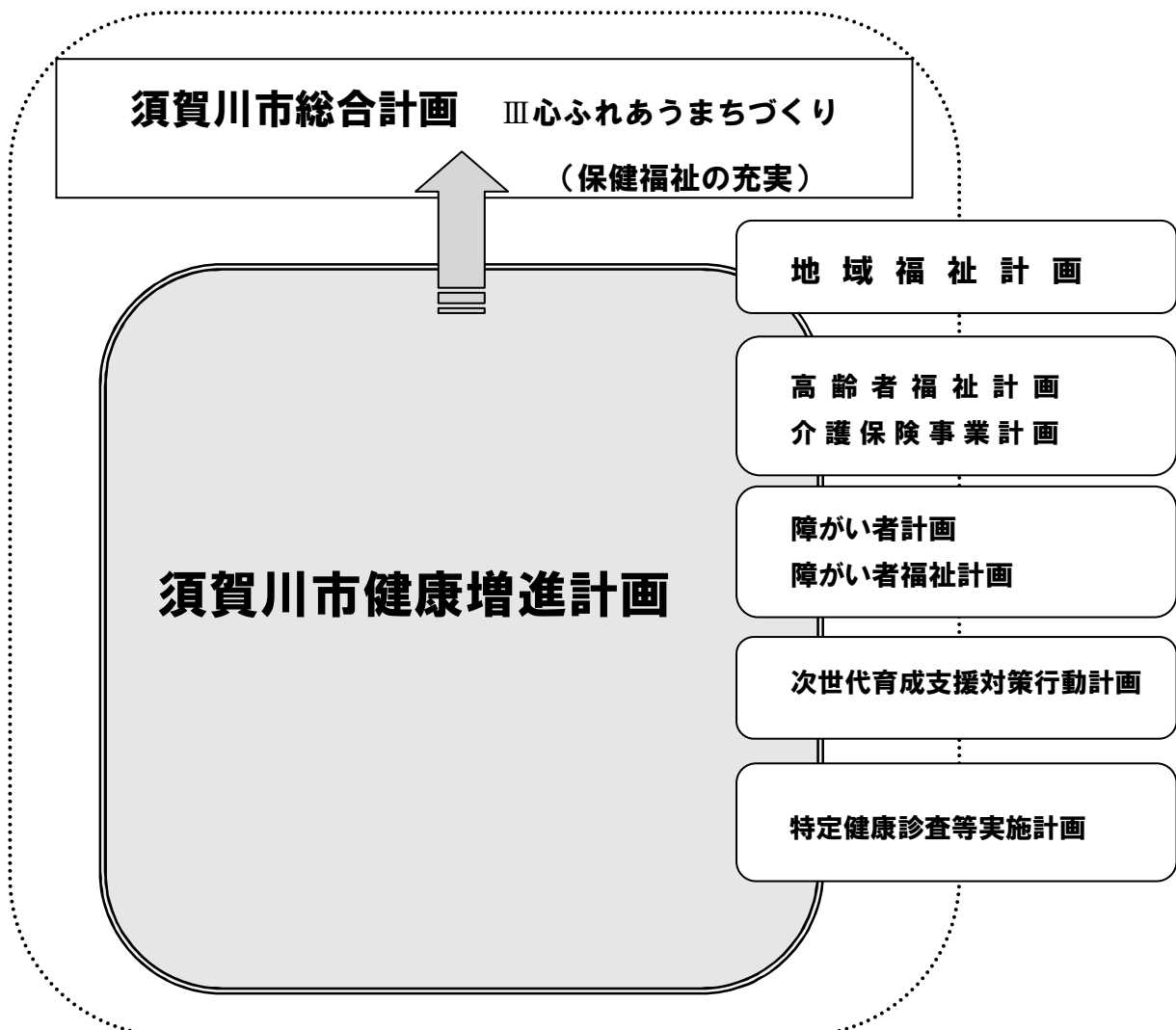
第3節 関連計画との位置づけ

本計画は、平成13年度に策定した「健康アップ21」、平成14年度に策定した「すこやか親子21」の最終評価を行い、これら2つの計画を統合し、食育推進計画を加えた今後10年間の健康づくりの施策を推進する行動計画です。

また、本計画は、平成15年5月に施行された健康増進法第8条に基づき、市町村が住民の健康増進に関する施策について定める「市町村健康増進計画」に位置づけるものです。

加えて、平成17年7月に施行された食育基本法第18条に基づき、市町村が作成する「市町村食育計画」の内容を包含するものです。

この計画策定にあたっては、「須賀川市総合計画」をはじめとする本市の各種計画画との整合を図っています。



第4節 計画の基本方針

1 健康寿命の延伸と生活の質の向上

壮年期の死亡を減少させるとともに、健康で長生きをするという、いわゆる「健康寿命」の延伸を図り、自立した生活を送ることができるとともに、すべての市民が生涯にわたって、健やかで心豊かに暮らせるよう、生活の質の向上を目指した取り組みをすすめます。

2 「一次予防」の重視

従来 of 疾病対策の中心であった二次予防や三次予防にとどまることなく、病気にかからないために普段から健康増進に努め、食生活、運動、休養、喫煙などさまざまな生活習慣の見直しや環境改善により病気の発生そのものを予防する「一次予防」に重点を置いた健康づくりをすすめます。

3 ヘルスプロモーションを取り入れた健康づくり

- ①市民一人ひとりが自らの決定に基づいて、健康増進や疾病の予防、さらに障がいや慢性疾患をコントロールする能力を高めることができる。
- ②健康を支援する環境づくりを行う。

を2本柱としたヘルスプロモーションの考え方を取り入れ、健康づくりに主体的に取り組む個人を家庭、地域、職場等を含めた社会全体で支援する環境整備に努めます。そのため、健康づくり運動に必要な情報や具体的な行動や方策を提示します。

4 ライフステージごとの取り組みの展開

生活習慣は乳幼児期からの日々の生活の中で形成されていきます。自らの生活習慣を考えるに当たっては、生涯を大きく「妊娠出産期」「乳幼児期」「学童期」「思春期」「青年期」「壮年期」「高齢期」に分け、ライフステージごとの特徴や課題に応じた健康づくりの取り組みを展開します。

5 目標設定と評価

(1) 数値目標の設定

「健康アップ 21」「すこやか親子 21」の最終評価結果や「健康と生活習慣に関するアンケート」などを基に、現状や課題の共通認識をもった上で重要な課題を選択し、取り組む目標を設定します。

「すこやか親子 21」の数値目標については、「増加」「減少」と表示した目標値は可能な限り数値で設定します。

(2) 進行管理と評価

本計画は、市民参加により計画の策定(Plan)、計画の推進(Do)、計画の評価(See)を行います。

計画の遂行にあたっては「須賀川市健康づくり推進協議会」を中心として、計画の進捗状況の把握や各々の事業評価を行うなど適切な進行管理に努めます。

評価にあたっては、目標を達成するための具体的な活動の成果を評価し、その後の健康づくり計画に反映させます。

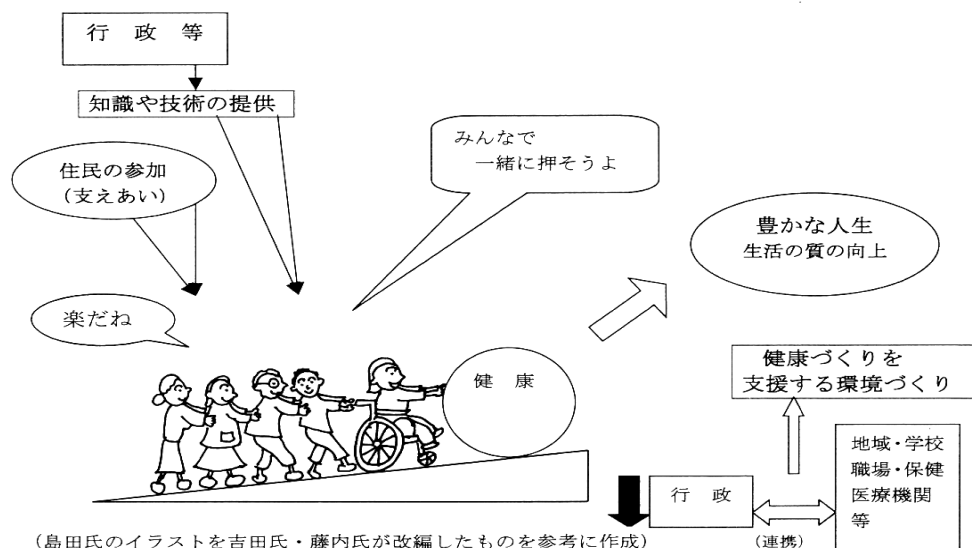
ヘルスプロモーションとは・・

WHO(世界保健機関)が1986年のオタワ憲章において提唱した新しい健康観に基づく21世紀の健康戦略で、「人々が自らの健康をコントロールし、改善することができるようにするプロセス」と定義されています。

健康を自分自身でコントロールできるように住民一人ひとりの能力を高めること、またそのために健康を支援する様々な環境を整備していくことを意味しています。

ヘルスプロモーションの考え方を例えると下の図のようになります。人の一生を坂道ととらえ、人は一步一步「健康の玉」を押し上げ登っていきます。そのためには、自ら登る力(自助)をつけたり、サポート(共助・公助)も必要です。また、坂道を登りやすくするために角度を低くする環境づくりも重要です。

これらのことを踏まえ、自分の健康は、自分でつくることを前提に、健康づくりを支える環境を整備していきます。



第5節 5つの領域とライフステージの設定

この計画は、5つの領域を設定し、すべての年代(妊娠・出産期から高齢期まで)を対象とした、理想の健康な暮らしに向けて各ライフステージに沿った健康づくりに取り組みます。

1 5つの領域

領域区分	分野
領域 1	栄養・食生活と歯
領域 2	身体活動・運動
領域 3	疾病予防(メタボリック・がん・感染症)
領域 4	たばこ・アルコール・薬物防止
領域 5	健やかなころ・休養

2 ライフステージの設定

ライフステージ	理想の健康な暮らし
妊娠・出産期	皆に祝福され、幸せな妊娠・出産期を送ることができる。
乳幼児期 (0歳～就学前の親子)	親や家族の愛情を受けて、子供が健やかに成長できる。 親は安心して子育てができる。
学童期 (6～12歳)	健やかに成長し楽しく学校生活を送ることができる。
思春期 (13～19歳)	健康管理をしながら、自立(自律)に向けての技術や知識を習得できる。
青年期 (20～39歳)	健康管理をしながら、充実した社会・家庭生活をスタートすることができる。
壮年期 (40～64歳)	生活習慣病を予防し、充実した社会・家庭生活を送ることができる。
高齢期 (65歳～)	体の変化と上手につきあいながら、笑顔で明るく毎日を送ることができる。

第6節 計画期間と評価

平成23年度を初年度とし、平成32年度を目標年度とする10年間の期間としましたが、国や県との整合性を図るため2年延長し、12年間の期間とします。

この計画の実施にあたっては、「須賀川市健康づくり推進協議会」を中心として、適切な進行管理に努め、必要に応じて随時見直しを行います。

全体的には、計画の中間年度である平成27年度を2年延長した29年度に計画の中間評価と見直しを行います。

23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度	34年度	
1年目	2年目	3年目	4年目	5年目	6年目	7年目	8年目	9年目	10年目	11年目	12年目	
前期期間					後期期間							
						中間 評価 と 見 直 し						最終 評価
計画推進の進行管理												

第7節 計画の策定体制

市民参加型による手作りの計画とするため、市民を対象とした「健康と生活習慣に関するアンケート調査」を実施したほか、一般公募した市民、市内各事業所及び関係機関・団体からの代表による「須賀川市市民懇話会」(以下「市民懇話会」)を開催しました。

この市民懇話会では、5つの担当領域ごとにわかれて“理想の健康な暮らしをするためにそれぞれができること”をテーマに話し合いを行い、それらの意見をこの計画に取り入れました。また、パブリックコメントの実施などにより、広く市民の皆さんから参加をいただきました。

この計画の策定にあたり、本市の健康づくりに関し重要な事項を調査審議するために設置されている「須賀川市健康づくり推進協議会」において審議していただきました。

【第2章】

須賀川市民の健康の状況

第2章 須賀川市民の健康の状況

第1節 市民の健康状態

1 市民の健康状態の特徴

市民の健康状態の特徴を人口動態、死亡統計、要介護(要支援)認定状況、国保疾病統計等から把握しました。

- (1) 平成 21 年の人口は 79,653 人で、平成 17 年の合併時に 8 万人となりましたが、その後減少傾向にあります。

年齢構成別人口比をみると、年少人口は平成 2 年の 21.0%が、平成 21 年には 15.0%、老年人口は平成 2 年の 12.9%が平成 21 年に 21.7%と比率が逆転し、少子高齢化が進んでいます。

高齢化率は、年々高くなっていますが、県、国と比較すると低くなっています。

- (2) 出生率は県、国と比較し高くなっていますが、減少傾向にあり、出生数も平成 17 年に 745 人、平成 21 年は 681 人と減少しています。

低出生体重児出生割合は、平成 17 年に増加しましたが、それ以降は減少傾向にあります。

平成 15 年から平成 19 年の合計特殊出生率は、1.56 であり年々低くなっています。

- (3) 65 歳の健康寿命は、平成 13 年に比較し伸びていますが要介護期間も伸びています。

- (4) 死亡率は、県と比較すると低くなっています。平成 17 年に高くなり、その後は横ばい状態となっています。

乳児死亡率は、平成 17 年に 0 となりましたが、その後増加し、平成 21 年には減少しています。

平成 20 年の主要死因別死亡率は、悪性新生物による死亡が第1位であり、次いで心疾患、3位が脳血管疾患となっています。

主な生活習慣病による死亡率では、糖尿病によるものが平成 19 年、20 年に高くなっています。自殺の死亡率は横ばい傾向にあります。

標準化死亡比(SMR)では、男性は、胃がん、食道がん、心疾患による死亡が、全国と比較して有意に高くなっており、女性は、心疾患、不慮の事故による死亡が、全国と比較して有意に高くなっています。

- (5) 要介護(要支援)認定者数は年々増加しています。

65歳以上の第1号被保険者に占める要介護者の割合は 16.4%となっています。

要介護を受けた時の主な原因疾病は「脳血管疾患」が1位となっており、生活習慣病予防が介護予防の面からも重要です。

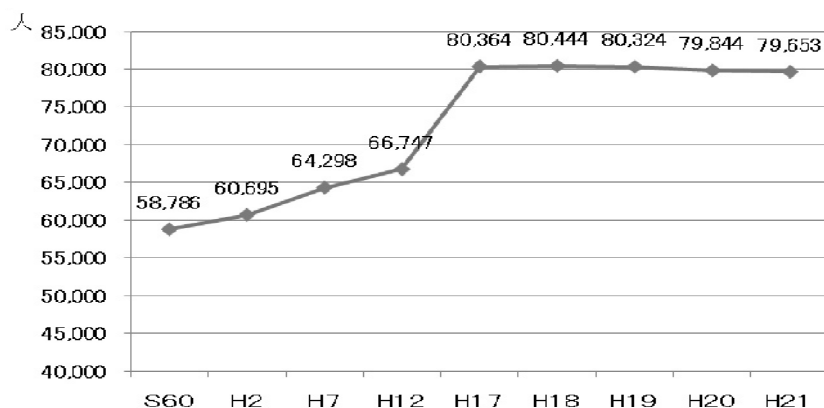
(6) 国保の疾病統計では、レセプトから医療の受療状況を見ると、受診率、件数ともに、高血圧や糖尿病等の生活習慣病が上位になっており、生活習慣病対策が重要です。

また、歯科については、件数、金額において上位にあり、歯科に関する取り組みが重要です。

2 須賀川市の人口と世帯

(1) 人口の推移

須賀川市は平成17年に旧長沼町、旧岩瀬村と合併し人口は8万人を超えましたが平成19年から人口は減少しています。

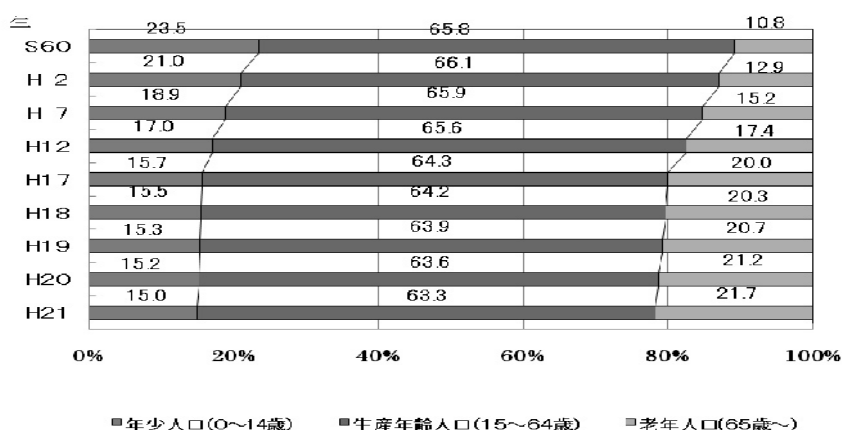


S60	H2	H7	H12	H17	H18	H19	H20	H21
58,786	60,695	64,298	66,747	80,364	80,444	80,324	79,844	79,653

出典：福島県の推計人口

(2) 年齢構成別人口比の推移

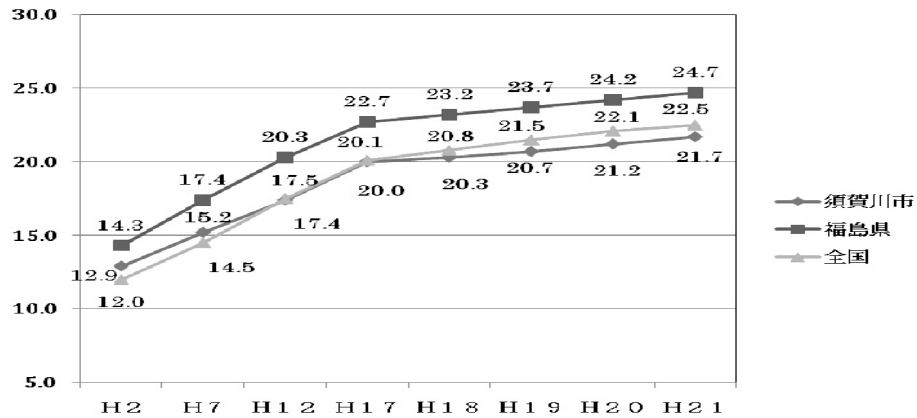
年齢構成をみると年少人口、生産年齢人口は減少が続き、替わって老年人口が増加しています。



出典：福島県の推計人口

(3) 高齢化率の推移

高齢化率は高くなってきていますが、県や全国に比較しては低くなっています。

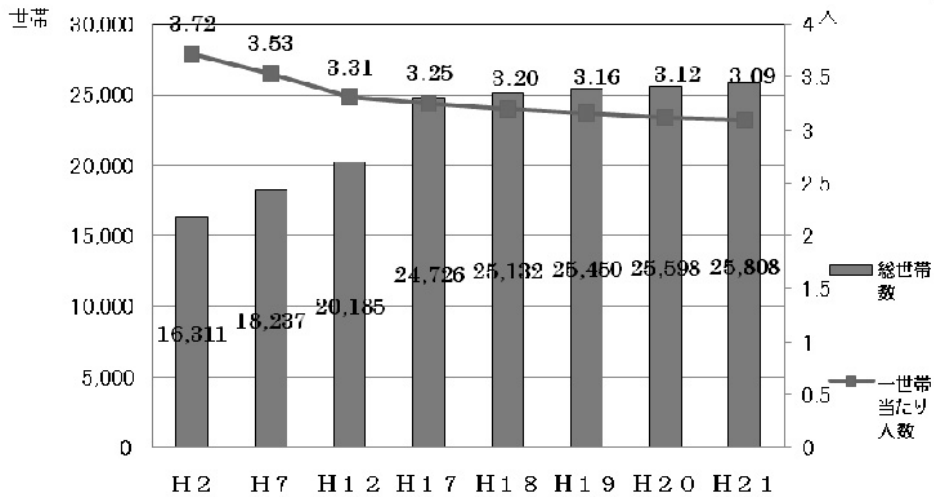


年	H2	H7	H12	H17	H18	H19	H20	H21
須賀川市	12.9	15.2	17.4	20.0	20.3	20.7	21.2	21.7
福島県	14.3	17.4	20.3	22.7	23.2	23.7	24.2	24.7
全国	12.0	14.5	17.5	20.1	20.8	21.5	22.1	22.5

出典: 福島県の推計人口

(4) 総世帯数の推移と一世帯当たり人数の推移

総世帯は増加傾向にあります、一世帯当たり人数が減少しています。



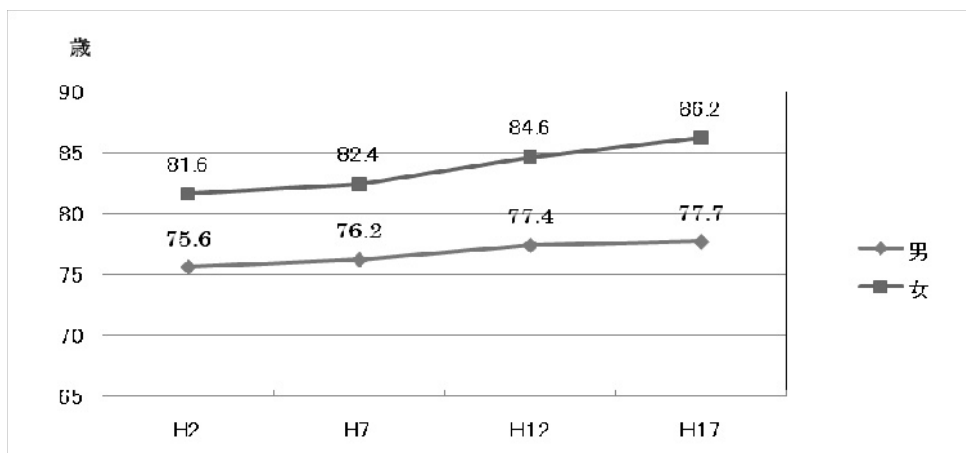
年	H2	H7	H12	H17	H18	H19	H20	H21
総世帯数	16,311	18,237	20,185	24,726	25,132	25,450	25,598	25,808
一世帯当たり人数	3.72	3.53	3.31	3.25	3.20	3.16	3.12	3.09

出典: 福島県の推計人口

3 須賀川市の平均寿命と健康寿命

(1) 平均寿命

国勢調査によると須賀川市の平均寿命は延びていますが、国に比較すると男性は低く、女性は高くなっています。



年	H2	H7	H12	H17
須賀川市 男	75.6	76.2	77.4	77.7
須賀川市 女	81.6	82.4	84.6	86.2
全国 男	75.9	76.4	77.7	78.5
全国 女	81.9	82.9	84.6	85.5

出典: 国勢調査

(2) 健康寿命

平成13年と比較すると、健康寿命は男女ともに伸びていますが、要介護期間も伸びています。

性 別	男性		女性	
	13年	21年	13年	21年
65歳平均余命	15.7	17.7	19.1	22.3
65歳健康寿命	14.5	15.7	17.2	19.4
要介護(障がい)期間	1.2	2.0	1.9	2.9
要介護(障がい)期間(65歳平均余命-65歳健康寿命)				

出典: 切明 義孝 「介護保険制度を利用した健康寿命計算」

(厚生労働省 人口動態調査 平成17～21年の死亡数)

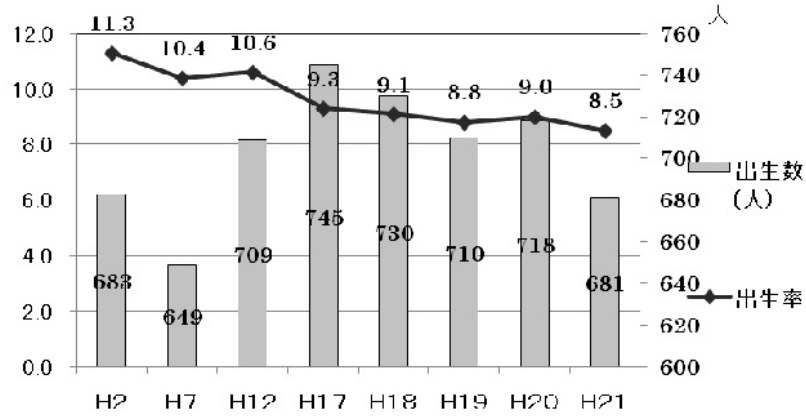
(厚生労働省 介護保険報告集計 平成21年度 年齢別介護保険者数・受給者数)

(平成19年度年齢別人口 住民基本台帳) より算出

4 須賀川市の出生

(1) 出生率(人口千対)の年次推移

出生率は県、国と比較し高い傾向にあります。出生数は平成17年の出生数は745人、平成20年は718人、平成21年は681人と減少しています。

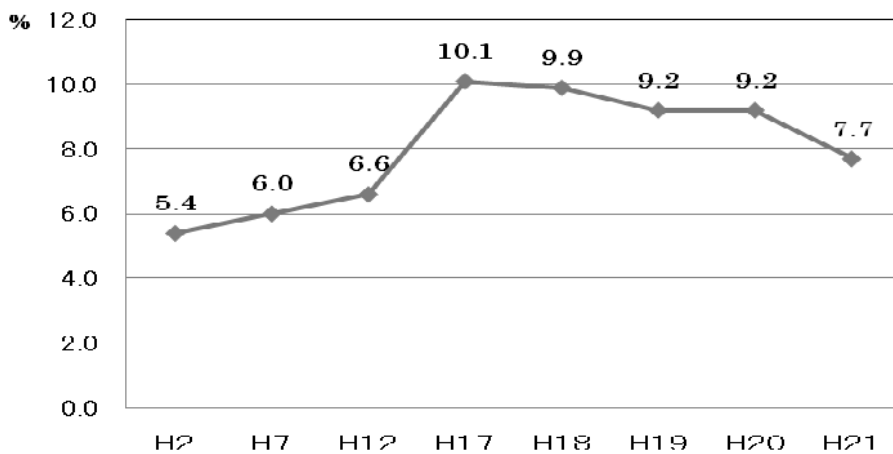


年	H2	H7	H12	H17	H18	H19	H20	H21
須賀川市	11.3	10.4	10.6	9.3	9.1	8.8	9.0	8.5
福島県	10.8	10.0	9.6	8.4	8.4	8.3	8.3	8.0
全国	10.0	9.6	9.5	8.4	8.7	8.6	8.6	8.5
出生数(人)	683	649	709	745	730	710	718	681

出典:福島県の推計人口

(2) 低出生体重児(2,500g未満)出生割合(%)の年次推移

低出生体重児出生割合は、平成17年に増加しましたが、それ以降は減少傾向にあります。



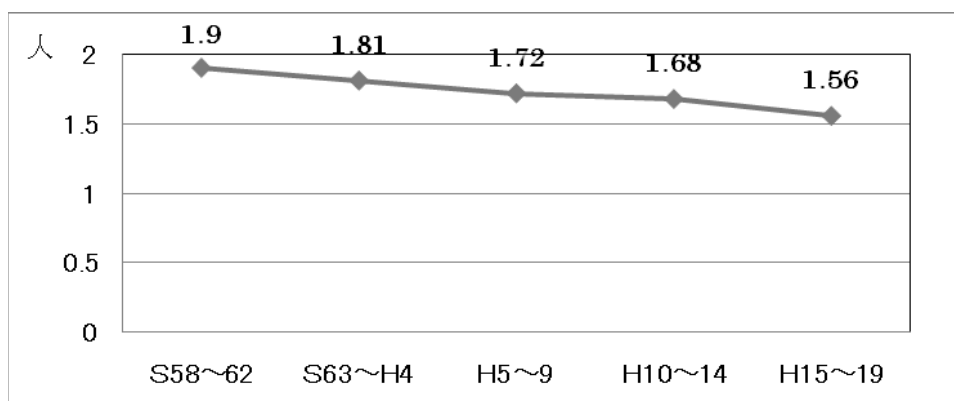
第2章 須賀川市民の健康の状況

年	H2	H7	H12	H17	H18	H19	H20	H21
須賀川市	5.4	6.0	6.6	10.1	9.9	9.2	9.2	7.7
福島県	5.8	7.6	8.3	9.2	9.0	9.7	9.1	9.0
全国	6.3	7.5	8.6	9.5	9.6	9.6	9.6	9.0

出典：保健統計の概況（福島県保健福祉部）

(3) 合計特殊出生率の推移

一人の女性が一生に産む子供の平均数を示す合計特殊出生率は、年々低くなっていますが、国より高い傾向にあります。



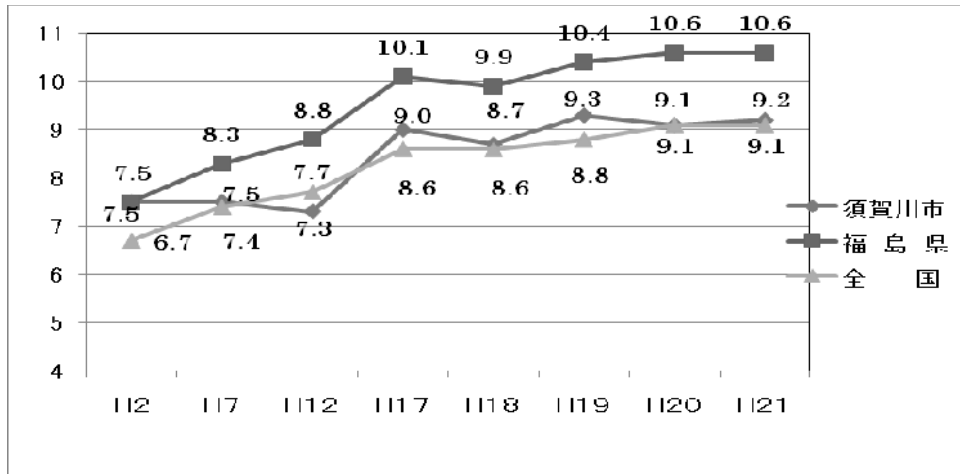
年	S58~62	S63~H4	H5~9	H10~14	H15~19
須賀川市	1.9	1.81	1.72	1.68	1.56
福島県	1.97	1.82	1.73	1.64	1.52
全国	1.73	1.53	1.44	1.36	1.31

出典：福島県の推計人口

5 須賀川市の死亡

(1) 死亡率(人口千対)

死亡率は、平成 17 年に増加しましたが、県に比較し低い傾向にあります。

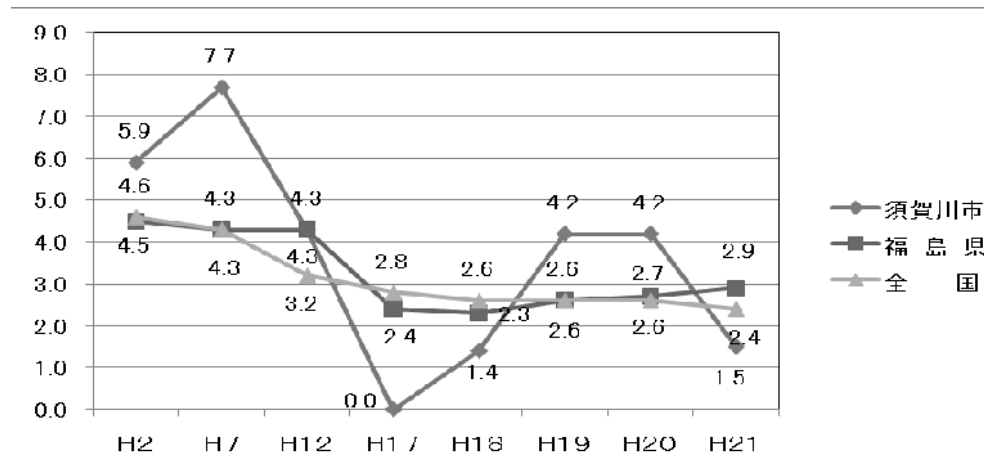


年	H12	H17	H18	H19	H20	H21
須賀川市	7.3	9.0	8.7	9.3	9.1	9.2
福島県	8.8	10.1	9.9	10.4	10.6	10.6
全国	7.7	8.6	8.6	8.8	9.1	9.1

出典:福島県の推計人口

(2) 乳児死亡率(人口千対)

平成 17 年に0となりましたが、その後は県、国に比べ高く平成 21 年に減少しました。

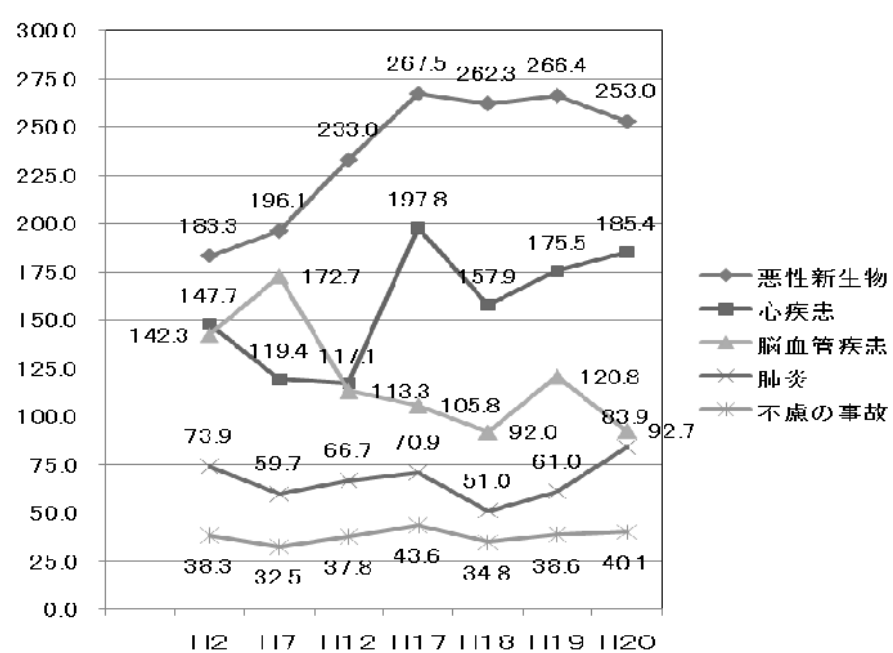


年	H2	H7	H12	H17	H18	H19	H20	H21
須賀川市	5.9	7.7	4.3	0.0	1.4	4.2	4.2	1.5
福島県	4.5	4.3	4.3	2.4	2.3	2.6	2.7	2.9
全国	4.6	4.3	3.2	2.8	2.6	2.6	2.6	2.4

出典:福島県の推計人口

(3) 主要死因別死亡率(人口10万対)

平成20年の死因順位は悪性新生物が1位、心疾患が2位、脳血管疾患が3位、肺炎が4位、不慮の事故が5位となっています。

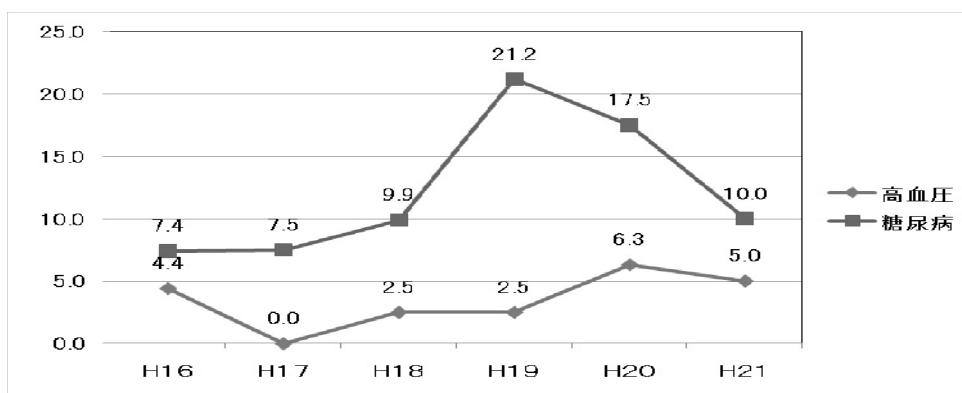


年	H2	H7	H12	H17	H18	H19	H20
悪性新生物	183.3	196.1	233.0	267.5	262.3	266.4	253.0
心疾患	147.7	119.4	117.1	197.8	157.9	175.5	185.4
脳血管疾患	142.3	172.7	113.3	105.8	92.0	120.8	92.7
肺炎	73.9	59.7	66.7	70.9	51.0	61.0	83.9
不慮の事故	38.3	32.5	37.8	43.6	34.8	38.6	40.1

出典: 県中保健福祉事務所データベース

(4) 高血圧・糖尿病による死亡率(人口10万対)

悪性新生物、心疾患、脳血管疾患の他の生活習慣病である高血圧、糖尿病による死亡率は糖尿病が平成19年、平成20年に高くなっています。

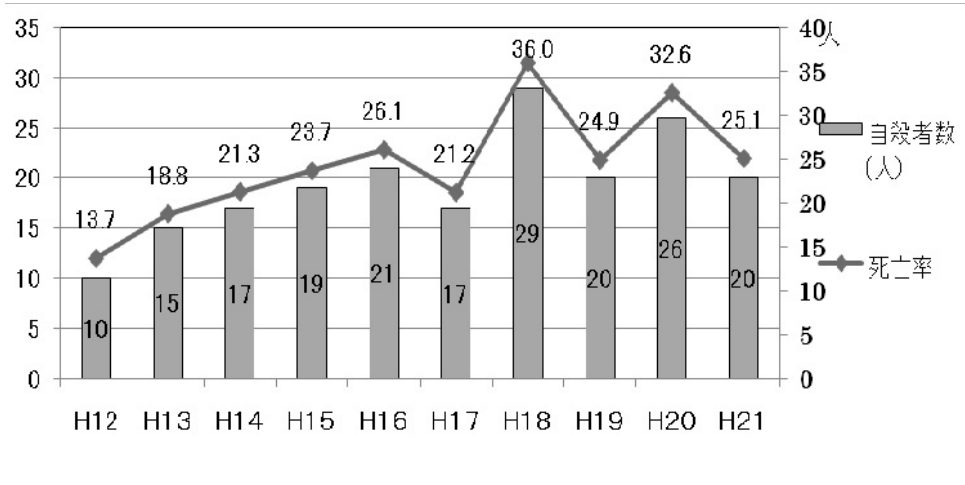


年	H16	H17	H18	H19	H20	H21
高血圧	4.4	0.0	2.5	2.5	6.3	5.0
糖尿病	7.4	7.5	9.9	21.2	17.5	10.0

出典:保健統計の概況「選択死因別死亡率」

(5) 自殺者率(人口10万対)

自殺者率は平成18年、平成20年に高くなっています。



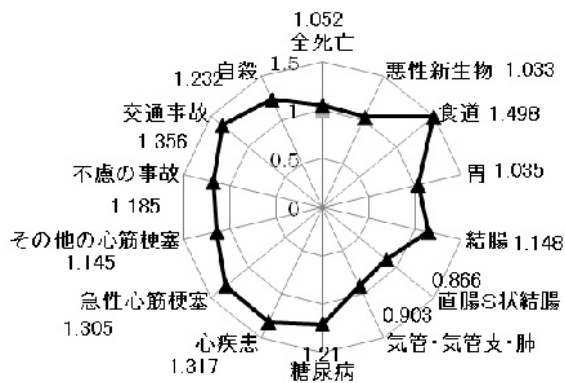
年	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
死亡率	13.7	18.8	21.3	23.7	26.1	21.2	36.0	24.9	32.6	25.1
自殺者数	10	15	17	19	21	17	29	20	26	20

出典:福島県の推計人口

(6) 標準化死亡比 全国(16~20年)を1とした場合

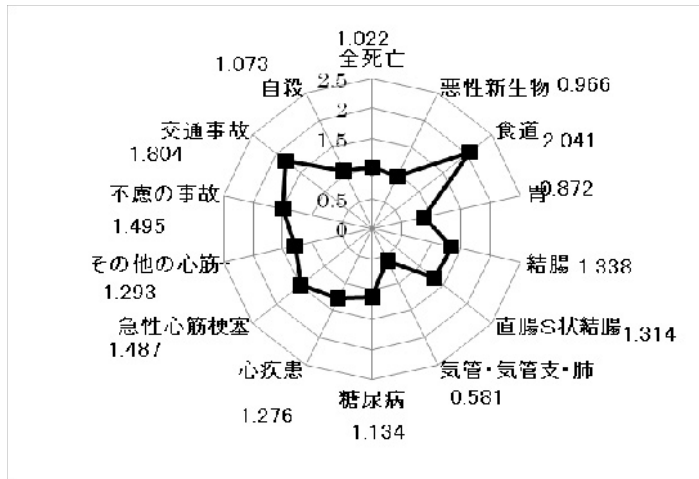
【男性】

全国より心疾患による標準化死亡比が高くなっており、がんでは胃がん、食道がん心疾患(急性心筋梗塞、心不全)が高くなっています。



【女性】

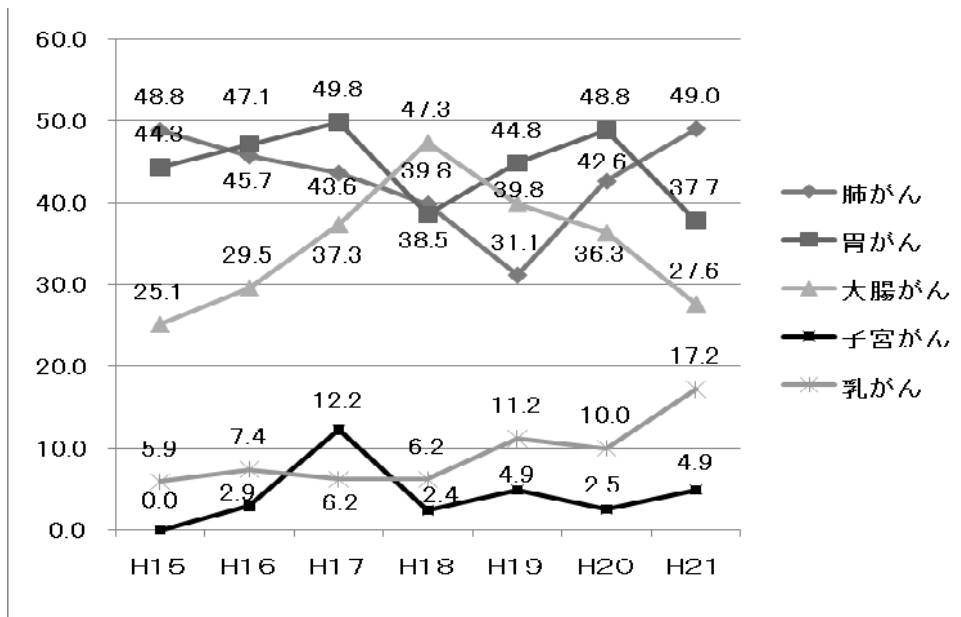
全国より心疾患(急性心筋梗塞)、不慮の事故が高くなっています。



出典: 県中保健福祉事務所データベース

(7) 悪性新生物部位別死亡率(人口10万対)

胃、肺、大腸がんによる死亡が上位を占めています。



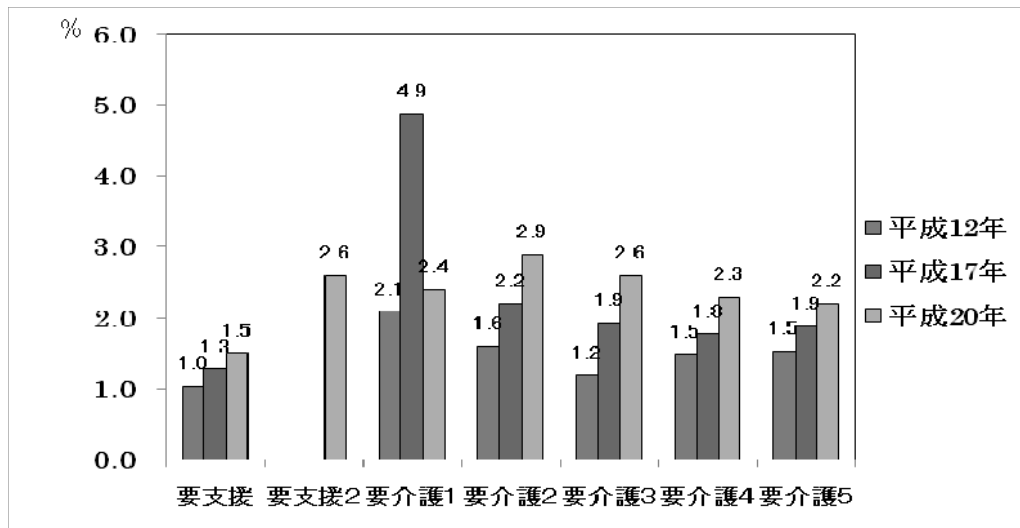
がん種別	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
肺がん	48.8	45.7	43.6	39.8	31.1	42.6	49.0
胃がん	44.3	47.1	49.8	38.5	44.8	48.8	37.7
大腸がん	25.1	29.5	37.3	47.3	39.8	36.3	27.6
子宮がん	0.0	2.9	12.2	2.4	4.9	2.5	4.9
乳がん	5.9	7.4	6.2	6.2	11.2	10.0	17.2

出典: 保健統計の概況 死亡率、死因(死因分類)

6 介護保険の状況

65歳以上の第1号被保険者に占める要介護認定者の割合は、介護保険開始年度平成12年度に比較すると約2倍の16.4%となっています。

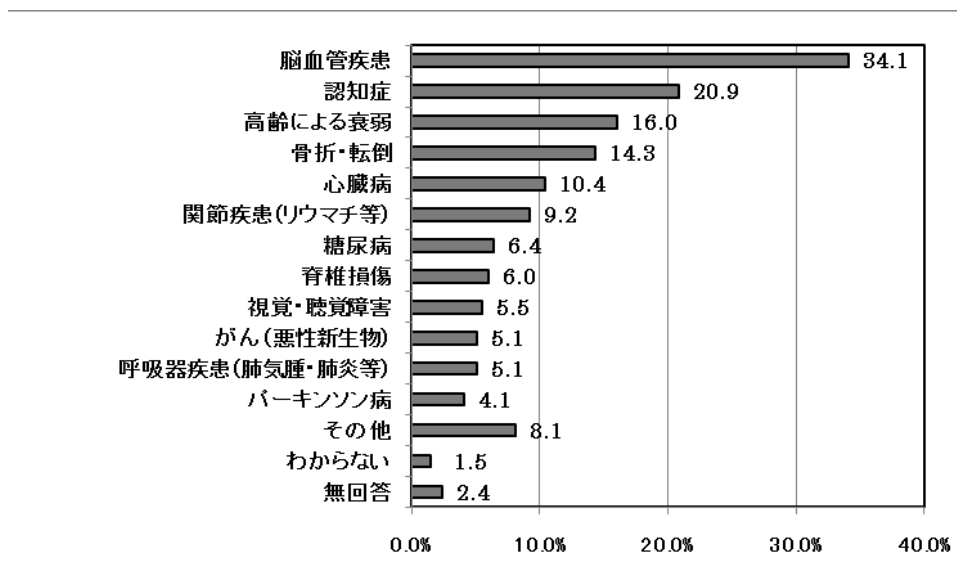
区 分	平成12年		平成17年		平成20年	
	人 数	比 率	人 数	比 率	人 数	比 率
65歳以上の人口 (A)	14,382	100.0%	15,846	100.0%	16,738	100.0%
要介護認定者数 (B)	1,287	8.9% (B/A)	2,209	13.9% (B/A)	2,743	16.4% (B/A)
要支援1 (a)	149	1.0% (a/A)	203	1.3% (a/A)	243	1.5% (a/A)
要支援2 (b)		(b/A)		(b/A)	438	2.6% (b/A)
要介護1 (c)	301	2.1% (c/A)	772	4.9% (c/A)	396	2.4% (c/A)
要介護2 (d)	230	1.6% (d/A)	348	2.2% (d/A)	479	2.9% (d/A)
要介護3 (e)	172	1.2% (e/A)	307	1.9% (e/A)	439	2.6% (e/A)
要介護4 (f)	214	1.5% (f/A)	281	1.8% (f/A)	382	2.3% (f/A)
要介護5 (g)	221	1.5% (g/A)	298	1.9% (g/A)	366	2.2% (g/A)
施設入居者数 (C)	—	—	451	2.8% (C/A)	511	3.2% (C/A)
特別養護老人ホーム (g)	—	—	254	1.6% (g/A)	290	1.8% (g/A)
老人保健施設 (h)	—	—	195	1.2% (h/A)	211	1.3% (h/A)
療養型医療施設 (i)	—	—	2	0.0% (i/A)	10	0.1% (i/A)



出典: 須賀川市第5次高齢者福祉計画・第4期介護保険事業計画※ 平成12年は、長沼、岩瀬地区を含む

【要介護となった原因】

要介護になった原因として1位は脳血管疾患によるものです。



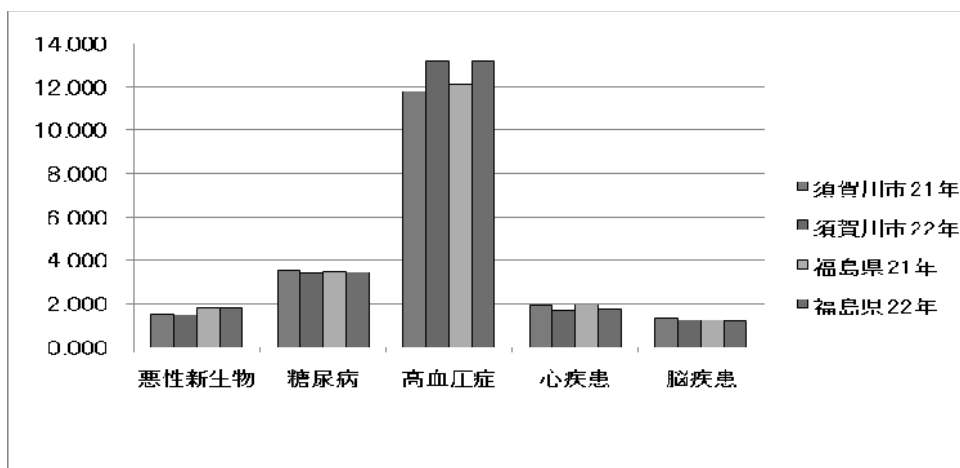
出典:須賀川市第5次高齢者福祉計画・第4期介護保険事業計画

7 国民健康保険の状況(平成22年5月分国保加入者:74才まで)

受診率、1人当たり診療費ともに高血圧は上位にあります。

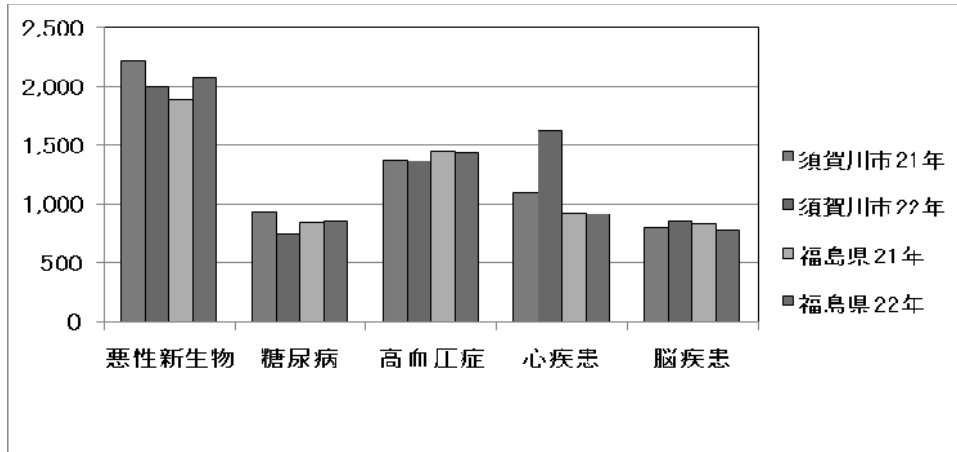
悪性新生物は1人当たり診療費で1位となっています。

(1) 受診率



		悪性新生物	糖尿病	高血圧症	心疾患	脳疾患
須賀川市	21年	1,529	3,557	11,771	1,900	1,355
	22年	1,461	3,410	13,168	1,659	1,253
福島県	21年	1,812	3,478	12,120	1,980	1,219
	22年	1,817	3,433	13,205	1,774	1,210

(2) 1人当り診療費(円)



		悪性新生物	糖尿病	高血圧症	心疾患	脳疾患
須賀川市	21年	2,223	939	1,377	1,104	801
	22年	2,003	744	1,372	1,623	861
福島県	21年	1,884	846	1,456	927	829
	22年	2,077	859	1,435	920	779

出典：福島県国民健康保険疾病分類統計

(3) 疾病分類別(中分類)上位10位

件数、金額ともに高血圧が1位となっています。また、歯科に関する件数、金額が上位に入っています。

件数				件数			
21年				22年			
順位	中分類		件数	順位	中分類		件数
1	0901	高血圧性疾患	2,763	1	0901	高血圧性疾患	3,047
2	1102	歯肉炎及び歯周疾患	1,102	2	1102	歯肉炎及び歯周疾患	1,364
3	0402	糖尿病	835	3	0402	糖尿病	789
4	0403	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	704	4	0403	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	701
5	0704	その他の眼及び付属器の疾患	643	5	0704	その他の眼及び付属器の疾患	485
6	1905	その他の損傷及びその他の外因の影響	530	6	1905	その他の損傷及びその他の外因の影響	447
7	1103	その他の歯及び歯の支持組織の障害	462	7	0702	白内障	414
8	1101	う蝕	421	8	1101	う蝕	394
9	1202	皮膚炎及び湿疹	376	9	1010	喘息	377
10	1005	急性気管支炎及び急性細気管支炎	352	10	1103	その他の歯及び歯の支持組織の障害	373

第2章 須賀川市民の健康の状況

金 額				金 額			
21年				22年			
順位	中分類		円	順位	中分類		円
1	0901	高血圧性疾患	32,314,000	1	0901	高血圧性疾患	31,742,000
2	1402	腎不全	28,554,000	2	0902	虚血性心疾患	29,674,000
3	0503	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	25,179,000	3	0503	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	27,068,000
4	0402	糖尿病	22,037,000	4	1402	腎不全	23,792,000
5	0902	虚血性心疾患	19,215,000	5	1102	歯肉炎及び歯周疾患	19,723,000
6	0210	その他の悪性新生物	19,042,000	6	1112	その他の消化器系の疾患	17,398,000
7	1102	歯肉炎及び歯周疾患	15,515,000	7	0402	糖 尿 病	17,213,000
8	0211	良性新生物及びその他の新生物	12,126,000	8	0210	その他の悪性新生物	15,781,000
9	0906	脳梗塞	10,541,000	9	1303	脊椎障害(脊椎症を含む)	9,754,000
10	1112	その他の消化器系の疾患	8,866,000	10	0403	その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	9,109,000

出典：福島県国民健康保険疾病分類統計



(第1回市民懇話会開催の様子)

第2節 健康の現状と課題



1 領域1 栄養・食生活と歯

ライフステージ	市民の健康の現状と課題	現状値
乳幼児期 (0歳～就学前の親子)	朝食を欠食する幼児がいます。	1～5歳 3.3%
	子どもの栄養バランスを考えていない親がいます。	1～5歳親 28.0%
	3歳で虫歯のある子どもがいます。	3歳 35.2%
学童期 (6～12歳)	朝食を欠食する児童がいます。	小5 0.5%
	一人で食事をする児童がいます。	小5 4.6%
	歯肉の治療が必要な小学生がいます。	1.5%
思春期 (13～19歳)	朝食の欠食率が小学生と比較して高くなります。	中1 4.1% 高3 13.8%
	一人で食事をする割合も、小学生と比較して高くなります。	中1 6.7% 高3 20.8%
	栄養バランスを考える高校生の割合は、中学生と比較して低くなります。	中1 61.0% 高3 34.7%
	歯肉の治療が必要な中学生がいます。	5.0%
青年期 (20～39歳)	20歳代女性のやせの割合が高くなっています。	20歳代女性 22.9%
	20歳代の朝食欠食率が高くなっています。	20歳代男性 30.9% " 女性 23.0%
	栄養のバランスのとれた食生活を送っている男女の割合に差があります。	30歳代男性 35.4% " 女性 63.2%
	歯肉炎、歯周疾患の治療件数が第2位です。	国保医療費調べより
壮年期 (40～64歳)	40～60歳代の男性の肥満者が5年前と比較し増えています。	H17 30.2% H22 33.9%
	栄養のバランスのとれた食生活を送っている男女の割合に差があります。	50歳代男性 40.0% " 女性 65.4%
	歯肉炎、歯周疾患の治療件数は第2位です。	国保医療費調べより
高齢期 (65歳～)	たんぱく質を多く含む食品を毎日食べていない高齢者がいます。	17.3%

1 やせ、肥満等について

<子ども>

(1) 標準体重児

年度	H14	H18	H22	H14/H22 比較
小5	52.8%	54.8%	56.4%	↑
中1	54.7%	51.9%	46.2%	↓
高3	78.1%	—	65.3%	↓

小5で増えていますが、中1、高3で減少しています。中1でやせの割合が増えています。

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

(2) 児童・生徒 やせ、肥満状況

ローレル指数（高校生はBMI）

H22	やせ	ふつう	肥満
小5	25.6%	56.4%	14.4%
中1	31.8%	46.2%	14.9%
高3	17.9%	65.3%	13.3%

ローレル指数とは、学童の体格を表す指標として使われます。
 $(\text{体重(kg)} / \text{身長(cm)}^3) \times 10^7$

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

<成人>

(1) 成人肥満者（BMI）

40～69歳	H13	H17	H22	H13/H22 比較
男性	30.2%	30.2%	33.9%	↑
女性	25.7%	24.5%	21.5%	↓

成人女性の肥満者の割合は減少していますが、成人男性は増加しています。

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

(2) 年代別

H22		やせ	ふつう	肥満
20～29歳	男性	10.9%	65.5%	23.6%
	女性	22.9%	56.3%	11.5%
30～39歳	男性	2.5%	64.6%	31.6%
	女性	15.4%	73.5%	9.4%
40～49歳	男性	1.1%	73.9%	23.9%
	女性	4.9%	76.4%	16.3%
50～59歳	男性	0.8%	63.8%	33.8%
	女性	2.5%	69.2%	27.0%
60～69歳	男性	1.1%	58.5%	38.8%
	女性	4.4%	73.0%	20.1%

20歳代女性にやせの割合が多くみられます。

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

2 朝食摂取について

(1) 児童・生徒 朝食摂取状況

年度	H14	H18	H22	H14/H22 比較
1～5歳 (H14、18は4～6歳)	81.3%	88.0%	91.5%	↑
小5	92.0%	94.0%	95.9%	↑
中1	89.7%	82.4%	89.2%	↓
高3	71.5%	63.3%	72.3%	↑

朝食の摂取者の割合は増えていきます。

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

(2) 朝食摂取状況 (年代別比較)

H22		必ず食べる	週に4～5日食べる	週に2～3日食べる	ほとんど食べない
1～5歳		91.5%	4.6%	2.1%	1.2%
小5		95.9%	3.6%	0.5%	0.0%
中1		89.2%	6.7%	3.1%	1.0%
高3		72.3%	13.9%	4.6%	9.2%
20～29歳	男性	60.0%	7.3%	10.9%	20.0%
	女性	57.3%	18.8%	6.3%	16.7%
30～39歳	男性	62.0%	10.1%	7.6%	19.0%
	女性	73.5%	9.4%	6.8%	8.5%
40～49歳	男性	64.8%	13.6%	3.4%	15.9%
	女性	82.1%	6.5%	4.1%	6.5%
50～59歳	男性	82.3%	3.1%	5.4%	6.2%
	女性	85.5%	4.4%	1.3%	5.7%
60～69歳	男性	92.3%	1.1%	1.1%	1.1%
	女性	91.8%	2.5%	1.9%	0.6%

20歳代男女に朝食を食べない割合が多く、女性に比べ男性の割合が多くみられます。年代が高くなるにつれ摂取率は高くなっています。

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

3 児童・生徒の食事方法について

(1) 1日のうちで、一人で食事することがない割合

年度	H14	H18	H22	H14/H22 比較
小5	91.7%	94.3%	85.6%	↓
中1	82.3%	70.4%	70.3%	↓
高3	58.5%	52.5%	48.0%	↓

一人で食事をする割合が増えています。年齢が高くなるにつれ一人で食事をする割合が高くなっている傾向

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

(2) 1日のうちで、1人で食事をすることの頻度

H22	毎日ある	週2～3回ある	ほとんどない
小5	4.6%	9.7%	85.6%
中1	6.7%	23.1%	70.3%
高3	20.8%	31.2%	48.0%

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

年齢が高くなるほど1人で食事をすることの頻度が高くなっています。

4 栄養バランスや実践していることについて

〈子ども〉

(1) 栄養のバランスを考えている親

年度	H14	H18	H22	H14/H22 比較
1～5歳 (H14、18は4～6歳)	66.6%	75.4%	72.0%	↑

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

(2) 栄養バランスを考えている子ども

年度	H14	H18	H22	H14/H22 比較
中1	24.1%	—	61.0%	↑
高3	17.1%	—	34.7%	↑

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

栄養のバランスを考えている親、子どもの割合は増えています。

(3) 好き嫌いのある子ども

年度	H14	H18	H22	H14/H22 比較
小5	73.4%	75.7%	70.8%	↓

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

好き嫌いのある子どもの割合は減っています。



<成人>

(1) 食育について実践していること(複数回答)

H22		栄養バランスのとれた食生活	より安全な食品の購入	食料自給状況に関する理解の向上	農業生産・加工活動への参加
20～29歳	男性	32.7%	23.6%	7.3%	7.3%
	女性	42.7%	33.3%	5.2%	1.0%
30～39歳	男性	35.4%	26.6%	3.8%	5.1%
	女性	63.2%	49.6%	11.1%	5.1%
40～49歳	男性	43.2%	42.0%	11.4%	6.8%
	女性	59.3%	48.8%	8.1%	4.1%
50～59歳	男性	40.0%	35.4%	14.6%	6.9%
	女性	65.4%	64.2%	14.5%	7.5%
60～69歳	男性	45.9%	43.7%	15.8%	8.2%
	女性	66.7%	66.7%	24.5%	6.3%

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

実践していることに年代差、男女差がみられます。食料自給状況、農業生産・加工活動への参加の割合は低くなっています。

市民懇話会での声

安心安全な地元産のお米や野菜を食べてほしい！

～ 歯 ～

< 1～5歳児 >

1 むし歯のある子ども

年度	H14	H18	H21	H14/H21比較
むし歯のある3歳児	46.2%	42.8%	31.6%	↓

出典：3歳児健康診査

3歳児のむし歯保有者の割合は、減少しています。仕上げみがきをしている親、おやつ時間をきめている親、フッ素塗布を受けたことのある子どもの割合が増えています。

2 仕上げみがきを毎日する親

年度	H14	H18	H22	H14/H22比較
1～5歳 (H14、18は4～6歳)	46.8%	55.0%	71.6%	↑

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

市民懇話会での声

ダラダラとおやつをあげているのがむし歯の原因かな？

3 おやつ時間を決めている親

年度	H14	H18	H22	H14/H22比較
1～5歳 (H14、18は4～6歳)	55.9%	54.8%	69.2%	↑

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

4 フッ素塗布を受けたことのある子ども

年度	H14	H18	H22	H14/H22 比較
1～5歳 (H14、18は4～6歳)	43.8%	46.6%	56.4%	↑

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

< 12歳児 >

1 1人平均う歯数

年度	H14	H18	H21	H14/H21 比較
12歳児 平均本数	4歯	2.6歯	1.4歯	↓

出典：福島県歯科保健情報システム集計結果

2 歯肉の状況

H22	小学校	中学校
歯肉の治療の必要な割合	1.5%	5.0%

出典：小・中学校養護教諭への健康に関する調査

小・中学校養護教諭への健康に関する調査では、12歳児のう歯保有者の割合は目標値である2歯以下を下回っています。歯肉の治療の必要な児童・生徒のいることがわかりました。

< 成人 >

1 進行した歯周炎のある人

40歳	H13	H17	H21	H13/H21 比較
男性	42.1%	64.7%	25.6%	↓
女性	—	—	22.2%	—

出典：歯周疾患検診

2 自主的に歯科検診を受けている人

年度	H13	H17	H22	H13/H22 比較
男性	13.2%	16.1%	19.5%	↑
女性	16.8%	18.2%	29.0%	↑

出典：健康と生活習慣に関するアンケート



3 自分の歯を有する人

55～64歳	H13	H17	H22	H13/H22 比較
男性	46.0%	39.0%	44.6%	↓
女性	37.0%	37.1%	47.3%	↑

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

歯肉炎のある人は減少し、自主的に歯科検診を受ける人、55～64歳で24歯以上保有者の割合も増えています。

< 歯みがきの状況 >

1日あたりの歯をみがく頻度

H22		3回 みがく	2回 みがく	1回 みがく	みがかない 日がある
小5		68.7%	26.7%	4.1%	0.5%
中1		35.9%	54.4%	6.7%	2.6%
高3		15.6%	65.9%	15.0%	3.5%
20～29歳	男性	14.5%	41.8%	30.9%	9.1%
	女性	30.2%	55.2%	12.5%	2.1%
30～39歳	男性	11.4%	58.2%	22.8%	3.8%
	女性	31.6%	56.4%	10.3%	0.9%
40～49歳	男性	12.5%	43.2%	38.6%	5.7%
	女性	19.5%	59.3%	18.7%	1.6%
50～59歳	男性	19.2%	33.1%	34.6%	6.2%
	女性	27.0%	54.7%	12.6%	3.1%
60～69歳	男性	13.7%	34.4%	42.6%	6.6%
	女性	23.3%	54.7%	16.4%	1.3%

1日3回みがくの
は、小5の割合が
多く、世代別、男
女別で、差がみ
られました。

出典：健康と生活習慣に関するアンケート



(市民懇話会 領域1の様子)

2 領域2 身体活動・運動



ライフステージ	市民の健康の現状と課題	現状値
学童期 (6～12歳)	帰宅後や休日に体を動かすことがいつもある小学5年生は5割以下です。	小5 43.6%
思春期 (13～19歳)	運動をしていない中学生・高校生がいます。	中1 7.7% 高3 35.8%
青年期 (20～39歳)	運動している人は約2割です。	男性 19.0% 女性 18.0%
壮年期 (40～64歳)	運動している人は増えていますが、まだ3割程度です。	男性 29.0% 女性 30.0%
高齢期 (65歳～)	転倒の経験がある人は減少していますが、2割強はいます。	男性 20.2% 女性 24.6%

1 運動について

(1) 帰宅後や休日から体を動かす小学生

年度	H14	H18	H22	H14/H22 比較
小5	58.9%	43.5%	43.6%	↓

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

(2) 運動をしていない中・高校生

年度	H14	H18	H22	H14/H22 比較
中1	8.3%	6.1%	7.7%	↓
高3	37.7%	38.8%	35.8%	↓

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

から体を動かす小学生、運動をしていない中高生はどちらも減少しています。

(3) 運動習慣者

年度		H12	H17	H22	H12/H22 比較
20歳代	男性	—	—	20.0%	—
	女性	—	—	24.0%	
30歳代	男性	—	—	19.0%	—
	女性	—	—	13.7%	
40歳代	男性	22.4%	20.1%	19.3%	↓
	女性	22.5%	23.7%	18.7%	↓
50歳代	男性	25.3%	26.3%	29.2%	↑
	女性	28.3%	20.6%	32.1%	↑
60歳代	男性	37.5%	43.3%	47.0%	↑
	女性	38.2%	36.6%	53.5%	↑
65歳～	男性	—	—	54.6%	—
	女性	—	—	64.3%	

50歳以上の運動習慣者の割合が増加しています。
※ 運動習慣者とは週2回以上運動をしている人

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

2 転倒経験者

年度	H12	H17	H20	H12/H20 比較
男性	15.5%	21.5%	20.2%	↑
女性	22.5%	29.5%	24.6%	↑

出典：H12大東地区75歳以上を対象に調査
出典：H17第3期介護保険事業アンケート調査
出典：H20第4期介護保険事業アンケート調査

転倒経験者は平成17年度と比較して減少していますが、平成12年に比較すると増加しています。

親も仕事が忙しく、外で一緒に遊べなくなっているね。



(市民懇話会 領域2の様子)

3 領域3 疾病予防(メタボリック・がん・感染症)



ライフステージ	市民の健康の現状と課題	現状値
乳幼児期 (0歳～就学前の親子)	麻しん風しん混合(MR)予防接種を実施していない子どもがいます。	91.1%
青年期 (20～39歳)	高血圧の要医療、要指導者が増加しています。 (基本健康診査)	H19:5.6%
壮年期 (40～64歳)	高血圧の要医療、要指導者が増加しています。 (基本健康診査)	H19:29.5%
	血糖値の要医療、要指導者が増加しています。 (基本健康診査)	H19:10.5%
	特定健康診査、特定保健指導が実施計画で定めている数値目標に達していません。(法定報告データ:総計)	
	特定健康診査(H21目標:50%)	H21:36.7%
	特定保健指導(H21目標:30%)	H21:20.1%
	高血圧性疾患受診率が増加しています。 (国民健康保険疾病統計)	H19.5月分 17.6%
高齢期 (65歳～)	がん健診の受診率が減少してます	
	胃がん検診	H21:13.8%
	結核・肺がん検診	H21:32.2%
	大腸がん検診(男性のみ)	H21:13.0%
高齢期 (65歳～)	高血圧の要医療、要指導者が増加しています。 (基本健康診査)	H19:47.9%
	血糖値の要医療、要指導者が増加しています。 (特定健康診査)	H19:16.6%

1 「**血圧**」要指導・要医療者比率の増減状況(基本健康診査)

	H15			H19			H15/H19 比較
	受診者数	該当者数	比率	受診者数	該当者数	比率	
青年期(30～39歳)	905	38	4.2%	958	54	5.6%	↑
壮年期(40～64歳)	4,102	1,088	26.5%	4,547	1,343	29.5%	↑
高齢期(65歳～)	3,730	1,705	45.7%	4,818	2,310	47.9%	↑
計	8,737	2,831	32.4%	10,323	3,707	35.9%	↑

出典:基本健康診査データ

平成15年度に比べると「血圧」要指導・要医療者の割合が増加しています。

2 「**血糖値**」要指導・要医療者比率の増減状況 (基本健康診査)

	H15年			H19			H19/H15 比較
	受診者数	該当者数	比率	受診者数	該当者数	比率	
青年期(30～39歳)	905	12	1.3%	958	8	0.8%	↓
壮年期(40～64歳)	4,094	335	8.2%	4,547	476	10.5%	↑
高齢期(65歳～)	3,719	491	13.2%	4,818	798	16.6%	↑
計	8,718	838	9.6%	10,323	1,282	12.4%	↑

出典:基本健康診査データ

年代が高くなるにつれ「血糖値」要指導・要医療者の割合が増加しています。



(市民懇話会 領域3の様子)

～特定健康診査・特定保健指導の目標値と実績～

3 特定健康診査・特定保健指導の実施状況

目標値

	H20	H21	H22	H23	H24
国民健康保険被保険者推計(人)	16,123	16,021	15,920	15,820	15,720
特定健康診査受診率	45%	50%	55%	60%	65%
特定保健指導実施率	25%	30%	35%	40%	45%
内臓脂肪症候群該当者 予備軍減少率(平成20年度基準)		1.7%減少	3.7%減少	7.3%減少	10.8%減少

実績

出典：須賀川市特定健康診査等実施計画

	20年度			21年度		
	男	女	総数	男	女	総数
健診対象者数(人)	7,311	7,190	14,501	7,370	7,228	14,598
健診受診者数(人)	2,383	3,116	5,499	2,334	3,029	5,363
健診受診率(%)	32.6%	43.3%	37.9%	31.7%	41.9%	36.7%

受診率は目標に達していません。平成21年度は前年度に比べ減少しています。特に、男性の減少が大きくなっています。

【年齢別特定健康診査診受診状況】

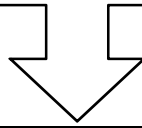
20年度	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～74歳	総数
健診対象者数(人)	1,989	3,984	5,717	2,811	14,501
健診受診者数(人)	475	1,195	2,513	1,316	5,499
健診受診率(%)	23.9%	30.0%	44.0%	46.8%	37.9%

21年度	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～74歳	総数
健診対象者数(人)	2,065	3,725	5,992	2,816	14,598
健診受診者数(人)	469	1,082	2,539	1,273	5,363
健診受診率(%)	22.7%	29.0%	42.4%	45.2%	36.7%

年齢別では、年齢が高くなるにつれ受診率は高くなっています。また、男性に比べ女性の受診率は高くなっています。年代別の受診率は、40～49歳が前年に比較し高くなっていますが、その他の年代では減少しています。

【内臓脂肪症候群及び予備群出現率 20年度 21年度】

内臓脂肪症候群及び予備群出現率においては、年齢が高くなるにつれ出現率は高く、男性は、約半数を占めています。平成20年度に比較し21年度は出現率が減少しています。



年度	H20			H21		
	男	女	総数	男	女	総数
評価対象者数(人)	2,383	3,116	5,499	2,334	3,029	5,363
内臓脂肪症候群 該当者数(人)	655	380	1,035	647	319	966
内臓脂肪症候群 予備群該当者数(人)	532	311	843	485	250	735
メタボ該当& 予備群該当者割合(%)	49.8%	22.2%	34.2%	48.5%	18.8%	31.7%

【年齢別】

H20	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～74歳	総数
評価対象者数(人)	475	1,195	2,513	1,316	5,499
内臓脂肪症候群 該当者数(人)	46	192	496	301	1,035
内臓脂肪症候群 予備群該当者数(人)	72	178	372	221	843
メタボ該当& 予備群該当者割合(%)	24.8%	31.0%	34.5%	39.7%	34.2%



H21	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～74歳	総数
評価対象者数(人)	469	1,082	2,539	1,273	5,363
内臓脂肪症候群 該当者数(人)	44	154	484	284	966
内臓脂肪症候群 予備群該当者数(人)	66	134	343	192	735
メタボ該当& 予備群該当者割合(%)	23.5%	26.6%	32.6%	37.4%	31.7%

【特定保健指導実施状況 20年度】

年齢構成	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～74歳	総数
特定保健指導 対象者数(人)	112	300	429	184	1,025
特定保健指導 利用者数(人)	13	59	90	39	201
特定保健指導 終了者数(人)	8	51	58	22	139
特定保健指導 利用者割合(%)	11.6%	19.7%	21.0%	21.2%	19.6%
特定保健指導 終了者割合(%)	7.1%	17.0%	13.5%	12.0%	13.6%

【特定保健指導実施状況 21年度】

	40～49歳	50～59歳	60～69歳	70～74歳	総数
特定保健指導対象者数(人)	111	207	418	154	890
特定保健指導利用者数(人)	16	34	85	28	163
特定保健指導終了者数(人)	15	39	94	31	179
特定保健指導利用者割合(%)	14.4%	16.4%	20.3%	18.2%	18.3%
特定保健指導終了者割合(%)	13.5%	18.8%	22.5%	20.1%	20.1%

4 がん検診受診率

区分	H17	H18	H19	H20	H21	H17/H21比較
胃がん検診	14.0%	14.4%	14.8%	14.4%	13.8%	↓
肺がん検診	41.0%	42.0%	42.4%	35.7%	32.2%	↓
大腸がん検診	10.3%	11.1%	11.8%	11.6%	12.5%	↑
子宮がん検診	28.8%	27.7%	30.6%	31.6%	28.4%	↓
乳がん検診	20.4%	23.3%	27.1%	28.7%	32.7%	↑

出典：福島県生活習慣病検診等管理指導協議会資料

乳がん検診受診者の割合は増えていますが、その他の検診は横ばいあるいは減少傾向にあります。

市民懇話会での声

受診率をあげるには、お知らせの方法の工夫が必要かな？

5 各がん検診精検受診率年次推移

がん種別	H15	H16	H17	H18	H19	H20
肺がん	76.5%	74.6%	72.2%	82.5%	79.7%	77.9%
胃がん	89.1%	84.7%	88.0%	89.0%	84.9%	88.7%
大腸がん	73.2%	71.5%	77.7%	82.5%	79.3%	76.8%
子宮がん	95.8%	95.8%	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%
乳がん	87.9%	94.5%	79.3%	95.7%	83.1%	76.9%

出典：福島県生活習慣病検診等管理指導協議会資料

(福島県健康増進課調べ)

精密検査の受診率が100%になっていません。

5 インフルエンザ予防接種の年度別接種率推移(65歳以上の高齢者等)

年度		H17	H18	H19	H20	H21	H17/H22 比較
接種率	65歳以上	58.5%	58.7%	62.7%	65.5%	60.9%	↑
	60～65歳未満	22.7%	17.4%	35.0%	30.0%	44.7%	↓
	計	58.3%	58.5%	62.6%	65.3%	60.9%	↑

出典:保健事業概況

6 乳幼児予防接種の年度別接種率推移

年度	H17	H18	H19	H20	H21	比較
ポリオ	93.1%	94.2%	88.4%	96.9%	96.2%	↑
BCG	96.9%	91.5%	98.6%	97.5%	96.4%	↓
麻しん風しん混合	—	—	—	—	—	—
麻しん	106.2%	—	—	—	—	—
風しん	171.4%	—	—	—	—	—
日本脳炎	130.0%	—	—	—	—	—
三種混合	96.5%	95.2%	98.1%	104.8%	98.4%	↑
二種混合	71.8%	78.0%	83.2%	88.5%	88.4%	↑
麻しん風しん混合(3期)	—	—	—	85.3%	89.7%	↑
麻しん風しん混合(4期)	—	—	—	80.7%	82.9%	↑

出典:保健事業概況

※1 BCG予防接種…平成16年度までは、3～48か月児を対象にツベルクリン反応検査後、BCG接種。

平成17年4月からは、3～6月児未満を対象にBCG接種。

※2 麻しん風しん混合予防接

- ①平成18年4月から2回接種(1期:1～2歳未満、2期:小学校就学1年前の1年間)
- ②平成20年度から5年間に限り、3期(中学1年生)と4期(高校3年生相当)の予防接種を実施。

※3 日本脳炎予防接種

- ①平成17年5月30日以降、厚生労働省の勧告により積極的勧奨を差し控えていた。
- ②平成21年度から乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンが定期1期に使用できるワクチンとして位置付けられる。



(市民懇話会 領域3の様子)

4 領域4 たばこ・アルコール・薬物防止



ライフステージ	市民の健康の現状と課題	現状値
妊娠・出産期	喫煙をしている妊婦がいます。	1～5歳親 5.2%
	飲酒をしている妊婦がいます。	1～5歳親 10.7%
乳幼児期 (0歳～就学前の親子)	空間分煙がされていない家庭があります。	1～5歳親 67.6% (分煙率)
思春期 (13～19歳)	喫煙をしている生徒がいます。	中1男子 0.9% 中1女子 1.1% 高3男子 8.7% 高3女子 1.4%
	飲酒をしている生徒がいます。	中1男子 0.3% 中1女子 0.0% 高3男子 22.7% 高3女子 11.0%
青年期 (20～39歳)	家庭での空間分煙をしている割合が少なくなっています。	20～69歳 45.1% (分煙率)
	多量飲酒者がいます。	20～69歳男性 6.7% 20～69歳女性 2.7%
壮年期 (40～64歳)	家庭での空間分煙をしている割合が少なくなっています。	20～69歳 45.1% (分煙率)
	多量飲酒者がいます。	20～69歳男性 6.7% 20～69歳女性 2.7%
高齢期(65歳～)	家庭での空間分煙をしている割合が少なくなっています。	20～69歳 45.1% (分煙率)
	多量飲酒者がいます。	20～69歳男性 6.7% 20～69歳女性 2.7%

1 妊婦の飲酒・喫煙率

年度	H14	H18	H22	H14/H22 比較
飲酒率	25.1%	17.2%	5.2%	↓
喫煙率	14.2%	9.2%	10.7%	↓

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

飲酒率・喫煙率ともに減少しています。

2 家庭での分煙率

年度	H14	H18	H22	H14/H18 比較
3か月～1歳6か月児	58.4%	63.1%	—	↑
4～6歳	31.1%	46.0%	—	↑
1～5歳	未調査		67.6%	—
20～69歳			45.1%	—

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

分煙率は高くなっている傾向にあります。

市民懇話会での声
家の中では場所
を決めて、たばこ
を吸うといいね

3 中高生の喫煙率

年度	H14	H18	H22	H14/H22 比較
中1 男子	0.0%	0.8%	0.9%	↑
中1 女子	0.0%	0.0%	1.1%	↑
高3 男子	18.1%	16.7%	8.7%	↓
高3 女子	13.9%	5.5%	1.4%	↓

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

中学生は増加、高校生は減少しています。

4 中・高校生の飲酒率

年度	H14	H18	H14/H18 比較
中1 男子	1.8%	0.3%	↓
中1 女子	1.7%	0.0%	↓
高3 男子	26.5%	22.7%	↓
高3 女子	20.9%	11.0%	↓

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

5 多量飲酒者（20～69歳）の割合

年度	H13	H17	H22	H13/H22 比較
男性	15.2%	18.0%	6.7%	↓
女性	0.6%	0.9%	2.7%	↑

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

男性は低くなりました。女性は増加しています。

6 公共の場等での分煙率

年度	H13	H17	H22	H17/H22 比較
市役所(支所)	—	33.3%	100%	↑
小・中学校	—	100.0%	100%	→
体育施設	—	43.8%	100%	↑
地区集会施設	—	13.8%	49.1%	↑
職場	50.1%	49.0%	72.0%	↑

出典：公共施設の分煙化実態調査

市役所、小中学校、体育施設では100%となり、分煙化は各施設ですすみました。



(市民懇話会 領域4の様子)



5 領域5 健やかなこころ・休養

ライフステージ	市民の健康の現状と課題	現状値
妊娠・出産期	妊娠時、幸福感を持ってない母親がいます。	1～5歳親 9.8%
乳幼児期 (0歳～就学前の親子)	虐待をしていると思う親がいます。	1～5歳親 2.4%
	虐待を否定できない親がいます。	1～5歳親 14.9%
学童期 (6～12歳)	ひどく困ったことやつらいと思ったことがある(うつ状態の疑い)子どもがいます。	小5 18.5%
思春期 (13～19歳)	自分のことをあまり好きでない、好きでないという子どもがいます。	中1 38.5%
	ひどく困ったことやつらいと思ったことがある(うつ状態の疑い)子どもがいます。	高3 54.9%
青年期 (20～39歳)	ひどく困ったことやつらいと思ったことがある(うつ状態の疑い)人の割合が高くなっています。	中1 32.3%
	ストレスをととても強く感じる人がいます。	高3 52.6%
壮年期 (40～64歳)	ひどく困ったことやつらいと思ったことがある(うつ状態の疑い)人の割合が高くなっています。	44.3%
		23.3%
高齢期(65歳～)	ひどく困ったことやつらいと思ったことがある(うつ状態の疑い)人の割合が高くなっています。	40～69歳 30.1%



(市民懇話会 領域5の様子)

1 健康だと思う人の割合

年度		H13	H17	H22	H13/H22 比較
40歳代	男性	83.0%	83.5%	89.8%	↑
	女性	89.5%	87.0%	82.1%	↓
50歳代	男性	83.0%	82.4%	77.7%	↓
	女性	82.2%	85.7%	84.9%	↑
60歳代	男性	74.4%	71.9%	71.6%	↓
	女性	72.4%	75.0%	79.2%	↑
70歳以上	男性	64.6%	61.9%	—	—
	女性	60.2%	65.3%	—	—

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

40歳代男性、50歳代女性、60歳代女性で増えています。

2 妊娠時、幸福感を持ってない母親

年度	H14	H18	H22	H14/H18 比較
3か月～1歳6か月児	10.3%	12.7%	—	↑
4～6歳	12.4%	13.1%	—	↑
1～5歳	—	—	9.8%	—

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

市民懇話会での声
精神的に余裕がないと子どもを叱ってしまうようだ。

幸福感を持ってない親は減少傾向にあります。

3 虐待をしていると思う親

年度	H14	H18	H22	H14/H18 比較
3か月～1歳6か月児	0.5%	1.7%	—	↑
4～6歳	7.4%	3.9%	—	↓
1～5歳	—	—	2.4%	—

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

虐待をしていると思う親は減少傾向にあります。

4 自分のことを好き（とても好き、まあまあ好き）と思う子ども

年度	H14	H18	H22	H14/H22 比較
小5	86.7%	68.0%	81.5%	↓
中1	71.9%	61.4%	61.6%	↓
高3	54.5%	41.0%	44.5%	↓

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

自分のことを好きと思う子どもの割合が減っています。

5 最近、ひどく困ったことやつらいと思ったことの有無

H22	はい	いいえ	無回答
小5	18.5%	80.0%	1.5%
中1	32.3%	66.7%	1.0%
高3	52.6%	42.8%	4.6%

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

高3では52.6%がひどく困ったことや、つらいと思ったことがあると答えています。

6 相談相手のいる子ども

年度	H14	H18	H22	H14/H22 比較
小5	79.6%	73.4%	87.2%	↑
中1	89.7%	84.7%	87.2%	↓
高3	87.6%	90.6%	80.3%	↓

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

相談相手がいる子どもは、小学5年生では増えていますが、高校3年生では減少しています。

7 日頃、ストレスを感じるか

H22	とても強く感じる	ある程度感じる	感じない	無回答
中1	17.9%	62.1%	19.5%	0.5%
高3	27.7%	61.3%	8.1%	2.9%
20～39歳	23.3%	66.7%	8.9%	1.1%
40～69歳	14.8%	68.7%	15.8%	0.7%

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

どの年代でもストレスを感じており、特に高3、20～39歳代に多く見られます。

8 ストレスを感じている人の割合

年度		H13	H17	H22	H13/H22 比較
40歳代	男性	88.0%	90.5%	93.2%	↑
	女性	90.4%	90.5%	97.6%	↑
(再掲) とても強く感じる	男性	15.5%	17.6%	15.9%	↑
	女性	15.5%	23.7%	25.2%	↑

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

ストレスを感じている40歳代が増えています。

9 睡眠の足りない人の割合

40歳代	H13	H17	H22	H13/H22 比較
男性	38.0%	46.5%	48.8%	↑
女性	36.7%	46.1%	52.8%	↑

出典：健康と生活習慣に関するアンケート

睡眠の足りない40歳代が増えています。



【第3章】

健康づくりの取り組み

第3章 健康づくりの取り組み

第1節 5つの領域のめざすもの

健康増進計画において設定された5つの領域で、各ライフステージに沿って健康づくりに取り組みます。

領域1 栄養・食生活と歯

◎子どものころからバランスのとれた食生活のための知識の普及

食生活は糖尿病・循環器系疾患・がんなどの疾病と密接な関係にあります。

朝食の欠食をなくし、バランスの良い食事を3食きちんと食べるなど健康で規則正しい食習慣の啓発に努めます。

◎家庭、学校、地域と連携しながら食育の推進

子どものころから食べる、育てる、作るなどの体験は、食物や食事に関する理解を深めます。農業体験などを通じ、食に感謝するところを育むとともに、地元の食材を積極的に使用する地産地消に取り組みながら、家庭、学校、地域と連携し食育を推進します。

◎食べたらみがく習慣、定期健診でむし歯、歯周病予防

歯は食事をするために欠かせないものであるり、会話を楽しむなど、日常生活で大きな役割を担っています。いつまでも自分の歯で食事ができるよう、子どものころから歯みがきを習慣化するとともに、むし歯や歯周病を予防するため、定期健診を受診する意識づけとライフステージに応じた対策を推進します。

領域2 身体活動・運動

◎子どものころから自然に親しみながら、家族・友達・地域の人と楽しく運動できる習慣づくり

子どものころから、体を動かす事の大切さや親子遊びを伝え、誰もが気軽に運動に取り組める習慣づくりを推進します。

◎健康づくりのための運動の知識の普及

日ごろから、体を動かし運動をすることは、生活習慣病の予防となり、高齢者の寝たきりや転倒の予防につながります。運動が習慣化できるよう気軽に取り組める運動やその効果の知識の普及に努めるとともに、仕事や家事など日常生活の中で意識的に体を動かすことの重要性を啓発します。

◎「身体機能が低下しても運動！」の意識の普及

高齢や疾病等により身体機能や生活機能が低下しても、日常生活の維持や生活の質の向上のために自分の体力に合わせた運動の継続をすすめます。

領域3 疾病予防（メタボリック・がん・感染症）

◎健康は自分で守るという意識づくり

一次予防の推進を図る観点からも、健康は自分で守るという意識を持ち、意欲的に健康づくりに取り組むことができるよう、健康相談や各種健康教室等を実施するとともに、かかりつけ医を持つことの大切さを啓発します。

◎健（検）診を受けて早期発見・早期治療

ライフステージに沿った健康診査やがん検診、予防接種の重要性の啓発を、広報紙や訪問指導、相談、健康教育などを通じて情報の提供に努めます。

また、市民が受診しやすい体制づくりに努めます。

◎メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）に注目した生活習慣病対策の推進

メタボリックシンドローム（内臓脂肪症候群）の概念を導入した健全な生活習慣の普及を推進します。

さらに、健康に関する理解を深め、必要に応じて個人の生活習慣の改善が図られることを目指します。

領域4 たばこ・アルコール・薬物防止

◎喫煙の害と受動喫煙防止の理解促進

喫煙は本人だけでなく、周囲の人の健康にも影響を与えることから、喫煙者本人の禁煙促進だけでなく、受動喫煙防止に向けても取り組んでいきます。

◎節度ある適度な飲酒の理解促進

アルコールは長期間、多量に飲み続けることで健康に悪影響を及ぼすことから、多量飲酒の害と適度な飲酒について理解の促進に努めます。

◎薬物乱用防止についての理解促進

麻薬、覚せい剤等の薬物乱用の危険性についての普及啓発を学校、地域、行政が一体となって取り組んでいきます。

領域5 健やかなこころ・休養**◎安心できる子育て（子どもの虐待防止）ができるサポートづくり**

妊娠から出産、子育てにおいて安心して生活するためには、家族や保育所、幼稚園、学校、医療機関、地域など様々な立場からの協力が必要です。それぞれの立場で「ゆったり子育て」ができるよう支援し、困ったときに対応できるサポートづくりに取り組みます。

◎自己肯定感を高める子育ての支援

子どもの心の安らかな発達のためには、自己肯定感を高めることが必要です。保健事業のあらゆる機会をとらえ親に対して働きかけるとともに、関係機関と連携し自己肯定感を高める取り組みの充実を図ります。

◎ストレスを解消するための環境づくり

心が健康であるということは、いきいきとした生活を送るために重要なことです。

ストレスを軽減するためには睡眠などの休養をとることやストレスと上手につきあうことが求められます。家庭や職場、地域、行政といった周りからの支援がはかれる環境づくりに取り組みます。

◎相談体制の整備

心の健康に問題をかかえている人がいつでも相談できるように相談窓口の周知を図るとともに、適切な相談体制を構築しうつ病や自殺者の減少に取り組みます。



第2節 市民懇話会からの意見

領域1 栄養・食生活と歯

- * 安全・安心な地元産のお米や野菜を食べてほしい。
- * 「毎朝食べよう」「よく噛んでおいしく食べよう」など興味のわくようなキャンペーンをやっていくとよい。
- * 栄養バランスがわかる簡単なパンフレットを作成し、冷蔵庫など、家族の目のつく所に貼っておく。
- * 栄養のバランスがわかるランチョンマットをつくり、家庭で使えるとよい。
- * 飲食店で統一して「須賀川産バランスランチの日」を設けるとよい。
- * 子育て中の保護者や祖父母におやつとむし歯の関係を伝えていく。



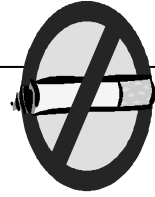
領域2 身体活動・運動

- * 地域で活動している運動チームやサークルの情報がわかるとよい。
- * 親に精神的・時間的な余裕ができ、親子で楽しく身体を動かせるようになるとうい。
- * ゲームで遊ぶ時間が少なくなり、公園で遊ぶ子どもが多くなるとよい。
- * 園庭や校庭を走った距離を、日本地図でどこまで走ったかに置き換え、楽しく走れるような取り組みをする。
- * 家庭・地域・会社等それぞれの環境で、ラジオ体操を行う気運が高まるとよい。
- * 朝・夜・休日等いつでも、近所の人と挨拶を交わしながら歩いてみる。
- * 高齢になっても運動(貯筋)をして、筋力低下を防いでいく。

領域3 疾病予防(メタボリック・がん・感染症)

- * 健診の重要性を機会あるごとに説明するとよい。
- * 健診項目を多くして内容の充実を図る。
- * 健診の受診率アップには、お米などの粗品を渡す、料金を無料にする、健診受診ごとにポイントがたまり、血圧計がもらえるなど特典があるとよい。
- * 地域の人たちが誘いあって健診を受ける。
- * 健診を受けやすいような職場環境をつくっていく。

領域4 たばこ・アルコール・薬物防止



- * 家の中では場所を決めてたばこを吸うとよい。
- * 妊婦さんの前ではたばこを吸わないよう、家族も気をつける。
夫も一緒に禁煙するとよい。
- * たばこを吸っている未成年者には、大人が注意するよう地域で取り組んでいくとよい。
- * 外国並みにたばこの値上げをすると喫煙者が減るのではないか。
- * たばこをやめると1年間で温泉旅行、5年間で海外旅行に行けるほどお金がたまることをPRするとよい。
- * 牡丹の花をモチーフにした分煙ステッカーを各家庭に配布してはどうか。
- * 未成年者の飲酒を防止するには、親が家庭のアルコールの数量を管理すること。

領域5 健やかなこころ・休養

- * すこやかなこころには経済的なゆとりも大事。
- * お互いを思いやる気持ちを養うこと。
- * 子育てサークルなど保護者が集える場所があるとよい。
- * 残業が少なく、休暇が取りやすいなど子育てしやすい職場環境が大事。
- * 小さいころからの育て方や子どもへの接し方が大切である。
- * こころの相談ができる場所があるとよい。
- * 地域の中で交流できる場所があり、誘いあって参加できるとよい。
- * 困難を乗り越える力など精神力を養う子育てが大切ではないか。



第2節 ライフステージごとの取り組み

ライフステージ	妊娠出産期
理想の健康な暮らし	皆に祝福され、幸せな妊娠・出産期を送ることができる
領域 1 栄養・食生活と歯	
目 標	自分にあった食事の量を知り、バランスのとれた食生活を送ろう
本人や家族の取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正体重を理解し、体重を測る習慣をつける ・体調にあわせて三食きちんと食べる ・主食、主菜、副菜のバランスのとれた食事をする ・栄養成分表示を参考に料理を選択する ・食に関する情報を見て、安全、安心な食品を選択する <p><家族></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事の準備、後片付けを協力する ・落ち着いた食事ができる環境をつくる
地域・関係機関等の取り組み	<p><医療機関></p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠中の栄養に関する教育や情報を提供する <p><県>「おいしくイキイキ食育プラン」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康、栄養情報を提供する飲食店を普及拡大する ・食の安全を発信する飲食店等の普及をする
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠中の栄養バランスがとれた食生活にむけての教育、情報を提供する
目 標	むし歯・歯肉炎の予防、改善をしよう
本人や家族の取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一口30回噛むよう意識して食べる ・歯ブラシだけでなく、歯科ケア用品(糸ようじや歯間ブラシなど)を利用して歯磨きをする ・歯石除去を受け、歯と歯肉のケアをする ・かかりつけ歯科医をもち歯科健診を行う
地域・関係機関等の取り組み	<p><医療機関></p> <ul style="list-style-type: none"> ・むし歯、歯肉炎予防に関する情報を提供する
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・妊娠中の歯、歯肉のケアに関する情報を提供する


ライフステージ

妊娠出産期

理想の健康な暮らし

皆に祝福され、幸せな妊娠・出産期を送ることができる

領域 2 身体活動・運動

目 標	日常生活の中でできるだけ身体を動かす機会を作ろう	
本人や家族の取り組み	<本人> ・家事や散歩などの日常生活の中で体を動かす	
地域・関係機関等の取り組み	<医療機関> ・妊娠中の運動に関する情報提供や教育を行う	
市の取り組み	・家事や散歩などで体を動かすことの大切さを周知する	

領域 3 疾病予防(メタボリック・がん・感染症)

目 標	妊婦一般健康診査にあわせて、子宮頸がん検診を受けよう	
本人や家族の取り組み	<本人> ・妊婦一般健康診査にあわせて、子宮頸がん検診を受ける <家族> ・検診を受ける環境を整える	
地域・関係機関等の取り組み	<医療機関> ・妊婦一般健康診査にあわせて、子宮頸がん検診を勧奨する	
市の取り組み	・妊婦健康診査にあわせて子宮頸がん検診が受診可能であることを周知する ・定期的に子宮頸がん検診を受ける重要性を伝えていく	

ライフステージ

理想の健康な暮らし

妊娠出産期

皆に祝福され、幸せな妊娠・出産期を送ることができる

領域 4 たばこ・アルコール・薬物防止

目 標	たばこ、アルコールの害を知り、喫煙・受動喫煙、飲酒を避けよう
本人や家族の取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊娠中は禁煙しアルコールを飲まない <p><家族></p> <ul style="list-style-type: none"> ・妊婦の周囲で喫煙をしない ・妊婦にアルコールを勧めない
地域・関係機関等の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域団体に禁煙、分煙活動を推進する ・妊婦の周囲で喫煙をしない ・妊婦にアルコールを勧めない ・産科医院による、専門的な教育を行う
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・たばこ、アルコールについての正しい知識の普及啓発を行う

領域 5 健やかなこころ・休養

目 標	親がゆとりを持って楽しく子育てしよう 家族が協力しながら子育てしよう 地域で子育てを支援しよう
本人や家族の取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人で悩まず相談する ・積極的に交流の場に参加する ・夫婦、家族がお互いに思いやりの心を持つ <p><家族></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族が親身になって相談にのる ・家族が協力して子育てをする ・家族が子どもを大切に思う気持ちを伝える、笑顔で接する
地域・関係機関等の取り組み	<p><地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流ができる場をつくる、交流の場に誘う ・地域で子育てを支援する(声かけ、あいさつ等) <p><職場></p> <ul style="list-style-type: none"> ・働きやすい職場づくり(休暇がとりやすい、就業時間の短縮)に取り組む
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・母子保健サービスや仲間づくり、交流の場の周知をする ・相談できる窓口を周知する ・妊娠、出産、子育てに関する知識の普及を行う

ライフステージ

乳幼児期(0～就学前の親子)

理想の健康な暮らし

親や家族の愛情を受けて、子供が健やかに成長できる
親は安心して子育てができる

領域 1 栄養・食生活と歯

目 標	規則正しい生活リズムと食習慣を身につけよう 家族でおいしく食事をしよう
本人や家族の 取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べ物の名前を覚える ・好き嫌いなく食べる ・食事のあいさつをする ・食事のお手伝いをする <p><家族></p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活リズムをつくる ・子どもと朝食を毎日食べる ・うす味で料理を作る ・食事のあいさつをする
地域・関係機関等 の 取り組み	<p><地域、関係機関、食生活改善推進委員会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント等において朝食摂取、地産地消等の普及啓発を行う ・家庭における食育の普及啓発を行う ・農業体験学習や食文化を継承する <p><県>「おいしくイキイキ食育プラン」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所、幼稚園において食育計画作成を支援する
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児の発達段階に応じた栄養教育、相談をする ・朝食摂取についての普及啓発を行う ・保育所、幼稚園等において、栄養教育や農業体験学習をする ・保育所、幼稚園等を通じ、保護者に対し食育に関する知識や「食育月間」、「食育の日」の普及啓発を行う ・保育所給食等を通して地産地消を推進する
目 標	むし歯を予防する習慣をつくろう
本人や家族の 取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分で歯がみがける(3歳児以降) <p><家族></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べたら歯をみがく習慣をつける ・保護者が仕上げみがきをする ・間食は時間と量を決める ・噛む習慣をつけるための調理方法や食材で食事を作る
地域・関係機関等 の 取り組み	<p><医療機関></p> <ul style="list-style-type: none"> ・むし歯予防に関する情報を提供する <p><県・福島県歯科医師会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯の衛生週間を普及する
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・むし歯の早期発見と乳幼児期の発達段階に応じた歯科教育と相談をする ・フッ素によるむし歯予防を推進する ・甘味の適切なとり方の普及啓発を行う ・保育所、幼稚園等において歯科教育をする

ライフステージ

乳幼児期(0～就学前の親子)

理想の健康な暮らし

親や家族の愛情を受けて、子供が健やかに成長できる
親は安心して子育てができる

領域 2 身体活動・運動

目 標	家族とふれあいながら、楽しく身体を動かそう
本人や家族の取り組み	<p><本人・家族></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族と一緒に、遊びの中で楽しく身体を動かす ・公園やプール等、屋外で遊ぶ時間を多くする ・公民館事業や運動関連施設のイベント等を積極的に利用する ・スポーツの練習や試合等を見せて、小さい頃からスポーツに触れる機会を作る
地域・関係機関等の取り組み	<p><地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子で行う遊びや、体操をする機会を設ける ・身体を使った遊びや運動に関するイベント等の情報提供や参加の声かけをする
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の効果と方法、また運動できる場所についての情報を提供する ・スポーツに関する大会やイベント等を開催する

領域 3 疾病予防(メタボリック・がん・感染症)

目 標	規則正しい生活習慣を身につけ、病気への抵抗力をつけよう
本人や家族の取り組み	<p><家族></p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症の予防について、正しい知識を学ぶ ・予防接種の必要性や効果、副反応についてよく理解し、子どもに予防接種を受けさせる
地域・関係機関等の取り組み	<p><医療機関></p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染症の予防や予防接種について、正しい知識を普及する
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防に対する正しい知識の普及啓発を行う ・予防接種に対する正しい知識の普及啓発及び接種勧奨を行う

ライフステージ

乳幼児期(0～就学前の親子)

理想の健康な暮らし

親や家族の愛情を受けて、子供が健やかに成長できる
親は安心して子育てができる

領域 4 たばこ・アルコール・薬物防止

目 標	たばこ・アルコール・薬物の害を知り、喫煙・受動喫煙、飲酒を避けよう
本人や家族の取り組み	<家族> 子どものいるところでたばこを吸わない
地域・関係機関等の取り組み	・地域団体に禁煙、分煙活動を推進する
市の取り組み	・たばこ、アルコール・薬物についての正しい知識の普及啓発を行う ・禁煙、分煙を推進する(家庭、公共の場等)

領域 5 健やかなこころ・休養

目 標	親がゆとりを持って楽しく子育てしよう 家族が協力しながら子育てしよう 地域で子育てを支援しよう
本人や家族の取り組み	<本人> ・1人で悩まず相談する ・積極的に交流の場に参加する ・夫婦、家族がお互いに思いやりの心を持つ <家族> ・家族が親身になって相談にのる ・家族が協力して子育てをする ・家族が子どもと楽しくふれあう時間を持つ ・家族が子どもを大切に思う気持ちを伝える、笑顔で接する
地域・関係機関等の取り組み	<地域> ・親子、高齢者等が交流できる場をつくる、交流の場に誘う ・地域で子育てを支援する(声かけ、あいさつ等) <職場> ・働きやすい職場づくり(休暇がとりやすい、就業時間の短縮)に取り組む <医療機関> ・休日や夜間に対応できる医療機関がある <社会福祉協議会> ・子育て支援に取り組む(ファミリーサポート事業等)
市の取り組み	・母子保健サービスや仲間づくり、交流の場の周知をする ・相談できる窓口を周知する ・子育てに関する知識の普及を行う ・地域の子育て支援者を育成する ・訪問等により子育ての相談を行う ・地域で交流事業が取り組めるように支援する


ライフステージ

学童期(6～12歳)

理想の健康な暮らし

健やかに成長し楽しく学校生活を送ることができる

領域 1 栄養・食生活と歯

目 標	正しい食習慣を身につけよう 旬や特産品を知り、おいしく食べよう
本人や家族の 取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・早寝早起きをして、朝食を毎日食べる ・好き嫌いなく食べる ・食事のあいさつをする ・食事の準備、後片付けをする <p><家族></p> <ul style="list-style-type: none"> ・規則正しい生活リズムをつくる ・子どもと朝食を毎日食べる ・主食、主菜、副菜がそろった食事作りをする ・地元でとれた食材を使った料理や郷土料理を作る ・親子で料理を作る時間をもつ 
地域・関係機関等 の 取り組み	<p><地域、関係機関、食生活改善推進委員会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント等において朝食摂取、地産地消等の普及啓発を行う ・家庭における食育の普及啓発を行う ・農業体験学習や食文化を継承する <p><県>「おいしくイキイキ食育プラン」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食」と「農」に関する体験学習を支援する
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食摂取についての普及啓発を行う ・学校の食育計画に基づき食育、農業体験等を推進する ・学校を通じ、保護者に対し食育に関する知識や「食育月間」、「食育の日」等の普及啓発をする ・学校給食を通して地産地消を推進する
目 標	むし歯を予防する正しい習慣を身につけよう
本人や家族の 取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べたら歯をみがく習慣をつける ・一口30回噛むように食べる ・間食は時間と量を決める <p><家族></p> <ul style="list-style-type: none"> ・フッ化物配合歯みがき剤を利用する ・噛む習慣をつけるための調理方法や食材で食事を作る
地域・関係機関等 の 取り組み	<p><須賀川歯科医師会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康な歯の児童を表彰する <p><医療機関></p> <ul style="list-style-type: none"> ・むし歯予防に関する情報を提供する <p><県、福島県歯科医師会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯の衛生週間を普及する
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・学校において、むし歯、歯肉炎の早期発見と歯科保健教育を充実させる ・学校を通じ、保護者に対しむし歯、歯肉炎予防、甘味の適切なとり方、噛む習慣についての普及啓発をする ・学校給食において、噛みごたえのある献立を実施する


ライフステージ

学童期(6~12歳)

理想の健康な暮らし

健やかに成長し楽しく学校生活を送ることができる

領域 2 身体活動・運動

目 標	自然に親しみながら家族・友達・地域の人と身体を使った遊びや運動をしよう
本人や家族の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ＜本人＞ <ul style="list-style-type: none"> ・児童クラブ館や校庭で運動をする ・スポーツ少年団、特設クラブ等に入り、積極的に運動する ＜家族＞ <ul style="list-style-type: none"> ・散歩や運動を楽しむ ・健康や運動についての会話を増やす ・身体を使った遊びやスポーツのイベントに参加する 
地域・関係機関等の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ＜地域＞ <ul style="list-style-type: none"> ・ラジオ体操や運動に関するイベントを開催し、交流の場を設ける
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツに関する大会やイベント等を開催する

領域 3 疾病予防(メタボリック・がん・感染症)

目 標	自分の身体に関心を持ち、身体を守るための知識と技術を身につけよう 予防接種をよく理解して、予防接種を受けよう
本人や家族の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ＜本人＞ <ul style="list-style-type: none"> ・自分の健康に関心を持ち、身体を大切にする ・感染症の予防について、正しい知識を学ぶ ・予防接種が感染症を予防するために必要なことを理解する ＜家族＞ <ul style="list-style-type: none"> ・健康を守る生活習慣について子どもと話をする ・予防接種の効果や副反応について理解し、子どもに予防接種を受けさせる
地域・関係機関等の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ＜医療機関＞ <ul style="list-style-type: none"> ・感染症の予防や予防接種について正しい知識を普及する
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症予防に対する正しい知識の普及啓発を行う ・予防接種に対する正しい知識の普及啓発及び接種勧奨を行う ・学校で感染症予防(性感染症も含む)の教育を行う

ライフステージ

学童期(6~12歳)

理想の健康な暮らし

健やかに成長し楽しく学校生活を送ることができる

領域 4 たばこ・アルコール・薬物防止

目 標	たばこ・アルコール・薬物の害を知り、喫煙・受動喫煙、飲酒を避けよう
本人や家族の取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・たばこ、アルコール、薬物の害について学ぶ ・たばこを吸ったり、アルコールを飲んだりしない ・たばこ、アルコール、薬物を勧められても断る <p><家族></p> <ul style="list-style-type: none"> ・たばこ、アルコール、薬物の害について話し合う ・家族は子どものいるところではたばこを吸わない ・子どもにたばこ、アルコールを勧めない ・家庭ではアルコールをきちんと管理する(数量の管理)
地域・関係機関等の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域団体で禁煙、分煙活動を推進する ・地域の中でたばこ、アルコール、薬物の正しい知識の普及啓発を行う ・防犯パトロール等の組織で、地域の子どもの声掛け、見守りをしていく
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・たばこ、アルコール、薬物の正しい知識の普及啓発を行う ・禁煙、分煙を推進する(家庭、公共の場等) ・学校でたばこ、アルコール、薬物について教育する

領域5 健やかなこころ・休養

目 標	友だち、家族とのふれあいを大切にしよう 地域で子どもを見守ろう
本人や家族の取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人で悩まず相談する ・積極的に交流の場に参加したり、友達とふれ合う ・思いやりの心を持ち、友だちを大切にする ・夫婦、家族がお互いに思いやりの心を持つ ・趣味、楽しみを持ち、ストレスを解消する <p><家族></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族が親身になって相談にのる ・家族が協力して子育てをする ・家族が子どもと楽しくふれあう時間を持つ ・子どもの言動に耳を傾け、見守る ・家族は子どもを大切に思う気持ちを伝える、笑顔で接する ・子どもに対し精神力を養う育て方をする
地域・関係機関等の取り組み	<p><地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子、高齢者等が交流できる場をつくる、交流の場に誘う ・地域で子育てを支援する(声かけ、あいさつ等) <p><職場></p> <ul style="list-style-type: none"> ・働きやすい職場づくり(休暇がとりやすい、就業時間の短縮)に取り組む <p><医療機関></p> <ul style="list-style-type: none"> ・休日や夜間に対応できる医療機関がある ・心の相談に対応できる医療機関がある
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間づくりや活動できる場の周知をする ・相談できる窓口を周知する ・命の大切さを学ぶ機会を持つ ・学校で精神力を養う教育を行う ・学校で先生が子どもや保護者の相談相手になる

ライフステージ

思春期(13歳～19歳)

理想の健康な暮らし

健康管理をしながら、自立(自律)に向けての技術や知識を習得できる

領域 1 栄養・食生活と歯

目 標	バランスのとれた食事を選択し、正しい食習慣を送ろう 旬や特産品を知り、おいしく食べよう
本人や家族の 取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・早寝早起きをして、朝食を毎日食べる ・栄養のバランスを考え食事をする ・食事のあいさつをする ・食事の準備、後片付け、簡単な料理を作る <p><家族></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1日1回は家族で食事をする ・主食、主菜、副菜がそろった食事作りをする ・地元でとれた食材を使った料理や郷土料理を作る
地域・関係機関等 の 取り組み	<p><地域、関係機関、食生活改善推進委員会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント等において朝食摂取、地産地消等の普及啓発を行う ・農業体験学習や食文化を継承する <p><県>「おいしくイキイキ食育プラン」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「食」と「農」に関する体験学習を支援する
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・朝食摂取についての普及啓発を行う ・学校の食育計画に基づき食育、農業体験等を推進する ・学校を通じ、保護者に対し食育に関する知識や「食育月間」、「食育の日」等の普及啓発をする ・学校給食を通して地産地消を推進する
目 標	むし歯、歯肉炎を予防する正しい習慣を身につけよう
本人や家族の 取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べたら歯をみがく習慣をつける ・一口30回噛むよう意識して食べる <p><家族></p> <ul style="list-style-type: none"> ・フッ化物配合歯みがき剤を利用する ・噛む習慣をつけるための調理方法や食材で食事を作る
地域・関係機関等 の 取り組み	<p><須賀川歯科医師会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康な歯の生徒を表彰する <p><医療機関></p> <ul style="list-style-type: none"> ・むし歯予防に関する情報を提供する <p><県、福島県歯科医師会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯の衛生週間を普及する
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・学校において、むし歯、歯肉炎の早期発見と歯科保健教育を充実させる ・学校を通じ、保護者に対するむし歯、歯肉炎予防、甘味の適切なとり方、噛む習慣についての普及啓発をする ・学校給食において、噛みごたえのある献立を実施する

ライフステージ

思春期(13歳～19歳)

理想の健康な暮らし

健康管理をしながら、自立(自律)に向けての技術や知識を習得できる

領域 2 身体活動・運動

目 標	学校生活や地域の中で楽しく運動をしよう
本人や家族の取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> 積極的にスポーツ等をする(部活動やスポーツクラブ等)
地域・関係機関等の取り組み	<p><地域></p> <ul style="list-style-type: none"> 子ども達のスポーツや部活動に関心を持つ
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> スポーツに関する大会やイベント等を開催する

領域 3 疾病予防(メタボリック・がん・感染症)

目 標	自分の身体を大切にするとともに、相手のことも大切にしよう 予防接種をよく理解し、予防接種を受けよう
本人や家族の取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> 自分の健康に関心を持ち、身体を大切にする 感染症の予防について、正しい知識を学ぶ 予防接種の効果や副反応について理解し、予防接種を受ける <p><家族></p> <ul style="list-style-type: none"> 健康を守る生活習慣について子どもと話をする 予防接種の効果や副反応について理解し、子どもに予防接種を受けさせる
地域・関係機関等の取り組み	<p><医療機関></p> <ul style="list-style-type: none"> 感染症の予防や予防接種について正しい知識を普及する
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 感染症予防に対する正しい知識の普及啓発を行う 予防接種に対する正しい知識の普及啓発及び接種勧奨を行う 学校で感染症予防(性感染症も含む)の教育を行う

ライフステージ

思春期(13歳～19歳)

理想の健康な暮らし

健康管理をしながら、自立(自律)に向けての技術や知識を習得できる

領域 4 たばこ・アルコール・薬物防止

目 標	たばこ・アルコール・薬物の害を知り、喫煙・受動喫煙、飲酒を避けよう
本人や家族の取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・たばこ、アルコール、薬物の害について学ぶ ・たばこを吸ったり、アルコールを飲んだりしない ・たばこ、アルコール、薬物を勧められても断る <p><家族></p> <ul style="list-style-type: none"> ・たばこ、アルコール、薬物の害について話し合う ・家族は子どものいるところではたばこを吸わない ・子どもにたばこ、アルコールを勧めない ・家庭ではアルコールをきちんと管理する(数量の管理)
地域・関係機関等の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域団体に禁煙、分煙活動を推進する ・地域の中でたばこ、アルコール、薬物の正しい知識の普及啓発を行う ・防犯パトロール等の組織で、地域の子どもたちへの声掛け、見守りをしていく
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・たばこ、アルコール、薬物の正しい知識の普及啓発を行う ・禁煙、分煙を推進する(家庭、公共の場等) ・学校でたばこ、アルコール、薬物について教育する

領域 5 健やかなこころ・休養

目 標	友だち、家族とのふれあいを大切にしよう 地域で子どもを見守ろう
本人や家族の取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人で悩まず相談する ・積極的に交流の場に参加したり、友達とふれ合う ・思いやりの心を持ち、友だちを大切にする ・夫婦、家族がお互いに思いやりの心を持つ ・趣味、楽しみを持ち、ストレスを解消する <p><家族></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族が親身になって相談にのる ・家族が協力して子育てをする ・家族が子どもと楽しくふれあう時間を持つ ・子どもの言動に耳を傾け、見守る ・家族は子どもを大切に思う気持ちを伝える、笑顔で接する ・子どもに対し精神力を養う育て方をする
地域・関係機関等の取り組み	<p><地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ・親子、高齢者等が交流できる場をつくる、交流の場に誘う ・地域で子育てを支援する(声かけ、あいさつ等) <p><医療機関></p> <ul style="list-style-type: none"> ・休日や夜間に対応できる医療機関がある ・心の相談に対応できる医療機関がある
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間づくりや活動できる場の周知をする ・相談できる窓口を周知する ・命の大切さを学ぶ機会を持つ ・学校で精神力を養う教育を行う ・学校で先生が子どもや保護者の相談相手になる

ライフステージ

青年期（20～39歳）

理想の健康な暮らし

健康管理をしながら、充実した社会・家庭生活をスタートすることができる

領域 1 栄養・食生活と歯

目 標	自分にあった食事の量を知り、バランスのとれた食生活を送ろう 食物の旬や特産品を知り、日々の生活に取り入れよう
本人や家族の取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正体重を理解し、体重を測る習慣をつける ・朝食を毎日食べる ・主食、主菜、副菜のバランスを考え食事をする ・塩分のとり過ぎに気をつける ・1日1回は家族で食事をする ・栄養成分表示を参考に料理を選択する ・地元でとれた食材を使った料理や郷土料理を作る ・食に関する情報を見て、安全、安心な食品を選択する
地域・関係機関等の取り組み	<p><地域、関係機関、食生活改善推進委員会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント等において朝食摂取、地産地消等の普及啓発を行う ・肥満予防、減塩の普及啓発をする ・食文化を継承する <p><飲食店></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康、栄養情報を提供する <p><県>「おいしくイキイキ食育プラン」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康、栄養情報を提供する飲食店を普及拡大する ・食の安全を発信する飲食店等の普及をする
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランスがとれた食生活にむけての栄養教育、相談をする ・朝食摂取や「食育月間」、「食育の日」の普及啓発をする ・食事バランスガイドを普及する ・飲食店に健康、栄養情報の提供について働きかける ・須賀川産農産物のPRと地産地消を推進する ・食の安全に関する情報の収集と知識を普及する
目 標	歯周病を予防、改善しよう
本人や家族の取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べたら歯をみがく ・フッ化物配合歯みがき剤を利用する ・歯ブラシ、歯科ケア用品（糸ようじや歯間ブラシ等）を利用して歯みがきをする ・かかりつけ歯科医による歯科健診をし、むし歯、歯肉炎の早期発見、早期治療を行う ・一口30回噛むよう意識して食べる
地域・関係機関等の取り組み	<p><医療機関></p> <ul style="list-style-type: none"> ・むし歯、歯肉炎予防に関する情報を提供する <p><県、福島県歯科医師会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯の衛生週間を普及する
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・イベント等において、むし歯、歯肉炎予防の普及啓発をする ・かかりつけ歯科医、自主的な歯科健診について普及啓発する ・噛ミング30（カミングサンマル）運動を普及する

ライフステージ

青年期（20～39歳）

理想の健康な暮らし

健康管理をしながら、充実した社会・家庭生活をスタートすることができる

領域 2 身体活動・運動

目 標	家族や職場、地域の仲間と楽しく運動をしよう 日常生活の中でできるだけ身体を動かす機会を作ろう
本人や家族の取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動の大切さを理解する ・日常生活の中で、意識して積極的に身体を動かす ・定期的に運動を行い、継続する
地域・関係機関等の取り組み	<p><地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に運動する仲間をつくる ・運動に関するイベントを開催し、交流の場を設ける
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の効果と方法、また運動できる場所についての情報を提供する ・スポーツに関する教室やイベント等を開催する

領域 3 疾病予防（メタボリック・がん・感染症）

目 標	健診を受けるなど、自分の健康は自分で守ろう 職場・地域で健康を守ろう
本人や家族の取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康をできるだけ自分で管理する（健康意識の醸成） ・健（検）診を受けることは大事だと感じ、定期的に受ける ・健（検）診結果に興味を持ち、必要に応じて生活習慣を改善する ・感染症予防について正しい知識を持つ <p><家族></p> <ul style="list-style-type: none"> ・若いうちからの健康管理は大事であると伝える ・健（検）診の受診を勧める
地域・関係機関等の取り組み	<p><周囲の人・健康づくり推進員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健（検）診の重要性を伝え、健（検）診の受診をすすめる <p><医療機関></p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談にのりながら、健（検）診の受診をすすめる <p><県></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じた健康づくりを展開する ・安心できる地域医療の提供体制を充実させる <p><地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康を守る上で健（検）診を受けることは大切であると、地域全体で推進する ・地域ごとに、健（検）診を回覧版等で知らせる
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が受診しやすい健（検）診体制及び健（検）診の充実に努める ・健（検）診受診率向上のため、広くわかりやすい周知に努める ・未受診者に対し、健（検）診の必要性を伝える ・健康情報の提供により、市民自らが健康づくりを実践できるよう支援する ・生活習慣の改善に取り組めるよう支援する ・健（検）診の結果、受診が必要な人に対して受診勧奨を行う ・感染症予防に対する正しい知識の普及啓発を行う

ライフステージ

青年期（20～39歳）

理想の健康な暮らし

健康管理をしながら、充実した社会・家庭生活をスタートすることができる

領域 4 たばこ・アルコール・薬物防止

目 標	たばこ・アルコール・薬物の害を知り、喫煙・受動喫煙を避け、適正飲酒を心がけよう
本人や家族の取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・たばこ、アルコール、薬物の害について学ぶ ・禁煙を心がける ・喫煙のマナーを守る ・休肝日を週2日設ける ・適正飲酒を心がける <p><家族></p> <ul style="list-style-type: none"> ・たばこ、アルコール、薬物の害について話し合う ・分煙を心がける ・喫煙のマナーを守る ・適正飲酒を心がける
地域・関係機関等の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域団体に禁煙、分煙活動を推進する ・たばこ、アルコール、薬物の害について話し合う ・喫煙のマナーを守る
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・たばこ、アルコール、薬物の正しい知識の普及啓発を行う ・禁煙、分煙を推進する(家庭、公共の場等) ・精神保健相談、アルコール相談、断酒会等を紹介する ・禁煙外来を紹介する



領域 5 健やかなこころ・休養

目 標	ストレスをコントロールし、心の健康を保とう 家族・地域がお互いに支えあおう
本人や家族の取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人で悩まず相談する ・積極的に交流の場に参加する ・夫婦、家族がお互いに思いやりの心を持つ ・趣味、生きがい、楽しみを持ち、ストレスを解消する ・食事や運動、休養など健康管理に気をつける <p><家族></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族が親身になって相談にのる ・家族が楽しくふれあう時間を持つ ・家族の言動に耳を傾ける
地域・関係機関等の取り組み	<p><地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の中で交流ができる場をつくる、交流の場に誘う ・地域で不安を抱えた人を見守る ・相談窓口等必要な情報を紹介する <p><職場></p> <ul style="list-style-type: none"> ・働きやすい職場づくり(休暇がとりやすい、就業時間の短縮)に取り組む <p><医療機関></p> <ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医が心の相談に対応する
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間づくりや活動できる場の周知をする ・相談できる窓口の周知をする ・運動や食事、心の健康づくり等健康に関する知識の普及を行う ・うつ病等心の病気の疑いのある人を早期に発見し、支援する

ライフステージ

壮年期(40～64歳)

理想の健康な暮らし

生活習慣病を予防し、充実した社会・家庭生活を送ることができる

領域 1 栄養・食生活と歯

目 標	自分にあつた食事の量を知り、バランスのとれた食生活を送ろう 食物の旬や特産品を知り、日々の生活に取り入れ、次世代へ伝えよう
本人や家族の取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・適正体重を理解し、体重を測る習慣をつける ・朝食を毎日食べる ・主食、主菜、副菜のバランスを考え食事をする ・塩分のとり過ぎに気をつける ・一日一回は家族で食事をする ・栄養成分表示を参考に料理を選択する ・地元でとれた食材を使った料理や郷土料理を作り、家族に伝える ・食に関する情報を見て、安全、安心な食品を選択する
地域・関係機関等の取り組み	<p><地域、関係機関、食生活改善推進委員会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント等において朝食摂取、地産地消等の普及啓発を行う ・肥満予防、減塩の普及啓発をする ・食文化を継承する <p><飲食店></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康、栄養情報を提供する <p><県>「おいしくイキイキ食育プラン」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康、栄養情報を提供する飲食店を普及拡大する ・食の安全を発信する飲食店等の普及をする
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランスがとれた食生活にむけての栄養教育、相談をする ・食生活改善推進員の養成と育成を推進する ・朝食摂取や「食育月間」、「食育の日」の普及啓発をする ・食事バランスガイドを普及する ・飲食店に健康、栄養情報の提供について働きかける ・須賀川産農産物のPRと地産地消を推進する ・食の安全に関する情報の収集と知識を普及する
目 標	歯周病を予防、改善しよう
本人や家族の取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食べたら歯をみがく ・歯ブラシ、歯科ケア用品(糸ようじや歯間ブラシ等)を利用して歯みがきをする ・かかりつけ歯科医による歯科健診をし、むし歯、歯肉炎の早期発見、早期治療を行う ・一口30回噛むよう意識して食べる
地域・関係機関等の取り組み	<p><医療機関></p> <ul style="list-style-type: none"> ・むし歯、歯肉炎予防に関する情報を提供する <p><県・福島県歯科医師会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯っぴいライフ8020運動を展開する ・歯の衛生週間を普及する
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・歯周疾患の早期発見、歯科相談をする ・歯周炎、歯周病予防の歯科相談、健康教育をする ・かかりつけ歯科医、自主的な歯科健診について普及啓発をする ・噛ミング30(カミングサンマル)運動を普及する

ライフステージ

壮年期(40～64歳)

理想の健康な暮らし

生活習慣病を予防し、充実した社会・家庭生活を送ることができる

領域 2 身体活動・運動

目 標	家族や職場、地域の仲間と楽しく運動をしよう 日常生活の中でできるだけ身体を動かす機会を作ろう
本人や家族の取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動の大切さと運動上の注意点を正しく理解する ・自動車より自転車を、自転車よりできるだけ歩くようにする ・日常生活の中で、意識して積極的に身体を動かす ・定期的に運動を行い、継続する
地域・関係機関等の取り組み	<p><地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に運動する仲間をつくる ・運動に関するイベントを開催し、交流の場を設ける
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の効果と方法、また運動できる場所についての情報を提供する ・生活習慣病予防のために運動習慣改善の支援を行う ・スポーツに関する教室やイベント等を開催する

ライフステージ

壮年期(40～64歳)

理想の健康な暮らし

生活習慣病を予防し、充実した社会・家庭生活を送ることができる

領域 3 疾病予防(メタボリック・がん・感染症)

目 標	健(検)診を受け必要に応じて生活習慣を改善し、自分の健康は自分で守ろう 家族・職場・地域で健康を守ろう
本人や家族の取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医に相談しながら、定期的に健(検)診を受ける ・健(検)診結果に興味を持ち、必要に応じて生活習慣を改善する ・健(検)診や保健指導の必要性を理解する ・乳がんの自己検診を行う等自分の身体に関心を持つ ・感染症予防について正しい知識を持つ <p><家族></p> <ul style="list-style-type: none"> ・若いうちからの健康管理は大事であると伝える ・健(検)診の受診を勧める
地域・関係機関等の取り組み	<p><周囲の人・健康づくり推進員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健(検)診の重要性を伝え、健(検)診の受診をすすめる <p><医療機関></p> <ul style="list-style-type: none"> ・相談にのりながら、健(検)診の受診をすすめる ・乳がん自己検診をすすめる <p><県></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じた健康づくりを展開する ・安心できる地域医療の提供体制を充実させる <p><地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康を守る上で健(検)診を受けることは大切であると、地域全体で推進する ・地域ごとに、健(検)診を回覧版等でお知らせする
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が受診しやすい体制及び健(検)診の充実に努める ・受診率向上のため、広くわかりやすい周知に努める ・未受診者に対し、健(検)診の必要性を伝える ・健康情報の提供により、市民自らが健康づくりを実践できるよう支援する ・生活習慣の改善に取り組めるよう支援する ・健(検)診の結果、受診が必要な人に対して受診勧奨を行う ・感染症予防に対する正しい知識の普及啓発を行う

ライフステージ

壮年期(40～64歳)

理想の健康な暮らし

生活習慣病を予防し、充実した社会・家庭生活を送ることができる

領域 4 たばこ・アルコール・薬物防止

目 標	たばこ・アルコール・薬物の害を知り、喫煙・受動喫煙を避け、適正飲酒を心がけよう
本人や家族の取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・たばこ、アルコール、薬物の害について学ぶ ・禁煙を心がける ・喫煙のマナーを守る ・休肝日を週2日設ける ・適正飲酒を心がける <p><家族></p> <ul style="list-style-type: none"> ・たばこ、アルコール、薬物の害について話し合う ・分煙を心がける ・喫煙のマナーを守る ・適正飲酒を心がける
地域・関係機関等の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域団体に禁煙、分煙活動を推進する ・たばこ、アルコール、薬物の害について話し合う ・喫煙のマナーを守る
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・たばこ、アルコール、薬物の正しい知識の普及啓発を行う ・禁煙、分煙を推進する(家庭、公共の場等) ・精神保健相談、アルコール相談、断酒会等を紹介する ・禁煙外来を紹介する

領域 5 健やかなこころ・休養

目 標	ストレスをコントロールし、心の健康を保とう 家族・地域がお互いに支えあおう
本人や家族の取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人で悩まず相談する ・積極的に交流の場に参加する ・夫婦、家族がお互いに思いやりの心を持つ ・趣味、生きがい、楽しみを持ち、ストレスを解消する ・食事や運動、休養など健康管理に気をつける <p><家族></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族が親身になって相談にのる ・家族が楽しくふれあう時間を持つ ・家族の言動に耳を傾ける
地域・関係機関等の取り組み	<p><地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の中で交流ができる場をつくる、交流の場に誘う ・地域で不安を抱えた人を見守る ・相談窓口等必要な情報を紹介する <p><職場></p> <ul style="list-style-type: none"> ・働きやすい職場づくり(休暇がとりやすい、就業時間の短縮)に取り組む <p><医療機関></p> <ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医が心の相談に対応する
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間づくりや活動できる場の周知をする ・相談できる窓口の周知をする ・運動や食事、心の健康づくり等健康に関する知識の普及を行う ・うつ病等心の病気の疑いのある人を早期に発見し、支援する

ライフステージ

高齢期(65歳～)

理想の健康な暮らし

体の変化と上手につきあいながら、笑顔で明るく毎日を送ることができる

領域 1 栄養・食生活と歯

目 標	自分にあつた食事の量を知り、おいしく食べよう 食物の旬や特産品を知り、日々の生活に取り入れ、次世代へ伝えよう
本人や家族の取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・体重を測る習慣をつける ・朝食を毎日食べる ・主食、主菜、副菜のバランスを考え食事をする ・地元でとれた食材を使った料理や郷土料理を作り、家族に伝える ・食に関する情報を見て、安全、安心な食品を選択する
地域・関係機関等の取り組み	<p><地域、関係機関、食生活改善推進委員会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・イベント等において朝食摂取、地産地消等の普及啓発を行う ・肥満予防の普及啓発をする <p><飲食店></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康、栄養情報を提供する <p><社会福祉協議会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事に関する情報提供をする <p><県>「おいしくイキイキ食育プラン」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康・栄養情報を提供する飲食店を普及拡大する ・食の安全を発信する飲食店等の普及をする
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランスがとれた食生活にむけての情報提供、栄養教育、相談をする ・朝食摂取や「食育月間」、「食育の日」の普及啓発をする ・須賀川産農産物のPRと地産地消を推進する ・食の安全に関する情報の収集と知識を普及する
目 標	歯周病を予防、改善しよう 口腔機能向上、誤嚥性肺炎を予防しよう
本人や家族の取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・一口30回噛むよう意識して食べる ・歯ブラシだけでなく、歯科ケア用品を利用して歯みがきをする ・かかりつけ歯科医による歯科健診をし、むし歯、歯肉炎の早期発見、早期治療を行う
地域・関係機関等の取り組み	<p><医療機関、社会福祉協議会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯肉炎、口腔機能向上に関する情報提供をする <p><県・福島県歯科医師会></p> <ul style="list-style-type: none"> ・歯っぴいライフ8020運動を展開する ・歯の衛生週間を普及する
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・口腔機能向上のための健康教育、歯科相談等を実施する ・訪問による歯科診療、歯科相談をする ・かかりつけ歯科医、自主的な歯科健診について普及啓発をする ・噛ミング30(カミングサンマル)運動を普及する

ライフステージ

高齢期(65歳～)

理想の健康な暮らし

体の変化と上手につきあいながら、笑顔で明るく毎日を送ることができる

領域 2 身体活動・運動

目 標	自分に合った運動を適度に続けよう 仲間との交流を図りながら、楽しく運動しよう 日常生活の中で身体を動かそう
本人や家族の取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・外へ出ようという気持ちを大切に持ち続ける ・安全面に配慮し、無理のない範囲で積極的に身体を動かす ・できるだけ歩くようにする。近所の人と挨拶を交わしながら歩く ・自分の事はできるだけ自分でする <p><家族></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族が、本人の身体状況に適した運動を勧める
地域・関係機関等の取り組み	<p><地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ・運動に関する情報を交換したり、一緒に運動をする仲間をつくる ・運動に関するイベントを開催し、交流の場を設ける
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・運動の効果と方法、または運動できる場所についての情報を提供する ・介護予防のための運動を普及する ・スポーツに関する教室やイベント等を開催する

領域 3 疾病予防(メタボリック・がん・感染症)

目 標	かかりつけ医に相談しながら、疾患の治療と健(検)診を組み合わせ、自分の健康は自分で守ろう 家族・地域で健康を守ろう
本人や家族の取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医に相談しながら、定期的に健(検)診を受ける ・疾患の治療と健(検)診結果に興味を持ち、必要に応じて生活習慣を改善する ・感染症予防について正しい知識を持つ <p><家族></p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じての定期的な通院と、健(検)診をすすめる
地域・関係機関等の取り組み	<p><周囲の人・健康づくり推進員></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健(検)診の重要性を伝え、健(検)診の受診をすすめる <p><医療機関></p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎疾患の治療に加え、相談にのりながら必要な健(検)診の受診をすすめる <p><県></p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯を通じた健康づくりを展開する ・安心できる地域医療の提供体制を充実させる <p><地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ・健康を守る上で健(検)診を受けることは大切であると、地域全体で推進する ・地域ごとに、健(検)診を回覧版等でお知らせする
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・市民が受診しやすい体制及び健(検)診の充実に努める ・受診率向上のため、広くわかりやすい周知に努める ・未受診者に対し、健(検)診の必要性を伝える ・健康情報の提供により、市民自らが健康づくりを実践できるよう支援する ・生活習慣の改善に取り組めるよう支援する ・健(検)診の結果、受診が必要な人に対して受診勧奨を行う ・感染症予防に対する正しい知識の普及啓発を行う

ライフステージ

高齢期(65歳～)

理想の健康な暮らし

体の変化と上手につきあいながら、笑顔で明るく毎日を送ることができる

領域 4 たばこ・アルコール・薬物防止

目 標	たばこ・アルコール・薬物の害を知り、喫煙・受動喫煙を避け、適正飲酒を心がけよう
本人や家族の取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・たばこ、アルコール、薬物の害について学ぶ ・禁煙を心がける ・喫煙のマナーを守る ・休肝日を週2日設ける ・適正飲酒を心がける <p><家族></p> <ul style="list-style-type: none"> ・たばこ、アルコール、薬物の害について話し合う ・分煙を心がける ・喫煙のマナーを守る ・適正飲酒を心がける
地域・関係機関等の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域団体に禁煙、分煙活動を推進する ・たばこ、アルコール、薬物の害について話し合う ・喫煙のマナーを守る
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・たばこ、アルコール、薬物の正しい知識の普及啓発を行う ・禁煙、分煙を推進する(家庭、公共の場等) ・精神保健相談・アルコール相談・断酒会等を紹介する ・禁煙外来の紹介をする

領域 5 健やかなこころ・休養

目 標	ストレスをコントロールし、心の健康を保とう 家族・地域がお互いに支えあおう
本人や家族の取り組み	<p><本人></p> <ul style="list-style-type: none"> ・1人で悩まず相談する ・積極的に交流の場に参加する ・夫婦、家族がお互いに思いやりの心を持つ ・趣味、生きがい、楽しみを持ち、ストレスを解消する ・食事や運動、休養など健康管理に気をつける <p><家族></p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族が親身になって相談にのる ・家族が楽しくふれあう時間を持つ ・家族の言動に耳を傾ける ・高齢者に役割を持たせる
地域・関係機関等の取り組み	<p><地域></p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の中で交流ができる場をつくる、交流の場に誘う ・地域で不安を抱えた人を見守る ・相談窓口等必要な情報を紹介する ・高齢者に役割を持たせる <p><医療機関></p> <ul style="list-style-type: none"> ・かかりつけ医が心の相談に対応する
市の取り組み	<ul style="list-style-type: none"> ・仲間づくりや活動できる場の周知をする ・相談できる窓口の周知をする ・運動や食事、心の健康づくり等健康に関する知識の普及を行う ・うつ病等心の病気の疑いのある人を早期に発見し、支援する ・1人暮らし、日中独居高齢者の支援を充実させる

第3節 成果目標

【データの出典】

出展区分	出展名称	備考
A	「健康と生活習慣アンケート」(H22年度)	
B	各地区集会施設分煙実態調査(H22年度)	
C	保健事業概況(H22年度)	
D	疾病分類統計(H22.5月国保診療分)	
E	特定健康診査・特定保健指導法定報告データ(H21年度)	
F	業務概況(H22年度版:福島県県中保健福祉事務所)	
G	公共施設分煙実態調査(H22年度)	
H	学校給食における地場産物の活用状況調査(H22年度:学校教育課)	
I	福島県歯科保健情報システム結果(H21年度:福島県県中保健福祉事務所)	
J	母子保健事業実績報告(H22年度)	
K	歯周疾患検診結果(H21年度)	
L	高齢者福祉計画・介護保険事業計画(H20年度)	
M	県学校基本調査(H21年度)	
N	家庭児童相談室実績(H21年度)	

妊娠・出産期

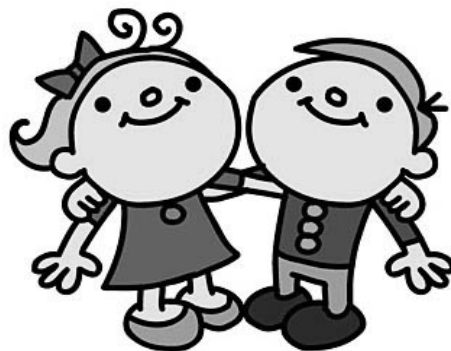
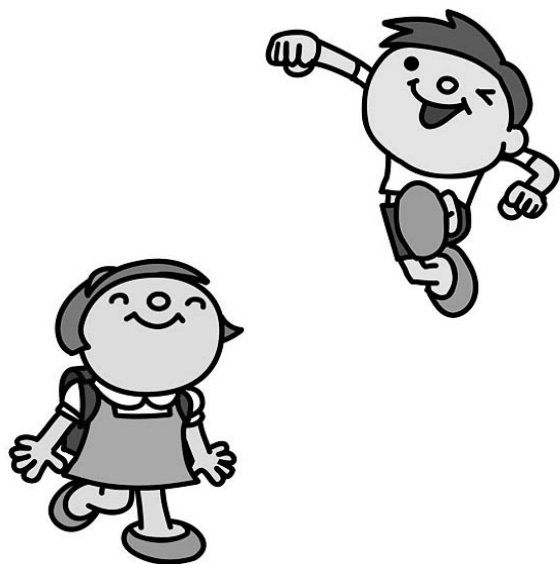
領域	指 標	出典	現状値	目標値
1 栄養・食生活 と歯				
2 身体活動・ 運動				
3 疾病予防 (メタボリック・ がん・感染症)	妊婦健康診査にあわせて子宮頸がん検診を受ける人の割合		未調査	95.0%
4 たばこ・ アルコール・ 薬物防止	妊娠中にたばこを吸っていた割合	A	10.7%	0%
	妊娠中にお酒を飲んでいた割合	A	5.2%	0%
5 健やかな こころ・休養	妊娠時幸福感をもてない母親の割合	A	9.8%	5.0%
	出産に満足している母親	A	90.6%	95.0%
	計画外妊娠の割合	A	15.3%	10.0%
	妊娠11週以下の妊娠届出率	J	77.6%	80.0%
	妊婦健康診査を受けている割合	J	81.2%	90.0%

乳幼児期(0歳～就学前の親子)

領域	指 標	出典	現状値	目標値
1 栄養・食生活 と歯	朝食を必ず食べる割合	A	96.7%	100%
	栄養のバランスを考える親の割合	A	72.0%	80.0%
	地元産の食材使用を考える親の割合	A	14.6%	増加
	むし歯のない3歳児の割合	C	68.4%	80.0%
	子どもの仕上げ磨きを毎日する親の割合	A	71.6%	80.0%
	子どものおやつの時間を決めている親の割合	A	69.2%	80.0%
	フッ素塗布を受けたことがある割合	A	56.4%	60.0%
2 身体活動 ・運動	屋外で身体を使った遊びを週2回以上する幼児の割合		未調査	—
3 疾病予防 (メタボリック・ がん・感染症)	ポリオ接種率	C	96.2%	98.0%
	三種混合接種率	C	98.4%	98.0%
	MR1期接種率	C	90.3%	95.0%
	MR2期接種率	C	91.8%	95.0%
	BCG接種率	C	96.4%	98.0%
	かかりつけ医をもつ親の割合	A	96.3%	100%
4 たばこ・ アルコール・ 薬物防止	家庭での空間分煙の実施割合	A	67.6%	100%
5 健やかな こころ・休養	3・4か月児健診受診率	J	97.2%	100%
	9・10か月児健診受診率	J	92.8%	100%
	1歳6か月児健診受診率	J	96.5%	100%
	3歳児健診受診率	J	92.8%	100%
	ゆったりとした気分で子育てできる親の割合	A	75.3%	80.0%
	育児に自信が持てない親の割合	A	14.3%	10.0%
	子どもを虐待していると思う親の割合	A	2.4%	0%
	子どもを虐待していることを否定できないと思う親の割合	A	14.9%	10.0%
	虐待相談受付件数	N	27件	減少
	育児の相談相手が近所にいる親の割合	A	11.3%	20.0%
	育児によく参加する父親の割合	A	57.9%	60.0%
	生後4か月までの訪問の割合	J	84.4%	100%
	乳幼児健診に満足している者の割合	A	66.3%	70.0%
	危険物を子どもの手の届かない所におく親の割合	A	49.4%	70.0%
就寝時間が午後10時以降の割合	A	32.3%	20.0%	

学童期(6~12歳)

領域	指 標	出典	現状値	目標値
1 栄養・食生活 と歯	朝食を必ず食べる割合(小5)	A	95.9%	100%
	食事の時間が楽しいと思える割合(小5)	A	94.4%	95.0%
	一人で食事をする割合(小5)	A	14.3%	10.0%
	標準体重児の割合(小5)ローレル指数	A	56.4%	60.0%
	好き嫌いがある割合(小5)	A	70.8%	65.0%
	学校給食における地場産物の活用割合	H	39.2%	45.0%
	12歳児の一人平均う歯数	I	1.4歯	1.3歯
	1日3回歯をみがく割合(小5)	A	68.7%	70.0%
2 身体活動・ 運動	帰宅後や休日にからだを動かす割合(小5)	A	43.6%	50.0%
	運動を楽しみと思う割合(小5)	A	94.4%	95.0%
3 疾病予防 (メタボリック・ がん・感染症)	二種混合接種率	C	88.4%	95.0%
4 たばこ・ アルコール・ 薬物防止	たばこを吸ったことがある割合(小5)	G	未調査	0%
	お酒を飲んだことがある割合(小5)		未調査	0%
	小学校の禁煙・分煙実施施設割合		100%	維持
5 健やかな こころ・休養	相談相手がいる割合(小5)	A	87.2%	90.0%
	親と楽しく過ごせる時間がある割合(小5)	A	91.8%	95.0%
	最近ひどく困ったことやつらいと思ったことのある割合(小5)	A	18.5%	15.0%
	睡眠が足りないと思う割合(小5)	A	10.3%	8.0%
	自分のことを好きと思う割合(小5)	A	81.5%	90.0%
	就寝時間が午後10時以降の割合	A	48.7%	40.0%



思春期(13~19歳)

領域	指 標	出典	現状値	目標値
1 栄養・食生活 と歯	朝食を必ず食べる割合(中1)	A	89.2%	100%
	朝食を必ず食べる割合(高3)	A	72.3%	100%
	食事の時間が楽しいと思える割合(中1)	A	85.1%	90.0%
	食事の時間が楽しいと思える割合(高3)	A	69.4%	70.0%
	一人で食事をするところがある割合(中1)	A	29.8%	25.0%
	一人で食事をするところがある割合(高3)	A	52.0%	50.0%
	標準体重者の割合(中1)ローレル指数	A	46.2%	50.0%
	標準体重者の割合(高3)BMI 標準	A	65.3%	70.0%
	栄養のバランスを考えて食べている割合(中1)	A	61.0%	70.0%
	栄養のバランスを考えて食べている割合(高3)	A	34.7%	50.0%
	学校給食における地場産物の活用割合	H	39.2%	45.0%
	1日3回歯をみがく割合(中1)	A	35.9%	40.0%
	1日3回歯をみがく割合(高3)	A	15.6%	20.0%
2 身体活動・ 運動	週2回以上運動をしている割合(中1)	A	83.1%	85.0%
	週2回以上運動をしている割合(高3)	A	42.2%	45.0%
	運動を楽しみと思う割合(中1)	A	89.7%	90.0%
	運動を楽しみと思う割合(高3)	A	85.6%	90.0%
3 疾病予防(メタボリック・がん・感染症)	性行為感染症を聞いたことがない人の割合(中1)	A	20.5%	15.0%
	性行為感染症を聞いたことがない人の割合(高1)	A	1.2%	0.5%
4 たばこ・ アルコール・ 薬物防止	たばこを吸っている割合(中1男子)	A	0.9%	0%
	たばこを吸っている割合(中1女子)	A	1.1%	0%
	たばこを吸っている割合(高3男子)	A	8.7%	0%
	たばこを吸っている割合(高3女子)	A	1.4%	0%
	お酒を飲んでいる割合(中1男子)		未調査	0%
	お酒を飲んでいる割合(中1女子)		未調査	0%
	お酒を飲んでいる割合(高3男子)		未調査	0%
	お酒を飲んでいる割合(高3女子)		未調査	0%
	妊娠中におけるたばこの影響を知っている割合(中1男子)	A	73.8%	100%
	妊娠中におけるたばこの影響を知っている割合(中1女子)	A	78.2%	100%
	妊娠中におけるたばこの影響を知っている割合(高3男子)	A	85.6%	100%
	妊娠中におけるたばこの影響を知っている割合(高3女子)	A	92.8%	100%
	妊娠中における飲酒の影響を知っている割合(中1男子)	A	65.4%	100%
	妊娠中における飲酒の影響を知っている割合(中1女子)	A	73.6%	100%
	妊娠中における飲酒の影響を知っている割合(高3男子)	A	75.0%	100%
	妊娠中における飲酒の影響を知っている割合(高3女子)	A	87.0%	100%
	薬物の害を知っている割合(中1男子)	A	84.1%	100%
	薬物の害を知っている割合(中1女子)	A	90.8%	100%
	薬物の害を知っている割合(高3男子)	A	90.4%	100%
薬物の害を知っている割合(高3女子)	A	94.2%	100%	
同じ部屋でたばこを吸う人がいない割合(中1)	A	43.1%	100%	
中学校の禁煙・分煙実施施設割合	G	100%	維持	
5 健やかな ころ・休養	中学校の不登校割合	M	1.6%	減少
	相談相手がいる割合(中1)	A	87.2%	90.0%
	相談相手がいる割合(高3)	A	80.3%	85.0%
	家族に大切にされていると思う割合(中1)	A	84.1%	90.0%
	家族に大切にされていると思う割合(高3)	A	71.7%	80.0%
	自分のことを好きと思う割合(中1)	A	61.6%	70.0%
	自分のことを好きと思う割合(高3)	A	44.5%	50.0%
	ストレスを感じる割合(中1)	A	80.0%	70.0%
	ストレスを感じる割合(高3)	A	89.0%	80.0%
	最近ひどく困ったことやつらいと思ったことのある割合(中1)	A	32.3%	30.0%
	最近ひどく困ったことやつらいと思ったことのある割合(高3)	A	52.6%	50.0%
	睡眠が足りないと思う割合(中1)	A	42.5%	35.0%
	睡眠が足りないと思う割合(高3)	A	67.1%	60.0%
	家族と「からだや異性について」話をする割合(中1)	A	41.5%	50.0%
	家族と「からだや異性について」話をする割合(高3)	A	33.5%	40.0%

青年期(20～39歳)

領域	指 標	出典	現状値	目標値
1 栄養・食生活 と歯	「食育」に関心がある人の割合	A	65.5%	85.0%
	朝食を必ず食べる人の割合(男性)	A	61.2%	85.0%
	朝食を必ず食べる人の割合(女性)	A	66.2%	85.0%
	肥満者の割合(男性)	A	28.6%	25.0%
	肥満者の割合(女性)	A	10.9%	10.0%
	やせている人の割合(女性)	A	25.3%	15.0%
	栄養バランスのとれた食生活を送っている人の割合	A	46.6%	60.0%
	食事バランスガイドを理解している人の割合	A	14.1%	25.0%
	野菜のおかずを毎食食べている人の割合	A	72.1%	80.0%
	濃い味付けを好む人の割合	A	44.8%	35.0%
	栄養成分表示を参考にしている人の割合	A	28.7%	40.0%
	より安全な食品の購入をしている人の割合	A	35.6%	50.0%
自主的な歯科検診を受けている人の割合	A	23.0%	30.0%	
1日3回歯をみがく人の割合	A	23.9%	30.0%	
2 身体活動・運動	週2回以上運動する人の割合(男性)	A	19.4%	35%
	週2回以上運動する人の割合(女性)	A	18.3%	35%
3 疾病予防 (メタボリック・ がん・感染症)	基本健診受診率(30歳以上)	C	5.9%	10.0%
	メタボリックシンドロームの認知度(ことばも内容も知っている)	A	67.2%	70.0%
	体格指数(BMI指数)の計算方法を知っている人の割合	A	58.6%	60.0%
	健康のために「特にしていることがない」人の割合	A	35.1%	30.0%
	肺がん検診(胸部X線)受診率(35歳以上)	C	32.2%	35.0%
	胃がん検診受診率(35歳以上)	C	13.8%	20.0%
	大腸がん検診受診率(35歳以上)	C	12.5%	20.0%
	子宮がん検診受診率(20歳以上)	C	28.4%	30.0%
	肺がん検診(胸部X線)精密検査受診率(35歳以上)	C	85.6%	100%
	胃がん検診精密検査受診率(35歳以上)	C	78.0%	100%
大腸がん検診精密検査受診率(35歳以上)	C	66.2%	100%	
子宮がん検診精密検査受診率(20歳以上)	C	82.5%	100%	
4 たばこ・ アルコール・ 薬物防止	たばこの影響があると思われる疾病の理解			
	肺がん	A	95.7%	100%
	気管支炎	A	70.1%	100%
	喘息	A	62.4%	100%
	妊娠に関連した異常	A	79.9%	100%
	慢性閉塞性肺疾患	A	62.4%	100%
	脳卒中	A	59.5%	100%
	心臓病	A	43.4%	100%
	歯周病	A	46.3%	100%
	胃潰瘍	A	21.8%	100%
	1日3合以上の多量飲酒者の割合(男性)	A	5.5%	4.5%
	1日3合以上の多量飲酒者の割合(女性)	A	4.9%	4.0%
	1日の適度な飲酒量を知る人の割合(男性)	A	43.3%	100%
1日の適度な飲酒量を知る人の割合(女性)	A	55.4%	100%	
毎日飲酒する人の割合(男性)	A	23.9%	20.0%	
毎日飲酒する人の割合(女性)	A	3.8%	3.0%	
5 健やかな こころ・休養	相談相手がいる人の割合	A	96.8%	100%
	相談窓口を知っている人の割合	A	70.4%	90.0%
	自分が健康だと思う人の割合	A	85.1%	90.0%
	睡眠が足りないと思う人の割合	A	51.5%	40.0%
	ストレスを感じている人の割合	A	90.0%	80.0%
	最近ひどく困ったことやつらいと思ったことのある人の割合	A	44.3%	40.0%

壮年期(40～64歳)

領域	指 標	出典	現状値	目標値
1 栄養・食生活 と歯	「食育」に関心がある人の割合	A	69.5%	85.0%
	朝食を必ず食べる人の割合(男性)	A	80.6%	85.0%
	朝食を必ず食べる人の割合(女性)	A	85.3%	90.0%
	肥満者の割合(男性)	A	32.3%	25.0%
	肥満者の割合(女性)	A	22.2%	20.0%
	栄養バランスのとれた食生活を送っている人の割合	A	52.4%	60.0%
	食事バランスガイドを理解している人の割合	A	17.7%	25.0%
	野菜のおかずを毎食食べている人の割合	A	78.9%	85.0%
	濃い味付けを好む人の割合	A	35.6%	30.0%
	栄養成分表示を参考にしている人の割合	A	28.7%	40.0%
	より安全な食品の購入をしている人の割合	A	49.3%	55.0%
	自主的な歯科検診を受けている人の割合	A	24.0%	30.0%
	進行した歯周炎のある人の割合(40歳) CPI検査4mm以上	K	22.2%	20.0%
	自分の歯を24歯以上有している人の割合(55～64歳)	A	46.0%	50.0%
1日3回歯をみがく人の割合	A	20.2%	30.0%	
食生活改善推進員数	C	85人	150人	
2 身体活動・ 運動	関節症受診率(国保・男性)	D	0.52%	0.4%
	関節症受診率(国保・女性)	D	1.81%	1.5%
	週2回以上運動する人の割合(男性)	A	28.9%	35.0%
	週2回以上運動する人の割合(女性)	A	30.4%	35.0%
3 疾病予防 (メタボリック・ がん・感染症)	糖尿病の受診率(国保)	D	3.41%	3.0%
	高血圧症の受診率(国保)	D	13.16%	12.0%
	心疾患の受診率(国保)	D	1.66%	1.5%
	脳疾患の受診率(国保)	D	1.25%	1.2%
	特定健康診査受診率	E	31.0%	65.0%
	内臓脂肪症候群該当者・予備軍減少率(男性)	E	22.9%	10.8%
	内臓脂肪症候群該当者・予備軍減少率(女性)	E	33.6%	10.8%
	特定保健指導の終了者の割合	E	19.0%	45.0%
	メタボリックシンドロームの認知度(ことばも内容も知っている)	A	66.1%	80.0%
	体格指数(BMI指数)の計算方法を知っている人の割合	A	56.3%	60.0%
	健康のために「特にしていることがない」人の割合	A	28.7%	25.0%
	がん死亡率(全年齢、10万対)	F	248.6人	減少
	肺がん検診(胸部X線)受診率(35歳以上) 再掲	C	32.2%	35.0%
	胃がん検診受診率(35歳以上) 再掲	C	13.8%	20.0%
	大腸がん検診受診率(35歳以上) 再掲	C	12.5%	20.0%
	乳がん検診受診率(40歳以上)	C	32.7%	35.0%
	子宮がん検診受診率(20歳以上) 再掲	C	28.4%	30.0%
	肺がん検診(胸部X線)精密検査受診率(35歳以上) 再掲	C	85.6%	100%
	胃がん検診精密検査受診率(35歳以上) 再掲	C	78.0%	100%
	大腸がん検診精密検査受診率(35歳以上) 再掲	C	66.2%	100%
乳がん検診精密検査受診率(40歳以上)	C	82.5%	100%	
子宮がん検診精密検査受診率(20歳以上) 再掲	C	100.0%	100%	
かかりつけ医をもつ人の割合		未調査		
4 たばこ・ アルコール・ 薬物防止	たばこの影響があると思われる疾病の理解			
	肺がん	A	93.6%	100%
	気管支炎	A	73.7%	100%
	喘息	A	67.4%	100%
	妊娠に関連した異常	A	61.6%	100%
	慢性閉塞性肺疾患	A	65.9%	100%
	脳卒中	A	50.9%	100%
	心臓病	A	50.9%	100%
	歯周病	A	35.1%	100%
	胃潰瘍	A	26.6%	100%
	地区集会施設の分煙実施割合	B	49.1%	100%
	1日3合以上の多量飲酒者の割合(男性)	A	8.7%	7.0%
	1日3合以上の多量飲酒者の割合(女性)	A	1.9%	1.5%
	1日の適度な飲酒量を知る割合(男性)	A	45.4%	100%
1日の適度な飲酒量を知る割合(女性)	A	52.4%	100%	
毎日飲酒する人の割合(男性)	A	41.1%	35.0%	
毎日飲酒する人の割合(女性)	A	9.2%	7.0%	
5 健やかな こころ・休養	相談相手がいる人の割合	A	92.7%	100%
	相談窓口を知っている人の割合	A	74.4%	90%
	自殺による死亡率(全年齢、人口10万対)	F	25.1人	減少
	自分が健康だと思う人の割合	A	81.4%	90%
	睡眠が足りないと思う人の割合	A	36.3%	30%
	ストレスを感じている人の割合	A	87.1%	80%
	最近ひどく困ったことやつらいと思ったことのある人の割合	A	32.6%	20%

高齢期(65歳～)

領域	指 標	出典	現状値	目標値
1 栄養・食生活 と歯	「食育」に関心がある人の割合	A	69.4%	85.0%
	朝食を必ず食べる人の割合(男性)	A	90.7%	95.0%
	朝食を必ず食べる人の割合(女性)	A	94.5%	95.0%
	肥満者の割合(男性)	A	22.9%	20.0%
	肥満者の割合(女性)	A	8.8%	8.0%
	栄養バランスのとれた食生活を送っている人の割合	A	61.8%	65.0%
	より安全な食品の購入をしている人の割合	A	58.8%	60.0%
	自主的な歯科検診を受けている人の割合	A	26.5%	30.0%
	自分の歯を24歯以上有している人の割合(55～64歳)	A	40.6%	45.0%
	1日3回歯をみがく人の割合	A	17.1%	20.0%
	80歳で自分の歯を20歯以上有している人の割合		未調査	20.0%
2 身体活動・ 運動	週2回以上運動する割合(男性)	A	54.6%	60.0%
	週2回以上運動する割合(女性)	A	64.4%	70.0%
	関節症受診率(国保・65～74歳・男性)	D	1.54%	1.0%
	関節症受診率(国保・65～74歳・女性)	D	5.96%	5.0%
	転倒経験者(65歳以上・男性)	L	20.2%	15.0%
	転倒経験者(65歳以上・女性)	L	24.6%	20.0%
	なんらかの地域活動に参加している高齢者(65歳以上・男性)	L	44.7%	50.0%
なんらかの地域活動に参加している高齢者(65歳以上・女性)	L	41.6%	45.0%	
3 疾病予防 (メタボリック・ がん・感染症)	糖尿病の受診率(国保)	D	3.41%	3.0%
	高血圧症の受診率(国保)	D	13.16%	12.0%
	心疾患の受診率(国保)	D	1.66%	1.5%
	脳疾患の受診率(国保)	D	1.25%	1.2%
	特定健康診査受診率	E	45.3%	65.0%
	内臓脂肪症候群該当者・予備軍減少率(男性)	E	23.0%	10.8%
	内臓脂肪症候群該当者・予備軍減少率(女性)	E	28.4%	10.8%
	特定保健指導の終了者の割合	E	19.0%	45.0%
	メタボリックシンドロームの認知度(ことばも内容も知っている)	A	58.2%	70.0%
	体格指数(BMI指数)の計算方法を知っている人の割合	A	42.9%	50.0%
	健康のために「特にしていることがない」人の割合	A	15.3%	10.0%
	がん死亡者数(全年齢、10万人単位)	F	248.6人	減少
	肺がん検診(胸部X線)受診率(35歳以上) 再掲	C	32.2%	35.0%
	胃がん検診受診率(35歳以上) 再掲	C	13.8%	20.0%
	大腸がん検診受診率(35歳以上) 再掲	C	12.5%	20.0%
	乳がん検診受診率(40歳以上)	C	32.7%	35.0%
	子宮がん検診受診率(20歳以上) 再掲	C	28.4%	30.0%
肺がん検診(胸部X線)精密検査受診率(35歳以上) 再掲	C	85.6%	100%	
胃がん検診精密検査受診率(35歳以上) 再掲	C	78.0%	100%	
大腸がん検診精密検査受診率(35歳以上) 再掲	C	66.2%	100%	
乳がん検診精密検査受診率(40歳以上)	C	82.5%	100%	
子宮がん検診精密検査受診率(20歳以上) 再掲	C	100.0%	100%	
インフルエンザ予防接種率	C	60.9%	65.0%	
かかりつけ医をもつ人の割合		未調査		
4 たばこ・ アルコール・ 薬物防止	たばこの影響があると思われる疾病の理解			
	肺がん	A	85.9%	100%
	気管支炎	A	70.0%	100%
	喘息	A	58.8%	100%
	妊娠に関連した異常	A	44.7%	100%
	慢性閉塞性肺疾患	A	57.6%	100%
	脳卒中	A	41.2%	100%
	心臓病	A	47.1%	100%
	歯周病	A	22.4%	100%
	胃潰瘍	A	27.1%	100%
	1日3合以上の多量飲酒者の割合(男性)	A	1.9%	1.5%
	1日3合以上の多量飲酒者の割合(女性)	A	0.0%	維持
	1日の適度な飲酒量を知る人の割合(男性)	A	40.2%	100%
1日の適度な飲酒量を知る人の割合(女性)	A	47.9%	100%	
毎日飲酒する人の割合(男性)	A	39.2%	30.0%	
毎日飲酒する人の割合(女性)	A	2.7%	2.0%	
5 健やかな こころ・休養	相談相手がいる人の割合	A	88.8%	100%
	相談窓口を知っている人の割合	A	77.1%	90.0%
	自分が健康だと思う人の割合	A	74.1%	80.0%
	睡眠が足りないと思う人の割合	A	17.6%	10.0%
	ストレスを感じている人の割合	A	69.4%	60.0%
	最近ひどく困ったことやつらいと思ったことのある人の割合	A	20.0%	10.0%

【第4章】

計画の推進に向けて

第4章 計画の推進に向けて

第1節 市民との協働による取り組み

健康づくりは、一人ひとりにとって身近な問題であり、健康づくりの実践者は市民です。また、ヘルスプロモーションを進める上では、健康づくりを行う個人を支えあう地域づくりが求められています。そこで、健康づくり推進員、食生活改善推進員、健康づくりの会等の地区組織のさらなる活動の推進を図り、市民の健康管理の意識の高揚と自主的・主体的な健康づくりの推進に努めます。

第2節 推進体制の整備

健康増進計画策定の意義は、健康づくりの達成すべき目標を関係者が共有するとともに、各々の立場からその役割を果たすことにより、健康づくりを推進していくことにあります。

また、個人の健康づくりを社会全体で支援するためには、幅広い関係者の協力を得た支援体制の整備が必要です。行政内部の体制づくりのみならず、行政外部の様々な関係者との連携を踏まえた体制づくりが、施策を推進するためには重要であることから関連する幅広い関係機関・関係組織と連携強化を図り、協働した健康づくりを推進します。

また、「須賀川市健康づくり推進協議会」に事業実績等を報告するなど、進行管理体制の整備、充実を図ります。

【第5章】

「須賀川市アップ21」

「須賀川市すこやか親子21」

最終評価

第5章 「須賀川市健康アップ21」と

「須賀川市すこやか親子21」の最終評価

第1節 「健康アップ21」と「すこやか親子21」の概要

「健康アップ21」保健計画(計画期間:平成13年度～22年度)

2つの柱

- ①市民一人ひとりが自らの決定に基づいて、健康増進や疾病の予防、さらに障害や慢性疾患をコントロールする能力を高めることができる。
- ②健康を支援する環境づくりを行う。

目的

- ①健康寿命の伸長 ②生活の質の向上 ③壮年期死亡(早世)の減少
- ④ノーマライゼーションの普及

10の分野で目標値の設定

- ①栄養・食生活 ②身体活動・運動 ③休養・こころの健康づくり
- ④たばこ ⑤アルコール ⑥歯の健康 ⑦糖尿病 ⑧循環器病
- ⑨がん ⑩ノーマライゼーションの10の分野別に目標値を設定し事業をすすめてきました。

「すこやか親子21」保健計画(計画期間:平成14年度～23年度)

基本理念

すべての親子が、こころもからだも すこやかに暮らせるまち須賀川

目 標

- ①安心できる・責任のある子育てをしよう
- ②すこやかなこころとからだを育もう
～幼少期からの生活習慣病の予防対策～
- ③思春期をこころ豊かに過ごそう
- ④こころやからだに病気や障がいがあっても、このまちで一緒に暮そう

9の分野で目標値の設定

- ①安心できる子育て ②責任ある子育て ③バランスのとれた食生活
- ④健康な歯 ⑤楽しく運動 ⑥喫煙・飲酒・薬物乱用の防止
- ⑦思春期をこころ豊かに ⑧ノーマライゼーションにあふれたまち
- ⑨病気や障がいのある子どもとその家族とともに9つの分野別に目標値を設定し事業をすすめてきました。

第2節 「健康アップ21」最終評価

1 「健康アップ21」総合評価表

(1) 数値目標に対する評価

ア 評価の方法

数値目標が達成されたかを評価し、今後の健康増進計画の基礎資料とします。

現況値(平成22年度調査)が、目標に対してどのような状況にあるかを判断の目安とします。

イ 判断基準等

Ⓐ	100%達成
A	目標値に対する達成状況が80%以上
B	目標値に対する達成状況が50%以上80%未満
C	50% 未満
未調査	
評価困難	

※「健康ふくしま21」中間評価判断基準に同じ

ウ 評価結果

(ア) 100%達成 Ⓐ及び80%以上Aのもの

分野	項目
身体活動	・転倒経験者
たばこ	・地区集会施設以外での公共の場での分煙率 ・喫煙率(男性)
アルコール	・多量飲酒者(男性)
歯の健康	・う歯のない3歳児 ・12歳児のう歯数 ・進行した歯周炎のある者(41歳男性) ・自主的な歯科検診の受診者(女性)
循環器病	・虚血性心疾患の受診率
がん	・がん検診要精検者受診率(肺がん喀痰細胞診、乳がん)
ノーマライゼーション	・住宅改修実施件数

(イ) 50%未満Cのもの

分野	項目
栄養・食生活	・栄養成分表示を参考にする人 ・成人肥満者(男性)
身体活動	・運動習慣者 ・なんらかの地域活動に参加している高齢者 ・国民健康保険における関節症受診率
休養・こころの健康づくり	・睡眠の足りない人 ・ストレスを感じている人 ・自殺者数
たばこ	・喫煙が及ぼす健康影響についての十分な知識のある人 ・中学1年生の喫煙率 ・妊婦の喫煙率 ・喫煙率(女性) ・地区集会施設、職場、家庭の分煙率
アルコール	・多量飲酒者(女性) ・節度ある適度な飲酒の知識のある人

糖 尿 病	・糖尿病の医療機関受診率
循 環 器 病	・高血圧性疾患、脳梗塞受診率 ・事後指導を受けている者 ・最大血圧 160mmHg、最小血圧 95mmHg 以上の人
が ん	・がん死亡数 ・がん検診受診率(胃がん、肺がん、大腸がん、子宮がん) ・がん検診要精検者受診率(胃がん、肺がん、大腸がん、子宮がん)
ノーマライゼーション	・自分は健康だと感じている人

(2) 施策に対する評価

ア 評価方法

保健計画策定後実践してきた活動状況を自己評価することにより、課題等を整理し、今後の対応策を明確にすることとしました。

健康づくり課所管事業及び関係機関(公的機関)での取り組み、民間団体の取り組み(一部)等による評価をします。

イ 評価実施者

健康づくり課職員により話し合いによる事業、施策の評価を行いました。

ウ 評価方法 主観的評価

エ 評価基準

4	そうである、十分できている
3	どちらかというそうである、ほぼできている
2	どちらかというそうではない、あまりできていない
1	そうではない、できていない

※「健康ふくしま 21」中間評価判断基準に同じ

オ 評価結果

施策の評価においては、10の分野すべてにおいて3の評価となりました。

今後は、目標達成のため、民間を含む関係団体等との協働を推進していく必要があります。

(3) 分野別総合評価

ア 評価方法

保健計画策定後実践してきた活動状況を自己評価し、目標値に対する評価を実施することにより、分野別に課題等を整理し、今後の対応策を明確にします。

イ 判断基準等

A	目標が概ね達成されている
B	目標は未達成であるが、目標を達成するための事業が実施されている
C	目標は未達成であり、事業実施も十分とはいえない

ウ 評価結果

Aは「歯の健康」の1分野です。

Bは「身体活動・運動」など9分野です。

民間を含む関係団体、関係機関での活動状況の把握が不十分であることが明確になり、関係団体等との協働がなければ、目標も達成できないことが明らかとなりました。

今後は、関係団体等の取組み状況を把握し、協働して実践できる健康づくり体制の構築が課題です。

【評価表】

分野	目標値に対する評価		施策に対する評価		総合評価	
	A～Cで評価		4～1で評価		A～Cで評価	
	中間	最終	中間	最終	中間	最終
1 栄養・食生活	C	C	2	3	C	B
2 身体活動・運動	C	C	2	3	C	B
3 休養・こころの健康づくり	C	C	1	3	C	B
4 たばこ	C	B	2	3	C	B
5 アルコール	C	B	1	3	C	B
6 歯の健康	B	A	2	3	B	A
7 糖尿病	C	C	2	3	C	B
8 循環器病	C	C	2	3	C	B
9 がん	C	C	1	3	C	B
10 ノーマライゼーション	C	C	2	3	B	B

【1 栄養・食生活】

目標値に対する評価	施策に対する評価	総合評価
C	3	B

肥満男性は増加傾向にあり、栄養成分表示を参考にする人も減少していること等、目標値を達成することはできませんでしたが、肥満女性は減少しました。

食生活改善推進員の積極的な活動や特定保健指導実施による健診受診者への積極的な事業などを展開してきましたが、体系的な事業展開ではないために有効な施策となっておりませんでした。今後は、関係機関と連携し生涯を通じた食育を推進する必要があります。

【2 身体活動・運動】

目標値に対する評価	施策に対する評価	総合評価
C	3	B

何らかの地域活動に参加している高齢者は減少し、運動習慣者の増加については未達成であるが、公民館との連携による転倒予防教室の開催、健康づくり推進員による筋力アップ体操の普及や、老人クラブへの転倒予防カルタの配布等、各種介護予防事業を関係機関と連携して実施した事により、転倒経験者は減少しました。

今後も、関係団体との連携を図り、壮年期の運動と高齢者の介護予防事業を推進していく必要があります。

【3 休養・こころの健康づくり】

目標値に対する評価	施策に対する評価	総合評価
C	3	B

睡眠の足りない人の割合やストレスを感じている人が増加、また自殺者の増加など、基準値より悪化する結果となりました。

啓発活動に重点をおいて事業を展開してきましたが、今後はさらに相談業務の充実、地域で見守るネットワークの充実を図り、うつ・自殺予防対策の推進を図る必要があります。

【4 たばこ】

目標値に対する評価	施策に対する評価	総合評価
B	3	B

妊婦への禁煙指導や家庭分煙ステッカーの配布、集会施設への分煙活動等、目標達成に向けた事業を展開してきました。

公共施設の分煙は完全に実施されていますが、地区集会施設はまだ目標値には到達していません。今後さらに地域と行政が一体となって、分煙実施にむけての取り組みが必要です。

【5 アルコール】

目標値に対する評価	施策に対する評価	総合評価
B	3	B

多量飲酒者の減少を目指し健康づくり推進員が中心となって各地区で啓発活動を行ってきました。成人男性の多量飲酒者の割合は減少傾向にあります。今後さらにあらゆる年代への知識の普及活動が必要です。

【6 歯の健康】

目標値に対する評価	施策に対する評価	総合評価
A	3	A

中間評価結果に基づき目標値を上方修正しました。12歳児のむし歯本数、進行した歯周疾患のある者、さらに、自主的な歯科健診の受診者(女性)は、5年間で目標値をクリアすることができました。

今後はさらに、教育委員会等関係機関と連携し、生涯を通じた歯科保健体制を検討していく必要があります。

【7 糖尿病】

目標値に対する評価	施策に対する評価	総合評価
C	3	B

平成19年度の基本健康診査受診率は増加傾向にありました。平成20年度から特定健康診査・特定保健指導が開始され、健診事後指導の充実により、指導を受ける機会も増加しました。しかし、糖尿病による受診率(国保)は伸びており維持することはできませんでした。

今後は、壮年期の糖尿病減少を目指し、健診事後フォローのさらなる検討及びポピュレーションアプローチを含めた事業展開が必要です。

【8 循環器病】

目標値に対する評価	施策に対する評価	総合評価
C	3	B

高血圧疾患、脳梗塞による受診率(国保)が増加していますが、虚血性疾患の受診率(国保)は、減少がみられています。

今後、ポピュレーションアプローチを含めた事業展開が必要です。

【9 がん】

目標値に対する評価	施策に対する評価	総合評価
C	3	B

がん検診受診率、要精検者受診率はともに減少しています。

今後は、受診しやすい体制づくり、事後指導などを引き続き実施し、さらには、がんを予防するための生活習慣の改善教育を充実することが必要です。

【10 ノーマライゼーション】

目標値に対する評価	施策に対する評価	総合評価
C	3	B

2地区の「健康づくりの会」では、支えあい部会を中心としたノーマライゼーションの取り組みを展開しました。また、障害者の在宅生活の安定と社会復帰に向けて関係課、関係機関と連携し支援してきました。

今後は「須賀川市障がい者計画」(平成19年3月策定)との整合性を図り、社会福祉課等関係機関と連携を図り、ノーマライゼーションの普及促進を推進します。

なお、「須賀川市障がい者計画」策定にあたりアンケート調査を実施したので、本計画では、ノーマライゼーションに関する調査は一部のみ実施しました。



2 「須賀川市健康アップ21」目標達成度評価表

1. 栄養・食生活										
目標課題 (内容)	目標値	基準値 (13年度)	中間値 (17年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値		最終 評価	
							福島県	国		
①食塩摂取量の減少	男女とも 10g以下	男性 14.6g 女性 12.1g			 中間値同様、市単独で実施したため未調査			20歳以上 男性 11.6g 20歳以上 女性 9.9g	評価困難	
②野菜摂取量の増加	男女とも 350g以上	男性 303g 女性 322g						20歳以上 男女 295.3g		
③カルシウムに富む食品摂取量の増加	牛乳・乳製品 男女とも 130g以上	男性 124g 女性 150g	平成12年度は、厚生労働省のモデル事業として調査を実施。17年度は、市単独で中間評価を実施したため未調査。			(参考) 健康と生活習慣アンケート(H22年度) 副菜を毎食食べる人の割合 40～69歳 男性77.3% 40～69歳 女性82.3% 濃い味付けを好む人の割合 40～69歳 男性44.6% 40～69歳 女性26.8%				20歳以上 男性 80.9g 20歳以上 女性 99.7g
	豆類 男女とも 100g以上	男性 88g 女性 68g								20歳以上 男性 60.2g 20歳以上 女性 58.6g
	緑黄色野菜 男女とも 120g以上	男性 124g 女性 142g			20歳以上 男性 97.7g 20歳以上 女性					
④脂肪エネルギー比率の減少	男女とも 25%以下	男性 23.7% 女性 28.0%								
⑤栄養成分表示を参考にする人の増加	男性 30%以上 女性 60%以上	男性 22.3% 女性 42.6%	男性 22.6% 女性 39.7%	C C	健康と生活習慣アンケート(H22年度)	40～69歳 男性 20.2% 40～69歳 女性 38.8%			C C	
⑥成人肥満者の減少	40～69歳 男性 25%以下 女性 20%以下	男性 30.2% 女性 25.7%	男性 30.2% 女性 24.5%	C C		40～69歳 男性 34.4% 女性 22.0%		20～60歳代 男性 31.7% 40～60歳代 女性 21.8%	C B	
⑦健康や栄養を学習するグループの増加	10グループ	6グループ	7グループ	B	健康づくり課職員健康教育派遣分(H21年度)	9グループ			B	

※1 平成21年国民健康・栄養調査

2. 身体活動・運動									
目標課題 (内容)	目標値	基準値 (13年度)	中間値 (17年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値		最終 評価
							福島県	国	
①運動習慣者の増加	40～50歳代 男女とも 35%以上	男性23.9% 女性25.5%	男性 23.0% 女性 27.1%	C C	健康と生活習慣アンケート(H22年度)	40～50歳代 男性25.0% 女性26.0%		40歳代 男性25.4% 女性18.4% 50歳代 男性28.7% 女性25.0% ※1	C C
②日常生活における歩数の増加	男女とも 9,000歩以上	男性 8,570歩 女性 8,748歩				未調査			
②なんらかの地域活動に参加している高齢者の増加	70歳以上 男性 58%以上 女性 55%以上	男性 53.4% 女性 49.1%	男性 48.2% 女性 43.0%	C C	第4期介護保険事業アンケート調査(H20年度)	男性 44.7% 女性 41.6%		70歳以上 男性68.0% 女性62.6% ※1	C C
③国民健康保険における関節症受診率の維持	70歳以上 4.46%以下	4.46%	5.11% (須賀川全体)	C	国民健康保険疾病分類統計(H22年5月)	70～74歳 4.98% 男性3.10% 女性6.51%			C
④転倒経験者の減少	男性 21.5%以下 女性 29.5%以下	大東地区 75歳以上 男性 15.5% 女性 22.5%	男性 23.3% 女性 22.8%	C C	第4期介護保険事業アンケート調査(H20年度)				
	*中間評価で修正		須賀川全体 男性 21.5% 女性 29.5%			須賀川全体 男性 20.2% 女性 24.6%			(A) (A)

※1 平成20年国民健康・栄養調査

第5章 「健康アップ21」「すこやか親子21」最終評価


3. 休養・こころの健康づくり									
目標課題 (内容)	目標値	基準値 (13年度)	中間値 (17年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値		最終 評価
							福島県	国	
①睡眠の足りない人の割合の減少	40歳代 男性 35%以下 女性 32%以下	男性38.0% 女性36.7%	男性 46.5% 女性 46.1% ※男女とも有意に増加	C C	健康と生活習慣アンケート (H22年度)	40歳代 男性 48.8% 女性 52.8%			C C
	40歳代 男性 79%以下 女性 81%以下	男性88.0% 女性 90.4% ※とても強く感じる 男性 15.5% 女性 15.5%	男性 90.5% 女性 90.5% ※とても強く感じる 男性 17.6% 女性 23.7% ※女性は有意に増加	C C		40歳代 男性 93.2% 女性 97.6% ※とても強く感じる 男性 15.9% 女性 25.2%		40歳代 男性71.4% 女性73.7% ※とても強く感じる 男性 23.4% 女性 23.5% ※1	C C
③自殺者の減少	減少を図る	12人	18人	C	保健統計の概況 平成21年版(福島県保健福祉部)	20人(死亡率)(H21年) 25.1(死亡率)(H21年)	29.1(死亡率) (平成21年)	24.4(死亡率) (平成21年)	C

※1 平成20年国民健康・栄養調査

4. たばこ									
目標課題 (内容)	目標値	基準値 (13年度)	中間値 (17年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値		最終 評価
							福島県	国	
①喫煙が及ぼす健康影響についての十分な知識のある者の増加	知っている人の割合 100%	-	肺がん 97.90% 喘息 63.4% 気管支炎 81.5% 心臓病 51.1% 脳卒中 39.9% 胃潰瘍 25.8% 妊娠に関連した異常 61.8% 歯周病 26.6%		健康と生活習慣アンケート (H22年度)	肺がん 92.7% 慢性閉塞性肺疾患 63.6% 喘息 64.9% 気管支炎 71.8% 心臓病 48.3% 脳卒中 52.0% 胃潰瘍 25.3% 妊娠に関連した異常 64.4% 歯周病 36.5%			C C C C C C C C
			②未成年者の喫煙防止	0%		月1回以上の喫煙率 中1男子 1.0% 中1女子 0.8% 毎日吸う 中1男子 0% 中1女子 0%	月1回以上の喫煙率 中1男子 1.6% 中1女子 0.3% 毎日吸う 中1男子 0.8% 中1女子 0%	C A C A	喫煙率 中1男子 0.9% 女子 1.1% 高3男子 8.7% 女子 1.4%
③妊婦の喫煙率	0%	妊婦の喫煙率 11.50%	妊婦の喫煙率 10.40%	C		1～5歳 10.7% 1歳6か月4.4% 3歳4.9% ※1		3,4か月5.5%	C
④空間分煙の徹底	分煙実施率 100%	公共の場 -	公共の場 市役所・保健センター 33.30% 小中学校 100% 体育施設 43.8% 地区集会施設 13.8%		各市区集会所施設分煙化実態調査(H22年度)	公共の場 市役所(支所) 100.0% 保育施設 100.0% 小・中学校 100.0% 体育施設 100.0% 地区集会施設 49.1%			(A) (A) (A) (A) C
		職場 50.1% 家庭 41.8%	職場 49.0% 家庭 35.8% ※家庭は有意に減少	C C		健康と生活習慣アンケート (H22年度)	職場 72.0% 1～5歳 67.6% 中1 43.1% 高3 53.5% 成人 45.1%		
⑤喫煙率の減少	男性 47.9%以下 女性 7.6%以下	-	男性47.9% 女性 7.6%			男性 40.6% 女性 10.2%		男性38.2% 女性10.9% ※2	(A) C

※1 すこやか親子21中間評価第2回(国)

※2 平成21年国民健康・栄養調査

5. アルコール									
目標課題 (内容)	目標値	基準値 (13年度)	中間値 (17年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値		最終 評価
							福島県	国	
①多量飲酒者の減少	男性 9.0%以下 女性 0.3%以下	男性 15.2% 女性 0.6%	男性 18.0% 女性 0.9%	C C	健康と生活習慣アンケート (H22年度)	男性 7.2% 女性 1.6%		男性10.3% 女性6.4% ※1	Ⓐ C
②未成年者の飲酒防止	0%	—	毎日飲酒 中1男子0.2% 中1女子0% 月1回以上飲酒 中1男子2.0% 中1女子0.6%		 未調査				
③節度ある適度な飲酒の知識のある者の増加	100%	—	男性62.3% 女性67.4% (須賀川全体)		健康と生活習慣アンケート (H22年度)	男性 43.5% 女性 52.4%		男性69.2% 女性71.7% ※1	C C

※2 平成20年国民健康・栄養調査

6. 歯の健康									
目標課題 (内容)	目標値	基準値 (13年度)	中間値 (17年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値		最終 評価
							福島県	国	
①う歯のない幼児の増加	3歳児 70.0%以上	3歳児 53.5%	3歳児 58.0%	B	3歳児健康診査(H21年度)	3歳児 68.4%	3歳児 65.6% ※2	3歳児 75.4% ※3	A
②1人平均う歯数の減少	12歳児 3歯以下 17年度目標修正 2歯以下	12歳児 4歯	12歳児 2.6歯	A	福島県歯科保健情報システム集計結果(H21年度)	12歳児 1.4歯	12歳児 ※2 1.67歯	12歳児 ※3 1.4歯	Ⓐ Ⓐ
③進行した歯周炎のある者の減少	41歳男性 30%以下	41歳男性 42.1%	41歳男性 64.7%	C	YOU悠ドック歯周疾患検診 (H21年度)	41歳男性 25.6% 41歳女性 22.2%		40歳代※1 男女 22.8%	Ⓐ Ⓐ
④自主的な歯科検診の受診者の増加	40～69歳 男女とも 20%以上	40～69歳 男性 13.2% 女性 16.8%	40～69歳 男性16.1% 女性18.2%	A A	健康と生活習慣アンケート (H22年度)	40～69歳 男性 19.5% 女性 29.0%	19歳～89歳 男性 28.5% 女性 30.9% ※4	40歳代32.2% 50歳代35.9% 60歳代41.4% 70歳以上 31.0% ※1	A Ⓐ 未調査
	70歳以上 男女とも 20%以上	70歳以上 男性 12.0% 女性 11.6%	70歳以上 —	— —		70歳以上 未調査			
⑤自分の歯を有する者の増加	55～64歳で24歯以上 男女とも 50%以上	男性 46.0% 女性 37.0%	男性 39.0% 女性 37.1%	C C	健康と生活習慣アンケート (H22年度) 第4期介護保険事業計画策定のためのアンケート調査 (H20.8月)	55～64歳で24歯以上 男性 44.6% 女性 47.3%	男性 73.4% 女性 61.6% ※4	75～84歳で 20歯以上 男女26.8% ※1	B B B
	75～84歳で20歯以上 男女とも 20%以上 17年度男性のみ目標修正 男性27%以上 女性20%以上 (修正なし)	男性17.5% 女性13.5%	男性 26.4% ※男性は有意に増加 女性 15.0%	A C		75歳以上で18.5%(男女計)			

※1 平成21年国民健康・栄養調査

※2 平成21年度福島県母子歯科保健実績

※3 平成20年度歯科健康診査に係る実績状況

※4 平成21年度福島県歯科疾患実態調査報告書

7. 糖尿病									
目標課題 (内容)	目標値	基準値 (13年度)	中間値 (17年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値		最終 評価
							福島県	国	
①成人肥満者の減少(※分野1⑥と同様)									
②野菜の摂取量の増加(※分野1②と同様)									
③日常生活における歩数の増加(※分野2②と同様)									
④多量飲酒者の減少(※分野5①と同様)									
⑤基本健康診査受診率の増加	45%以上	37.2%	34.0% ※有意に減少	C	保健事業概況(平成19年度)	42.40%			B
⑥血糖要医療者の医療機関受診者の増加	100%	60.0% (西浜・東公民館管内) (旧須賀川全地区)	32.4%	C		未調査			
⑦糖尿病の医療機関受診率	3.08%以下	3.08%	3.47% ※有意に増加	C	国民健康保険疾病分類統計 (H19年5月)	3.97%			C
⑧血糖検査異常者で事後指導を受けている者の増加	18%以上	9.3%	10.9%	C		未調査			

第5章 「健康アップ21」「すこやか親子21」最終評価

8. 循環器病									
目標課題 (内容)	目標値	基準値 (13年度)	中間値 (17年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値		最終 評価
							福島県	国	
①成人肥満者の減少(※分野1⑥と同様)									
②食塩摂取量の減少(※分野1①と同様)									
③野菜の摂取量の増加(※分野1②と同様)									
④運動習慣者の増加(※分野2①と同様)									
⑤空間分煙の徹底(※分野4④と同様)									
⑥禁煙希望者への禁煙推進による成人非喫煙者の増加(※分野4⑤と同様)									
⑦多量飲酒者の減少(※分野5①と同様)									
⑧基本健康診査受診率の増加(※分野7⑤と同様)									
⑨高血圧性疾患・ 虚血性心疾患・脳 梗塞の減少	高血圧性疾患	15.02%	16.33%	C	国民健康保険疾病分類統計 (H19年5月)	17.60%			C
	14.5%以下		※有意に増加						(A)
	虚血性心疾患	2.29%	1.98%	A		1.97%			
	2.0%以下		※有意に減少						
⑩事後指導を受け ている者の増加	基本健康診査事後指導会	(22回)	(13回)	C	老人保健事業実績 (H19年度)	(21回)			C
	10%以上	7.5%	1.43%			1.31%			
	YOU悠ドック事後指導会					(10回)			
⑪最大血圧 160mmHg、最小血 圧95mmHg以上の 者の減少	30～69歳				基本健康診査結果 (H19年度)				
	男性 8.0%以下	男性 10.8%	男性 10.5%	C		男性 15.3%			C
	女性 5.0%以下	女性 7.7%	女性 8.0%	C		女性 7.3%			C

9. がん										
目標課題 (内容)	目標値	基準値 (13年度)	中間値 (17年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値		最終 評価	
							福島県	国		
①食塩摂取量の減少(※分野1①と同様)										
②野菜摂取量の増加(※分野1②と同様)										
③禁煙希望者への禁煙推進による成人非喫煙者の増加(※分野4⑤と同様)										
④多量飲酒者の減少(※分野5①と同様)										
⑤がん死亡者数の 減少	減少を図る	146人	149人	C	保健統計の概況 平成21年版(福島県保健福 祉部)	198人(死亡数)(平成21 年) 248.6(死亡率)(平成21年)	297.7[死亡 率] (平成21年度)	273.5[死亡 率] (平成21年度)	C	
⑥がん検診受診率 の増加	胃がん				健康と生活習慣に関するア ンケート(H22年度)					
	男性 70%以上	男性 53.6%	男性 50.9%	C		男性 45.6%	42.3%	32.5%	C	
	女性 62%以上	女性 47.8%	女性 45.7%	C		女性 42.2%	37.9%	25.3%	C	
	結核・肺がん									
	男性 94%以上	男性 72.0%	男性 67.1%	C		男性 53.1%	30.8%	25.7%	C	
	女性 93%以上	女性 71.8%	女性 69.4%	C		女性 55.3%	26.8%	21.1%	C	
⑦がん検診要精検 者受診率の増加	大腸がん				地域保健・健康増進事業報 告(H21年度)H20年度実績					
	男性 50%以上	男性 38.4%	男性 37.0%	C		男性 30.9%	31.5%	27.5%	C	
	女性 41%以上	女性 31.9%	女性 29.9%	C		女性 31.7%	26.6%	22.7%	C	
	子宮がん	64%以上	48.90%	45.40%	C	48.1%	25.6%	21.3%	C	
	乳がん	46%以上	35.50%	34.90%	C	43.1%	23.9%	20.3%	B	
⑦がん検診要精検 者受診率の増加	100%									
	胃がん83.8%	胃がん 77.0%	C	胃がん		90.8%				
	肺がん(胸部 X線)78.3%	肺がん(胸 部X線) 74.7%	C	肺がん(胸 部X線)		80.7%				
	肺がん(喀痰 細胞診)要精 検者0人	肺がん(喀 痰細胞診) 50%	C	肺がん(喀 痰細胞診)		100%			(A)	
	大腸がん 74.7%	大腸がん 70.8%	C	大腸がん		82.8%				
	子宮がん 100%	子宮がん 83.3%	C	子宮がん		76.9%				
乳がん83.2%	乳がん 93.6%	A	乳がん	77.6%						

10. ノーマライゼーション									
目標課題 (内容)	目標値	基準値 (13年度)	中間値 (17年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値		最終 評価
							福島県	国	
①自分は健康だと 感じている人の増 加	40～69歳	40～69歳	40～69歳		健康と生活習慣アンケート (H22年度)	40～69歳			
	90%以上	男性80.4%	男性79.0%	C		男性79.3			C
		女性81.3%	女性82.9%	C		女性82.8%			C
	70歳以上	70歳以上	70歳以上			70歳以上			
	70%以上	男性64.6%	男性63.1%	C		未調査			
		女性60.2%	女性64.0%	B					
②住宅改修の年間 実施件数の増加	200件	137件	188件	A	介護保険住宅改修支給実績	217件			(A)

3 「須賀川市健康アップ21」施策評価表

評価基準 4 十分できている 3 ほぼできている 2 あまりできていない 1 できていない

施策の評価表

1	施策	事業名	開始年度	21年度実施状況(回数等)	中間		最終		今後の方向性
					事業評価	施策評価	事業評価	施策評価	
栄養	①乳幼児期からバランスのとれた食生活を送るための知識の普及	(1)食生活改善推進委員会による活動 ・各地区伝達料理講習会実施 ・各公民館、親子料理教室実施	継続	(61回、831人) (8回、181人)	4		3	食育推進計画に基づき、ライフステージを通じた知識の普及に取り組む	
		(2)推進委員会補助事業 ・産業フェスティバル等での啓発活動 ・特定健康診査時の活動 ・その他講習会の協力		(4回、862人) (20回、1,696人) (70回、2,606人)					
		(3)保育所児親へ食育チラシの発行	継続	(17年度からこども課栄養士により、月1回、食育の日に発行)	3		4		
		(4)小学生への食育事業(モデル) ・子どもエプロン隊 ・仁井田食育講座 ・白方小学校総合学習(スマイルタイム) ・食育塾(中央公民館)	平成16年度 平成18年度 平成14年度 平成17年度	(3回、延57人)※16年度実績 (1回、36人)※21年度実績 (1回、330人) (8回、延131人)	2		3		
		(5)乳幼児健診時におけるグループ及び個別指導	継続	・グループ (37回、1,324人) ・個別 (74回、623人)	3		4		
食	②自分の「適正体重」を知るための知識の普及と実践への支援	(1)健康教育、健康相談 ・健康チャレンジ塾の開催(肥満・高脂血症の者) ・特定健康診査結果説明会時の教育 ・特定保健指導対象者への教育	継続	(6回、延64人)※19年度実績	3	2	4	あらゆる機会をとらえ、継続的な啓発を図る	
		・Y・O・U悠ドック結果説明会時の教育 ・産業フェスティバルでの体組成測定及び相談 ・いきいき水中ウォーク教室時の教育 ・健康いちばん教室時の教育	平成20年度 平成20年度 継続 平成21年度 平成14年度 継続	(15回、231人) (初回動機づけ119人、積極的51人) (10回、101人) (4回、174人) (16回、209人) (20回、164人)					
		(2)依頼健康教育	継続	(41回、671人)					2
		(3)普及啓発事業	継続	(67回、459人)	2	3			
生	③自主グループの育成支援	(1)食生活改善推進員の養成講座(食生活ジャンプアップ講習会)	平成13年度	(11回、延110人)	4		4	自主的に協働できる体制づくりの推進	
		(2)食生活改善推進員の育成と活動支援	継続	(研修会17回、延431人、会議58回、延417人)推進員数89名	4	4	4		
活	④外食産業への栄養成分表示の働きかけ	(1)うつくしま健康応援店登録の働きかけ (2)栄養表示の見方、登録店について広報特集記事掲載 (3)市内飲食店組合へ、健康応援店のチラシ配付と食改作成野菜ポスター配布	平成17年度 平成19年度	(登録店28店舗)※22年度実績 (1回)※20年度実績 (市内飲食店164店舗)	1	1	2	2	県事業、関係機関との連携を図る
		食生活改善推進委員会による活動 ・伝達料理講習会での地元農産物使用 ・産業フェスティバル野菜レコ紹介・健康カレンダー-野菜レコHP掲載 ・農政課産地消費の夕べの料理協力	継続	(1回、200人)	3	2	3	3	関係課、関係機関との連携を図る

第5章 「健康アップ21」「すこやか親子21」最終評価

2	施策	事業名	開始年度	21年度実施状況(回数等)	中間		最終		今後の方向性	
					事業評価	施策評価	事業評価	施策評価		
身 体 活 動 運 動	①健康づくりのための運動知識の普及	(1)健康教育事業 ・いきいき水中ウォーク教室 ・出前健康教育 ・健康づくり推進員育成 ・健康いちばん教室 ・YOU悠ドック相談会	平成14年度 継続 継続 継続 継続	(16回・延111人) (41回・延671人) (10回・延177人) (20回・154人) (10回・101人)	2	1	3	3	あらゆる機会をとらえ、関係機関と連携し、継続的な啓発を図る	
		(2)特定保健指導 ・積極的支援 ・動機づけ支援	平成20年度	(初回面接：51人) (初回面接：119人)	—	—	3	—		
		(3)市広報による普及	継続	(2回)	2	—	3	—		
	②運動サークル等の情報の提供				1	1	1	1	関係課・関係団体と連携していく	
	③体力づくりのための環境整備	(1)健康づくりの会等による運動機会 (健康ウォーキング大会)				2	1	3		3
		・大東地区 ・仁井田地区 ・長沼地区 ・岩瀬地区		(3回・163人) (3回・138人) (1回・250人) (1回・250人)						
		(1)実態調査	平成14年度	高齢者の関節痛に関する実態調査を平成14年度実施。その結果をもとに下記事業を実施。	4	—	4	—		
		●地域における関節痛の実態調査	平成15年度	2回1コースで全地区実施(H15～H17) (119回・3,447人) 推進員数：150人	3	3	3	4		
	●膝痛予防・改善事業の開催 (在介センター)	(4)訪問指導		介護保険法制度変更に伴い、在宅介護支援センター廃止	2	—	—	—		
	⑤転倒予防の知識の普及とつづかない・すべりにくい環境整備	(1)転倒予防教室の開催	平成18年度	老人クラブおよび高齢者サロン事業とタイアップ実施(H20：12回・313人)	3	—	3	—	あらゆる機会をとらえ、関係機関と連携し、継続的な啓発を図る。健康づくり推進員が介護予防事業として活動できるように支援する。	
平成21年度			公民館主催高齢者学級とタイアップ実施(2回×9コース・延650人) ※台風で1回中止：17回	2	—	—	—			
(2)作業療法士による助言(福祉)		継続	家庭訪問(5回・5人)	3	—	3	—			
(3)市広報による普及		継続	(1回)	—	—	3	—			
(4)介護予防学習会		継続	(12回・272人)	—	—	3	—			
(5)元気アップ教室		平成20年度	(16回・参加実数130人・推進員等延64人)	—	—	3	—			
(6)転倒予防カルタ		平成20年度	公民館・老ク・サロンに配布(9公民館・84か所・33か所)	—	—	4	—			
(7)介護予防事業 「いきいき筋力アップ教室」		平成18年度	(H18～H20) (H21～特定高齢者事業移行)	—	—	3	—	長寿福祉課で実施		
(8)介護予防サポーター養成	平成18年度	(H18～H20)養成実数：45人	—	—	3	—				
3	施策	事業名	開始年度	21年度実施状況(回数等)	中間 事業評価	中間 施策評価	最終 事業評価	最終 施策評価	今後の方向性	
休 養 ・ 心 の 健 康	①休養(睡眠)の必要性等の正しい知識の普及・啓発	市広報による普及		年1回	—	1	2	2	相談窓口のPRとうつ予防の知識の普及を図り、うつ・自殺予防対策の充実を図る	
		②ストレスを解消するための環境整備「こころの相談」の充実	保健センター内健康相談	継続	相談件数 244件	2	1	3		3
		③「うつ状態」を理解するための知識の啓発	(1)うつ予防講演会(医師)	平成20年度	(1)1回 80人(一般市民)	—	—	3		—
			(2)うつ病・自殺予防パンフレット配布	平成21年度	(2)新中学生とその保護者、20歳、乳幼児健診時	2	1	3		3
(3)市広報による普及			(3)年1回	—	—	3	—			

4	施策	事業名	開始年度	21年度実施状況(回数等)	中間		最終		今後の方向性	
					事業評価	施策評価	事業評価	施策評価		
た ば こ	①喫煙に関する情報の提供・啓発	(1)健康教育事業・YOU悠ドック相談会	継続	(10回・101人)			3		あらゆる機会をとらえ、継続的な啓発を図る	
		(2)特定保健指導・積極的支援・動機づけ支援	平成20年度	(初回面接：51人) (初回面接：119人)			3			
		(3)健康づくり推進員による啓発・健康づくり推進員に対する研修・産業フェスティバル時・特定健康診査時・地区活動	平成18年度	(9回・120人) (1回・1,160人) (90回・6,278人) (25回・459人)	2		4	3		
	②未成年者に対する喫煙防止教育の充実	喫煙防止教育	継続	全中学1年生 医師による講演会及びアンケート調査 (10回・1,022人)	4	3	4	4		対象者の年齢検討
	③妊娠前から出産後の喫煙防止教育及び禁煙支援の充実	(1)母子健康手帳交付時の健康相談 (2)市広報誌による啓発	継続	相談人数 687人 年1回	2	1	2	2		妊産婦に対する効果的な禁煙支援検討
④空間分煙推進(公共の場・職場・家庭)	(1)集会施設の実態調査・教育	平成15年度	(1)町内会長への調査及び調査結果及び分煙推進教育資料送付	3		4		地域の分煙推進体制の整備を図る		
	(2)集会施設へのポスター貼付	平成17年度	(2)全地区集会所	3	2	4	4			
	(3)分煙ステッカーの配付	平成16年度	(3)母子健康手帳交付時配付	3		4				
	(4)乳幼児健診時の指導	継続	3か月、9か月、1歳6か月、3歳児健診			4	4			
⑤禁煙希望者への禁煙支援体制づくり	(1)①-②と同じ	平成20年度	(1)①-②と同じ		1	3		禁煙希望者への禁煙外来の紹介		
	市広報誌による啓発		年1回			3	2			

5	施策	事業名	開始年度	21年度実施状況(回数等)	中間		最終		今後の方向性
					事業評価	施策評価	事業評価	施策評価	
ア ル コ ー ル	①節度ある飲酒の啓発(週2日の休肝日)	(1)健康教育事業・YOU悠ドック相談会	継続	(10回・101人)	2		3		あらゆる機会をとらえ、継続的な啓発を図る
		(2)特定保健指導・積極的支援・動機づけ支援	平成20年度	(初回面接：51人) (初回面接：119人)		1	3		
		(3)健康づくり推進員による啓発・健康づくり推進員に対する研修・産業フェスティバル時・特定健康診査時・地区活動	平成18年度	(9回・120人) (1回・1,160人) (90回・6,278人) 17回・320人)			4		
②未成年者の飲酒防止教育及び環境づくり	アンケート調査		喫煙防止教育開始前のアンケート調査(全中学1年生) ※平成17年度実施	1	1	1	1	関係課との連携により未成年者の飲酒防止を図る	

6	施策	事業名	開始年度	21年度実施状況(回数等)	中間		最終		今後の方向性
					事業評価	施策評価	事業評価	施策評価	
歯 の 健 康	①歯科保健の知識の普及	(1)歯周疾患検診事後相談会(40歳：人間ドック事後相談会)	継続	(10回、101人)	3		3		歯周疾患の予防・早期発見を定着させる
		(2)フェスティバル等での歯科衛生士による歯科相談	継続	(8回 83人)	2		3		
	②自己管理を支援する環境づくり	①-①(2)と同じ	継続	①-①(2)と同じ		2	3	3	専門家による定期管理の充実を図る
		(1)歯周疾患検診(一万人間ドック会場で実施)	継続	(40歳、347人)	3		3		
③専門家による定期管理等の支援	(2)幼児フッ化物歯面塗布事業(1歳～3歳6か月)	平成17年度	(延812人)	3		3		関係課との連携により、生涯を通じた歯の健康づくり体制を検討する	
	(1)幼児フッ化物歯面塗布事業(1歳～3歳6か月)	平成17年度	(延812人)	3		3			
	(2)乳幼児健診における歯科検診・歯科相談(9,10か月児(相談)1歳6か月児、3歳児(歯科検診・歯科相談))	継続	(55回 2,077人)	4		4			
	(3)歯科衛生士による歯科教育・児童館での歯科衛生士による歯科指導・長沼2歳児教室	継続	(3回)		3	2	3		
継続		(3回)							
④生涯を通じた歯の健康づくり体制整備	・わいわいランチタイム(子ども課)	平成19年度	(14回、297人)※22年度実績			3			
	(4)寝たきり老人等訪問歯科診療・相談事業	継続	(4)診療(実18人延べ83人)相談(36人)	3		3			

第5章 「健康アップ21」「すこやか親子21」最終評価

7	施策	事業名	開始年度	21年度実施状況（回数等）	中間		最終		今後の方向性		
					事業評価	施策評価	事業評価	施策評価			
糖 尿 病	①基本健康診査の充実と普及啓発	(1)個別健診(モデル地区)	平成17年度	(1)医療機関での健診開始 (長沼地区：平成17年度～)	3		3	3	受診率向上のための対策を検討		
		(2)総合検診(モデル)		(2)胃検診と合同実施	3	2	3				
		(3)休日等健診		(3)土・日・祝日健診 (須賀川・長沼・岩瀬で4日間)	—		3				
	①'特定健康診査等の充実と普及啓発	(1)健診制度の変更	平成20年度	集団及び医療機関での健診 (受診率：5.9%) (受診率：36.3%) (受診率：17.2%)	—	—	3				
		・基本健康診査：30～39歳 ・特定健康診査：40～74歳国保 ・後期高齢者健康診査：75歳以上									
	②基本健康診査事後フォローの充実	(1)事後相談会	継続	(H19：21回・122人)	2		2			3	健診事後フォロー体制及び内容を検討
		(2)ハイリスク者等の訪問指導	継続	(H19：63人中62人) 訪問25、来所4、電話33	3	2	4				
		(3)糖尿病予防教育「糖ってもいい会」	平成17年度	(H18：8回・108人)	3		3				
	②'特定健康診査事後フォローの充実	(1)結果説明会	20年度変更	(15回・231人)	—		3				
		(2)ハイリスク者等の訪問等事業 ・ヘモグロビンA1c 10.0以上者 ・30歳代積極的支援レベル者 ・緊急値の者	平成20年度	(10人中5人) 訪問3、来所1、電話1 (25人中18人) 訪問4、来所10、電話4 (5人中5人) 訪問3、来所1、電話1	—	—	3				
(3)特定保健指導 ・積極的支援 ・動機づけ支援		平成20年度	(初回面接：51人) (初回面接：119人)	—		3					
③健康自主学習グループの育成支援 ④糖尿病予防のための健康教育・健康相談の充実	糖尿病予防教室O B会	平成18年度	(4回・延25人・1団体)	3	2	3	3	特定保健指導対象者以外への介入方法を検討する			
	糖尿病予防教育 (糖ってもいい会) 特定保健指導		②-(3)と同じ ②'-(1)(2)(3)と同じ	3	2	3					

8	施策	事業名	開始年度	21年度実施状況（回数等）	中間		最終		今後の方向性	
					事業評価	施策評価	事業評価	施策評価		
循 環 器 病	①基本健康診査の充実と普及啓発	7-①・①'と同じ				2	3	3	3	健診事後フォロー体制及び内容を検討する
		7-②・②'と同じ						3		
	②基本健康診査事後フォローの充実	(1) 血圧ゆったり教室	平成17年度	(H18：6回・延32人) (H17・H18のみ実施)		2		3		
		(2) 健康チャレンジ塾	継続(平成19年内容変更)	(H19：21回・延292人)			3			
③健康自主学習グループの育成支援	(1)健康学習グループ支援 ・健康チャレンジ塾参加者のつどい	平成18年度	(4回・延21人)	3		3	3	地区の実情と必要に応じて支援する。壮年世代の新たな参加ができるような支援。		
	(2)健康学習グループ：5グループ ・はつらつ学習会（健康学習会） ・東学習会 ・西袋学習会 ・稲田学習会 ・中央学習会		(7回・延138人) (7回・延127人) (11回・延138人) (9回・延78人) →介護予防学習会へ移行	3	3	3				
④循環器病予防のための健康教育・健康相談の充実	(1)集団健康教育		8-②と同じ		2	2	3	3	特定保健指導対象者以外への介入方法を検討する	
	(2)依頼による教育・相談 ・出前健康教育		(41回・延671人)			3				

9	施策	事業名	開始年度	21年度実施状況(回数等)	中間		最終		今後の方向性
					事業評価	施策評価	事業評価	施策評価	
がん	①がんを予防するための生活習慣改善	(1)集団健康教育			2	1	1	2	健康づくり推進員等と連携し、普及啓発を図る
		(2)健康づくり推進員による普及 〔肺がん〕・分煙推進 ・健康づくり推進員に対する研修 ・産業フェスティバル時 ・特定健康診査時 ・地区活動 〔肝がん〕・多量飲酒の害：適正飲酒 ・健康づくり推進員に対する研修 ・産業フェスティバル時 ・特定健康診査時 ・地区活動	平成18年度	(9回・120人) (1回・1160人) (90回・6278人) (17回・320人) (9回・120人) (1回・1160人) (90回・6278人) (17回・320人)	—	—	3		
	②がんに対する正しい知識の普及	(1)集団健康教育 〔肺がん〕・中学生喫煙防止教育 〔子宮がん〕・集団健診時教育	継続	(10回・1022人) (11回・678人)	2	1	2	3	他のがん検診にも拡大し、知識の普及を図る
		(2)普及チラシ配布 〔子宮がん〕集団・施設検診時配布 〔乳がん〕受診券送付時	継続	(2555人受診) (2339人)	—	—	3		
	③がん検診の充実と普及啓発	(1)がん検診の充実 〔胃がん〕 〔肺がん〕胸部X-P 喀痰細胞診 〔大腸がん〕 〔乳がん〕	平成16年度 平成20年度 平成20年度 平成20年度 平成17年度	胃内視鏡検査導入 施設検診導入 施設検診導入 施設検診導入 マンモグラフィ導入	2	1	3	3	受診率向上のため、継続して普及啓発を図る
		(2)がん検診の受診 〔胃がん〕男性 女性 〔肺がん〕男性 女性 〔大腸がん〕男性 女性 〔子宮がん〕 〔乳がん〕		(受診率アンケート調査より) (受診率：45.6%) (受診率：42.2%) (受診率：53.1%) (受診率：55.3%) (受診率：30.9%) (受診率：31.7%) (受診率：48.1%) (受診率：43.1%)			3		
		※女性特有のがん無料クーポン 〔子宮がん〕 〔乳がん〕	平成21年度		—	—	3		
		(3)検診登録のおすすめチラシ配布 ・全戸回覧 ・YOU悠ドック結果送付時封入		「保健事業のお知らせ」全世帯 (347人)	—	—	3		
		(4)精密検査未受診者フォロー 〔胃がん〕 〔肺がん〕 〔大腸がん〕 〔子宮がん〕 〔乳がん〕		精密検査未受診者に対する追跡調査	2	2	2		
		(2)がん検診の精検受診率 〔胃がん〕 〔肺がん〕胸部X-P 喀痰細胞診 〔大腸がん〕 〔子宮がん〕 〔乳がん〕		(精検受診率：40.8%) (精検受診率：80.7%) (精検受診率：100%) (精検受診率：82.8%) (精検受診率：76.9%) (精検受診率：100%)	—	—	2	2	精検未受診者に対し受診勧奨し、精検受診率の向上を図る

10	施策	事業名	開始年度	21年度実施状況(回数等)	中間		最終		今後の方向性
					事業評価	施策評価	事業評価	施策評価	
ノーマライゼーション	①ノーマライゼーションの普及促進	(1)「健康づくりの会」活動 ・ふれあいウォーキング大会(大東)	平成16年度	(1回・111人)	3	2	3	3	「健康づくりの会」等の活動を通して普及促進を図る
		・障害者と小学生の交流(大東) ・障害者交流事業(東部ふれあい会) ・仁井田ささえあい部会	平成16年度 平成19年度 平成19年度	(1回・48人) (18回・164人) (1人暮らし訪問43人 施設見学11人)					
		(2)障害者ふれあい交流会	平成19年度	(1回・81人)			3		
	②身体障害者等に対する適切な就労機会の環境整備	相談機関との連携				1	2	2	関係課、他職種と連携し就労支援を図る
③介護保険制度等による住宅改修の普及促進	(1)住宅改修ワーキンググループ(福祉)			(1)周知・啓発(啓発用チラシ作成等) ※平成12～17年度実施	3	3	3	3	住宅改修の普及促進等により在宅生活を支援する
	(2)作業療法士による支援			(2)訪問指導 5回	3		3		
④精神障害者の生活(社会復帰等)に関する実態の把握及び対策の検討	(1)訪問指導			53回			3	3	関係課、関係機関と連携し社会復帰の促進を図る
	(2)ゆったりクラブ	平成19年度		(21回・実15人、延131人)	1		3	3	

第3節 「すこやか親子21」最終評価

1 「すこやか親子21」総合評価表

(1) 数値目標に対する評価

ア 評価の方法

数値目標が達成されたかを評価し、今後の健康増進計画(母子保健施策)の基礎資料とします。また、現況値(平成22年度調査)が、目標に対してどのような状況にあるかを判断の目安とします。

イ 判断基準等

A	よくなっている傾向
B	ほぼ変わらない
C	悪くなっている傾向
評価困難	
未調査	

「健康ふくしま21」評価
中間評価判断基準に
同じ

ウ 評価結果

(ア) よくなっている傾向

分野	項目
安心できる子育て	・ゆったりとした気分で子育てできる親 ・育児に参加する父親、 ・かかりつけ医をもつ親 ・乳幼児健診で育児不安を解消できた親 ・救急病院を知っている親 ・妊娠時幸福感をもてない母親
責任ある子育て	・計画外妊娠 ・妊娠中の喫煙率、妊娠中の飲酒率 ・妊娠11週以下での妊娠届出率 ・子どもの予防接種率 ・育児中の分煙率
バランスのとれた食生活	・朝食を必ず食べる子ども ・好き嫌いがある子ども ・親子で料理をする機会のある子ども ・子どもの栄養のバランスを考える親、栄養のバランスを考えて食べている子ども
健康な歯	・う歯のない3歳児、12歳児のう歯数 ・子どもの仕上げ磨きを毎日する親 ・子どものおやつ時間を決めている親 ・フッ素塗布を受けたことのある子ども
喫煙・飲酒・薬物乱用の防止	・高校生の喫煙率 ・薬物の害についてよく知っている生徒(中1 高3) ・妊娠中の飲酒の影響を知っている生徒(高3)
思春期をこころゆたかに	・家族に大切にされていると思う生徒(中1 高3) ・親と楽しく過ごす時間のある子ども

(イ) 悪くなっている傾向

分野	項目
責任ある子育て	・危険物をまわりに置く親
バランスのとれた食生活	・標準体重児(中1 高3) ・一人で食事をすることがほとんどない子ども
楽しく運動	帰宅後や休日からだを動かす小学生

喫煙・飲酒・薬物乱用の防止	・中学生の喫煙率(中1女子)
思春期をこころゆたかに	・自分ことを好きと思う子ども ・家族とからだ、異性について話をする生徒(中1 高3)

(2) 施策に対する評価

ア 評価方法

保健計画策定後実践してきた活動状況を自己評価することにより、課題等を整理し、今後の対応策を明確にすることとしました。

健康づくり課所管事業及び関係機関(公的機関)での取り組み、民間団体の取り組み(一部)等による評価をします。

イ 評価実施者

健康づくり課職員による話し合いにより、事業・施策の評価を行いました。

ウ 評価方法 主観的評価

エ 評価基準

4	そうである、十分できている
3	どちらかというところである、ほぼできている
2	どちらかというところではない、あまりできていない
1	そうではない、できていない

※「健康ふくしま21」評価中間評価判断基準に同じ

オ 評価結果

施策の評価においても「健康な歯」の分野は4の評価となり、「安心できる子育て」も中間評価時の3から4の評価となりました。

今後の取り組みとしては、民間を含む関係団体等との協働が、目標達成の鍵となります。

(3) 分野別総合評価

ア 評価方法

保健計画策定後実践してきた活動状況を自己評価し、目標値に対する評価を実施することにより、分野別に課題等を整理し、今後の対応策を明確にします。

イ 判断基準等

A	目標が概ね達成されている
B	目標は未達成であるが、目標を達成するための事業が実施されている
C	目標は未達成であり、事業実施も十分とはいえない

ウ 評価結果

Aは「健康な歯」の1分野です。

Bは「安心できる子育て」など6分野です。

Cは「楽しく運動」「ノーマライゼーション」の2分野です。

今後は、目標達成のため、民間を含む関係団体等との協働を推進していく必要があります。

【評価表】

分野	数値目標に対する評価		施策に対する評価		総合評価	
	A～Cで評価		4～1で評価		A～Cで評価	
	中間	最終	中間	最終	中間	最終
1 安心できる子育て	B	B	3	4	B	B
2 責任ある子育て	B	B	3	3	B	B
3 バランスのとれた食生活	B	B	3	3	B	B
4 健康な歯	B	A	3	4	B	A
5 楽しく運動	B	B	2	2	C	C
6 喫煙・飲酒・薬物乱用の防止	B	B	3	3	B	B
7 思春期をこころ豊かに	B	B	2	3	C	B
8 ノーマライゼーションにあふれたまち	C	C	2	2	C	C
9 病気や障がいのある子どもとその家族とともに	A	未調査	3	3	A	B

【1 安心できる子育て】

目標値に対する評価	施策に対する評価	総合評価
B	4	B

育児によく参加する父親が増え、ゆったりとした気分で子育てできる親が増えていますが、育児に自信が持てない親、虐待を否定できないと思う親はほぼ変わらない状況です。

今後は、関係機関の子育て支援事業と連携し、子育てに不安のある親等に対する支援事業の充実を図るとともに、地域全体で子育てをする環境整備に努める必要があります。

【2 責任ある子育て】

目標値に対する評価	施策に対する評価	総合評価
B	3	B

保健計画策定時の調査で、計画外妊娠による出産・子育ては、責任ある子育てと結びつかないという結果より、計画外妊娠の減少に向けて事業を展開してきました。

その結果、計画外妊娠による出産が減少するとともに、妊娠中の喫煙・飲酒の減少、分煙率の向上、予防接種率の向上等責任ある子育てがすすんできています。

今後も乳幼児期から思春期まで一貫したいのちの教育の充実を図るため、関係機関と協議しながら事業を展開する必要があります。

【3 バランスのとれた食生活】

目標値に対する評価	施策に対する評価	総合評価
B	3	B

子どもの栄養のバランスを考える親や朝食を食べる子どもが増加した反面、ひとりで食事をすする子どもが若干増えています。

地域や保育所・学校等でも食育をすすめていることから、関係機関と連携し、食生活改善推進委員会と協働しながら、現在の取り組みをいかし更なる事業の充実を図る必要があります。

【4健康な歯】

目標値に対する評価	施策に対する評価	総合評価
A	4	A

フッ化物歯面塗布事業や歯科保健事業を展開してきた結果、幼児期のむし歯本数が減少し、学童期のむし歯本数が目標値を達成しました。

今後はさらに、乳幼児健康診査や各種保健事業での歯科指導の充実を図り、歯科医師会・教育委員会等関係機関と連携し生涯を通じた歯科保健体制を検討していく必要があります。

【5 楽しく運動】

目標値に対する評価	施策に対する評価	総合評価
B	2	C

30～40歳代の運動習慣者は少なく、帰宅後や休日にからだを動かす小学生も減少しています。今後は、子どもが楽しく運動習慣を身につけられるように、関連機関等と事業内容を検討していくことが必要です。

【6 喫煙・飲酒・薬物乱用の防止】

目標値に対する評価	施策に対する評価	総合評価
B	3	B

妊婦への禁煙指導や家庭分煙ステッカーの配付、集会施設の分煙活動等、目標達成に向けた新規事業を展開してきました。

中・高校生及び妊婦の喫煙・飲酒率は、目標にはまだ到達していませんが減少傾向にあります。

また、分煙率は、子育て中の家庭では増加していますが、分煙率向上のため、今後さらに家庭、地域、行政が一体となって取り組んでいく必要があります。

【7 思春期をこころ豊かに】

目標値に対する評価	施策に対する評価	総合評価
B	3	B

「家族に大切にされていると思う」子どもは増えていますが、「自分のことを好き」と思う子どもは減少傾向にあります。思春期におけるこころの問題は生涯にわたって健康に大きな影響を及ぼすことが考えられます。

学校等での思春期教育が充実してきていることから、「性と生」「いのち」の大切さなどの教育を関係機関と連携し、乳幼児期からの一貫した施策の展開が必要です。

【8ノーマライゼーションにあふれたまち】

目標値に対する評価	施策に対する評価	総合評価
C	2	C

障害者自立支援法や発達障害者支援法等の法的整備がすすみ、ノーマライゼーションの意識が普及されています。

今後も「須賀川市障がい者計画」(平成19年3月策定)との整合性を図りながら、障がい福祉担当課等関係機関と連携しノーマライゼーションの普及促進を推進します。

【9 病気や障がいのある子どもとその家族とともに】

目標値に対する評価	施策に対する評価	総合評価
未調査	3	B

岩瀬地区管内町村と共同で、病気や障がいのある子どもとその親への支援事業を展開し、保健、医療、福祉、教育の連携体制を構築してきましたが、平成 20 年より障がい者自立支援協議会が設立され連携強化が図られるようになりました。今後は、関係機関と連携し病気や障がいのある子どもとその家族の支援を推進していきます。

なお、「須賀川市障がい者計画」策定にあたりアンケート調査を実施したので、本計画では調査を実施しませんでした。



須賀川市すこやか親子21 目標達成度評価表(最終評価)

1 安心できる子育て

A : よくなっている傾向 B : ほぼ変わらない C : 悪くなっている傾向

【ジャンプ】

項目	目標値	基準値 (14年度)	中間値 (18年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値 (福島県)	比較値 (国)	最終 評価
1 ゆったりとした気分で子育てできる親	↗	0.3~1.6歳 74.9% 4~6歳 63.7% 小5 76.2%	76.9% 62.8% 70.7%	B	県中央児童相談所統計	1~5歳 75.3%		92.6% *1 (3.4か月93.5% 1歳6か月92.9% 3歳児91.6%)	A
2 育児の自信が持てない親	↘	0.3~1.6歳 9.8% 4~6歳 16.9% 小5 17.6%	11.6% 21.0% 14.8%	C		1~5歳 14.3%			B
3(1)子どもを虐待していると思う親	↘	0.3~1.6歳 0.5% 4~6歳 7.4% 小5 2.7%	1.7% 3.9% 1.7%	B		1~5歳 2.4%		(3.4か月3.75% 1歳6か月9.5% 3歳児14.1%)	B
(2)子どもを虐待していることを否定できないと思う親		0.3~1.6歳 8.4% 4~6歳 22.0% 小5 12.7%	7.7% 17.3% 10.4%	A		1~5歳 14.9%			B
4 虐待相談受付件数(県中)	↘	100件	75件	A		58件			A

※1すこやか親子第2回中間評価

【ステップ】

項目	目標値	基準値 (14年度)	中間値 (18年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値 (福島県)	比較値 (国)	最終 評価
1(1)妊娠時幸福感をもてない母親	↘	0.3~1.6歳 10.3% 4~6歳 12.4%	12.7% 13.1%	C	健康と生活習慣に関するアンケート(H22年度)	1~5歳 9.8%		満足している親 92.6%(3.4か月 3.5% 1歳6か月 92.9% 3歳児 91.6%) ※1	A
(2)出産に満足している母親	↗	未調査	90.3%	-		1~5歳 90.6%			B
2(1)ア 育児によく参加する父親	↗	0.3~1.6歳 53.8% 4~6歳 50.8% 小5 49.2%	58.1% 43.1% 41.5%	C	健康と生活習慣に関するアンケート(H22年度)	1~5歳 57.9%		よくやっている (3か月55.5% 1歳6か月48.8% 3歳児43.3%) ※1	A
イ 育児に時々参加する父親		0.3~1.6歳 32.4% 4~6歳 37.4% 小5 43.0%	30.7% 42.0% 45.8%	B		1~5歳 31.7%		時々やっている (3か月34.6% 1 歳6か月36.6% 3歳児38.4%) ※1	B
(2)困った時育児に協力してくれる人がいる親	↗	未調査							
(3)育児の相談相手が近所にいる親	19.0%	0.3~1.6歳 8.3% 4~6歳 13.6%	9.9% 12.4%	B	健康と生活習慣に関するアンケート(H22年度)	1~5歳 11.3%			B
(4)かかりつけ医をもつ親	↗	0.3~1.6歳 82.2% 4~6歳 94.2%	92.8% 96.3%	A		1~5歳 96.3%			A
(5)乳幼児健診で育児不安を解消できた親		↗	0.3~1.6歳 19.8%	調査中	-	1~5歳 39.6%			A
(6)育児サークルで地域に友人ができた親	↗	0.3~1.6歳 9.7%			未調査				

※1すこやか親子第2回中間評価

【ホップ】

項目	目標値	基準値 (14年度)	中間値 (18年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値 (福島県)	比較値 (国)	最終 評価
1 母親学級に参加した(病医院含む)親	↗	未調査	51.4%	-	健康と生活習慣アンケート(H22年度)	1~5歳 50.9%			B
2(1)育児手帳をもつ父親	↗	0人	753人	A	未調査				
(2)子育て応援者数		0人	11人	A	未調査				
(3)救急病院を知っている親	↗	0.3~1.6歳 81.8% 4~6歳 90.5%	90.1% 97.8%	A	健康と生活習慣に関するアンケート(H22年度)	1~5歳 92.4%		1歳6か月児 84.2% 3歳児85.3% ※1	A
(4)育児サークル・育児学級に参加する親		0.3~1.6歳 15.3%				未調査			

◆0.3~1.6歳・・・3か月~1歳6か月を示しています

※1すこやか親子第2回中間評価

第5章 「健康アップ21」「すこやか親子21」最終評価

2 責任ある子育て

A : よくなっている傾向 B : ほぼ変わらない C : 悪くなっている傾向

【ジャンプ】

項目	目標値	基準値 (14年度)	中間値 (18年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値 (福島県)	比較値 (国)	最終 評価
1 周産期死亡率(出生1,000対)	↘	2.8%	11.3%	C	保健統計の概況 H21年版 (福島県保健福祉部)	1人(死亡数) 1.5%(死亡率) (H21)	4.9%	4.2%	A
2 乳児死亡率(出生1,000対)	↘	7.1%	2.9%	A		1人(死亡数) 1.5%(死亡率) (H21)	2.9%	2.4%	A
3 低出生体重児出生割合	↘	7.5%	8.7%	C		53人(出生数) 7.8%(率)(H21)	9.0%	9.6%	C
4 虐待相談受付件数(県 中通り)	↘	100件	75件	A	県中央児童相談所統計	58件			A

【ステップ】

項目	目標値	基準値 (14年度)	中間値 (18年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値 (福島県)	比較値 (国)	最終 評価
1(1)計画外妊娠	↘	0.3~1.6歳 21.8%	34.6%	C	健康と生活習慣に 関するアンケート (H22年度)	1~5歳 15.3%			A
(2)妊娠時幸福感をもてない母親		4~6歳 18.5%	31.8%			1~5歳 9.8%			A
2(1)妊婦健診回数が12回以下		0.3~1.6歳 67.2%	60.2%	A	未調査				
(2)妊娠11週以下での妊娠届出率	↗	65.0%	70.9%	A	妊婦一般健康診査(H21年度)	77.60%			A
(3)妊娠中の喫煙率	0	14.2%	9.2%	A	健康と生活習慣に 関するアンケート (H22年度)	1~5歳 10.7%		3,4か月5.5% 1歳6か月4.4% 3歳4.9% ※1	A
(4)妊娠中の飲酒率	0	25.1%	17.2%	A		1~5歳 5.2%		3,4か月7.6% 1歳6か月7.5% 3歳8.1% ※1	A
3(1)危険物をまわりに置く親	↘	0.3~1.6歳 23.6%	18.8%	A	未調査	1~5歳 49.7%		事故防止対策 を実施している 親 1歳6か月 81.0% 3歳78.1%	C
(2)子どもを車中に放置する親	0	0.3~1.6歳 19.0%							
(3)子どもの予防接種率	95.0%	3か月~7歳5か 月 82.7%	79.40%	C	予防接種結果(H21年度)	1~5歳 94.0%		BCG96.0% (6か月まで) 三種混合92.7% 麻疹86.3%(1歳6 か月まで)	A
(4)かかりつけ医を持つ親	↗	0.3~1.6歳 82.2%	92.8%	A	重複	1~5歳 96.3%		1歳6か月83.8% 3歳84.6%	A
(5)育児中の※分煙率		0.3~1.6歳 58.4%	63.1%			A	健康と生活習慣に 関するアンケート (H22年度)	1~5歳 67.7%	

※1すこやか親子第2回中間評価

【ホップ】

項目	目標値	基準値 (14年度)	中間値 (18年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値 (福島県)	比較値 (国)	最終 評価
1 避妊について聞いたことのある中・高校生	↗	中1 36.8%	43.2%	A	健康と生活習慣アン ケート(H22年度)	中1 50.7%			A
		高3 99.7%	100%			高3 95.9%			C
2 妊娠中の喫煙・飲酒の影響を知っている親	↗	未調査							
3(1)心肺蘇生法実技を学んだことのある親	↗	0.3~1.6歳	50.8%	-	未調査				
		4~6歳 未調査	47.4%						
(2)救急病院を知っている親	↗	0.3~1.6歳 81.8%	90.1%	A	健康と生活習慣アン ケート(H22年度)	1~5歳 92.4%			A
		4~6歳 90.5%	97.8%						

3 バランスのとれた食生活

A : よくなっている傾向 B : ほぼ変わらない C : 悪くなっている傾向

【ジャンプ】

項目	目標値	基準値 (14年度)	中間値 (18年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値 (福島県)	比較値 (国)	最終 評価
1 生活習慣病での国保医療受診者					国民健康保険疾病分類 統計 (H19年5月)				
(1)糖尿病	3.08%	3.08%	3.47%	C		3.97%			C
(2)虚血性心疾患	2.00%	2.29%	1.98%	A		1.97%			A
(3)脳梗塞	2.00%	2.23%	2.20%	C		2.29%			B
(4)高血圧性疾患	14.50%	15.02%	16.33%	C		17.60%			C
					(H22年5月) ※国保加入者74歳まで	糖尿病 3.41% 虚血性心疾患 1.66% 脳梗塞 1.25% 高血圧疾患 13.2%	3.43% 1.77% 1.21% 13.21%		
2 食事の時間が楽しいと思える子ども	↗	未調査	小5 93.2% 中1 88.3% 高3 74.9%	0	健康と生活習慣に 関するアンケート (H22年度)	小5 94.4% 中1 85.1% 高3 69.4%			評価 困難

【ステップ】

項目	目標値	基準値 (14年度)	中間値 (18年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値 (福島県)	比較値 (国)	最終 評価
1 標準体重児	↗	小5 52.8% 中1 54.7% 高3 78.1%	54.8% 51.9% -	B	健康と生活習慣に 関するアンケート (H22年度)	小5 56.4% 中1 46.2% 高3 65.3%			A C C
2(1)朝食を必ず食べる子ども	↗	4~6歳 81.3% 小5 92.0% 中1 89.7% 高3 71.5%	88.0% 94.0% 82.4% 63.3%	B		1~5歳 91.5% 小5 95.9% 中1 89.2% 高3 72.3%	※2 3~5歳 92.1% 小5 86.2% 中2 84.1% 高2 76.6%	※1 1~6歳男5.9%女6.0% 7~14歳男6.5%女5.0% 15~19歳 男18.4%女10.0%	A A B A
(2)好き嫌いがある子ども	↘	4~6歳 72.0% 小5 73.4% 中1 70.4% 高3 71.7%	小5 75.7%	B		1~5歳 未調査 小5 70.8% 中1 未調査 高3 未調査			未調査 A 未調査 未調査
3(1)一人で食事をすることがほとんどない 子ども	↗	4~6歳 94.3% 小5 91.7% 中1 82.3% 高3 58.5%	93.6% 94.3% 70.4% 52.5%	C		4~6歳 未調査 小5 85.6% 中1 70.3% 高3 48.0%			未調査 C C C
(2)親子で料理をする機会のある子ども		4~6歳 68.1% 小5 71.2%	未調査	-		4~6歳 未調査 小5 79.0%			未調査 A

※1 学校保健統計調査(平成21年度)
※2 福島県平成19年度食を通じた子育て
子育て支援事業食育に関する実態調査

【ホップ】

項目	目標値	基準値 (14年度)	中間値 (18年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値 (福島県)	比較値 (国)	最終 評価
1(1)子どもの栄養のバランスを考える親	↗	4~6歳 66.6% 小5 68.8%	75.4% 72.3%	A	健康と生活習慣に 関するアンケート (H22年度)	1~5歳 72.0% 小5 未調査			A 未調査
(2)栄養のバランスを考えて食べている子ども	↗	中1 24.1% 高3 17.1%	未調査	-	健康と生活習慣に 関するアンケート (H22年度)	中1 61.0% 高3 34.7%			A A
2 親子料理講習会の参加者数	↗	0人	112人(17年 度)	A	保健事業概況(H21年度)	181人			A
3 地域・学校での食教育の実施数	↗	未調査	1回(公民館)	-	すこやか施策評価 21年度実施状況	38回(748人)			A

第5章 「健康アップ21」「すこやか親子21」最終評価

4 健康な歯

A : よくなっている傾向 B : ほぼ変わらない C : 悪くなっている傾向

【ジャンプ】

項目	目標値	基準値 (14年度)	中間値 (18年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値 (福島県)	比較値 (国)	最終 評価
1 進行した歯周炎のある成人	30.00%	41歳男性 42.1%	—	—	YOU悠ドック 歯周疾患検診(H21年度)	41歳男性 25.6% 41歳女性 22.2%		40歳代22.8% ※1	A 評価 困難
2 55～64歳で24歯以上自分の歯を有する者	50.00% 50.00%	男性 46.0% 女性 37.0%	—	—	健康と生活習慣に 関するアンケート (H22年度)	55～64歳で24歯以 上 男性 44.6% 女性 47.3%		75～84歳で20 歯以上 男女26.8% ※1	A A
3 12歳児の1人平均むし歯数	3歯	4歯	1.7歯	達成	福島県歯科保健情報 システム集計結果 (H21年度)	1.4歯	12歳 1.67歯 ※2	12歳 1.4歯 ※3	A

※1 平成21年国民健康・栄養調査
 ※2 平成20年度福島県母子歯科保健実績
 ※3 学校保健統計調査(平成21年度)

【ステップ】

項目	目標値	基準値 (14年度)	中間値 (18年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値 (福島県)	比較値 (国)	最終 評価
むし歯のない3歳児	70.00%	53.8%	57.2%	A	3歳児健康診査 (H21年度)	3歳児 68.4%	3歳児65.6% ※1	3歳児75.4% ※2	A

※1 平成20年度福島県母子歯科保健実績
 ※2 学校保健統計調査(平成21年度)

【ホップ】

項目	目標値	基準値 (14年度)	中間値 (18年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値 (福島県)	比較値 (国)	最終 評価		
1(1)子どもの仕上げ磨きを毎日する親	↗	4～6歳 46.8%	55.0%	A	健康と生活習慣に 関するアンケート (H22年度)	1～5歳 71.6%	1歳6ヶ月 82.9%	—	A		
(2)1回の歯みがき時間が7分以上の子ども		小5 0.3% 中1 3.1% 高3 5.3%	未調査								
(3)年に1回以上、自主的な歯科検診を受けている子ども		未調査	小5 28.9% 中1 28.2% 高3 17.6%	—						未調査	
2(1)子どものおやつ時間を決めている親	↗	4～6歳 55.9%	54.8%	B	健康と生活習慣に 関するアンケート (H22年度)	1～5歳 69.2%	※2 1歳6ヶ月74.4% 3歳児 72.2%	—	A		
(2)食物をよく噛んで食べている子ども	↗	未調査	4～6歳 2.3% 小5 2.2%	—			未調査				
3 フッ素塗布を受けたことのある子ども	↗	4～6歳 43.8%	46.6%	B	健康と生活習慣に関す るアンケート (H22年度)	1～5歳 56.4%	—	1～5歳57.6% ※1	A		

※1 平成21年国民健康・栄養調査
 ※2 学校保健統計調査(平成21年度)

5 楽しく運動

A : よくなっている傾向 B : ほぼ変わらない C : 悪くなっている傾向

【ジャンプ】

項目	目標値	基準値 (14年度)	中間値 (18年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値 (福島県)	比較値 (国)	最終 評価
1 生活習慣病での国保医療受診者					国民健康保険疾病分類 統計 (H22年5月)				
(1)糖尿病	3.08%	3.08%	—	—		3.41%			C
(2)虚血性心疾患	2.00%	2.29%				0.98%			A
(3)脳梗塞	2.00%	2.23%				0.91%			A
(4)高血圧性疾患	14.50%	15.02%			13.17%			B	
2 運動を楽しんでいる子ども	↗	未調査	小5 93.5% 中1 91.4% 高3 87.8%	—	健康と生活習慣に 関するアンケート (H22年度)	小5 94.4% 中1 89.7% 高3 85.6%			B B B

【ステップ】

項目	目標値	基準値 (14年度)	中間値 (18年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値 (福島県)	比較値 (国)	最終 評価
1 帰宅後や休日にからだを動かす小学生	↗	小5 58.9%	43.5%	C	健康と生活習慣に 関するアンケート (H22年度)	小5 43.6%			C
2 運動をしていない中・高校生	↘	中1 8.3%	6.1%	B		中1 7.7%			B
		高3 37.7%	38.8%			高3 35.8%			B

【ホップ】

項目	目標値	基準値 (14年度)	中間値 (18年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値 (福島県)	比較値 (国)	最終 評価
親子の運動関連の教室参加者数	未調査	—	0.3~1.6歳 4.5% 4~6歳 10.6%	— —		未調査			

第5章 「健康アップ21」「すこやか親子21」最終評価

6 喫煙・飲酒・薬物乱用の防止

A：よくなっている傾向 B：ほぼ変わらない C：悪くなっている傾向

【ジャンプ】

項目	目標値	基準値 (14年度)	中間値 (18年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値 (福島県)	比較値 (国)	最終 評価
1 不良行為少年の補導件数	0人	211人	349人	C	須賀川警察署管内「犯罪と少年非行の概況」(H21)	170人			A
2 低出生体重児出生割合		7.50%	8.70% (16年)	C	県中保健福祉事務所「県中地域 母子保健の状況」(H20)	9.20%	9.1%	9.6%	C

【ステップ】

項目	目標値	基準値 (14年度)	中間値 (18年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値 (福島県)	比較値 (国)	最終 評価
1(1)中・高校生の喫煙率	0%	中1男子 0% 中1女子 0% 高3男子 18.1% 高3女子 13.9%	0.8% 0.0% 16.7% 5.5%	A	健康と生活習慣に関するアンケート(H22年度)	中1男子 0.9% 女子 1.1% 高3男子 8.7% 女子 1.4%		1.5% ※3 1.1% ※3 12.8% ※3 5.3% ※3	B C A A
(2)中・高校生の飲酒率	0%	中1男子 1.8% 中1女子 1.7% 高3男子 26.5% 高3女子 20.9%	0.3% 0.0% 22.7% 11.0%	A	未調査			高3 男子27.1% 女子21.6% ※3	未調査
2 家庭での※分煙率	100%	0.3～1.6歳 58.4% 4～6歳 31.1%	63.1% 46.0%	A		1～5歳 67.7%			A
3(1)妊婦の喫煙率	0%	14.2%	9.2%	A	健康と生活習慣に関するアンケート(H22年度)	1～5歳 10.7%		3.4か月5.5% 1歳6か月4.4% 3歳4.9% ※1	A
(2)妊婦の飲酒率	0%	25.1%	17.2%	A		1～5歳 5.2%		3.4か月7.6% 1歳6か月7.5% 3歳8.1% ※1	A

※1すこやか親子第2回中間評価

※3平成20年度未成年者の喫煙・飲酒状況に関する全国実態調査

【ホップ】

項目	目標値	基準値 (14年度)	中間値 (18年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値 (福島県)	比較値 (国)	最終 評価
1(1)学校「保健だより」への喫煙・飲酒・薬物乱用防止の掲載	未調査	—	—	—		未調査			
(2)薬物の害についてよく知っている生徒		中1男子 12.0% 中1女子 7.6% 高3男子 23.6% 高3女子 18.3%	25.5% 13.8% 21.5% 12.3%	B	健康と生活習慣に関するアンケート(H22年度)	中1男子 43.0% 女子 51.7% 高3男子 49.0% 女子 39.0%		中3男子69.2% 女子74.8% 高3男子67.9% 女子73.5%	A A A A
(3)喫煙・飲酒防止教育の実施回数		中1 8回	10回	B	保健事業概況(H21年度)	10回			B
2 空間分煙の必要性を知っている保護者	未調査	—	0.3～1.6歳 77.6% 4～6歳 69.6%	—		未調査			
3 妊娠中の喫煙・飲酒の影響を知っている生徒	未調査	—	喫煙 高3男子 85.3% 女子 89.0%	—	健康と生活習慣に関するアンケート(H22年度)	中1男子 73.8% 女子 78.1% 高3男子 85.6% 女子 92.8%			— — B A
		—	飲酒 高3男子 72.8% 女子 78.5%	—		中1男子 65.4% 女子 73.6% 高3男子 75.0% 女子 87.0%			— — A A

7 思春期をこころ豊かに

A : よくなっている傾向 B : ほぼ変わらない C : 悪くなっている傾向

【ジャンプ】

項目	目標値	基準値 (14年度)	中間値 (18年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値 (福島県)	比較値 (国)	最終 評価
1(1)10代の人工妊娠中絶実施率 (女子人口1,000対) 県中管内	↘	2.1%	4.2% (16年)	C	未調査				
(2)計画外妊娠率		0.3~1.6歳 21.8% 4~6歳 18.5%	34.6% 31.8%	C	健康と生活習慣に関するアンケート(H22)	15.3%			A
2 10代の性感染症発症報告数(県中管内)	⇒	0件	調査中	—	県母子保健統計	3件			B
3 中学生の不登校割合	↘	1.8%	1.9%	B	県学校基本調査	1.6%			B

【ステップ】

項目	目標値	基準値 (14年度)	中間値 (18年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値 (福島県)	比較値 (国)	最終 評価
1(1)父母とからだ・異性について話を する子ども	↘	小5 10.8%	12.3%	A	未調査				
(2)家族とからだ・異性について話を する子ども		中1 40.2% 高3 39.0%	31.2% 37.0%	C	健康と生活習慣に関するアンケート(H22)	中1 41.5% 高3 33.5%			C
(3)性に関する質問に答えている親		小5 93.2%	未調査						
2(1)自分が健康だと思う子ども	↘	小5 97.1% 中1 91.0% 高3 85.7%	95.3% 93.9% 79.1%	B	健康と生活習慣に関するアンケート(H22)	小5 96.4% 中1 92.8% 高3 75.2%			B
(2)家族に大切にされていると思う子ども		中1 76.1% 高3 70.8%	75.6% 71.0%	B		中1 84.1% 高3 71.7%			A
(3)自分ことを好きと思う子ども		小5 86.7% 中1 71.9% 高3 54.5%	68.0% 61.4% 41.0%	C		小5 81.5% 中1 61.6% 高3 44.5%			C
3 学校が楽しいと思う子ども	↘	小5 90.6% 中1 93.2% 高3 72.9%	未調査						

【ホップ】

項目	目標値	基準値 (14年度)	中間値 (18年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値 (福島県)	比較値 (国)	最終 評価
1(1)男女のからだのしくみや働きを知っている 子ども	↘	小5 73.6%	未調査						
(2)性感染症について聞いたことがある子ども		中1 79.5% 高3 97.9%	78.0% 98.6%	B	健康と生活習慣に関するアンケート(H22年度)	中1 78.0% 高3 91.9%			B
(3)避妊について聞いたことがある子ども		中1 36.8% 高3 99.7%	43.2% 100%	A		中1 50.7% 高3 95.9%			B
(4)親への性教育の実施数		1回	0回	—	未調査				
2 親と楽しく過ごせる時間がある子ども	↘	小5 86.0%	84.4%	B	健康と生活習慣に関するアンケート(H22年度)	小5 91.8%			A
3 悩みを相談できる人がいる子ども	↘	小5 79.6% 中1 89.7% 高3 87.6%	73.4% 84.7% 90.6%	B		小5 87.2% 中1 87.2% 高3 80.3%			B

第5章 「健康アップ21」「すこやか親子21」最終評価

8 ノーマライゼーションにあふれたまち

A : よくなっている傾向 B : ほぼ変わらない C : 悪くなっている傾向

【ジャンプ】

項目	目標値	基準値 (14年度)	中間値 (18年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値 (福島県)	比較値 (国)	最終 評価
1(1)自分が健康だと感じている人(40～64歳)	↗	男 80.4%	—	—	健康と生活習慣に関するアンケート(H22)	男 79.3%			B
(2)自分が健康だと感じている人 (障がい者等)		女 81.3%				女 82.8%			
2 住みやすい「まち」だと感じている人	↗	未調査							

【ステップ】

項目	目標値	基準値 (14年度)	中間値 (18年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値 (福島県)	比較値 (国)	最終 評価
1(1)外出した時ハード環境面で困ったことがある親 ◆施設・設備面で困ったことがある	↘	29.2%	34.1%	B					
(2)自宅で不便を感じている人		未調査	35.8%	—					
2(1)外出した時ソフト面の環境で困ったことがある親 ◆子どもの状態を理解してくれない ◆まわりの人の視線が気になる	↘	39.60%	46.3%	B					
(2)障がい児と遊ぶ、学習することへの抵抗感がある人		39.60%	37.7%	—					
(3)障がい児を「他の人と変わらない」とイメージする人	↗	4～6歳親 16.4%	未調査	—		未調査			
	小5親 15.6%								
		小5 17.7%							
		中1 37.2%							
		高3 47.7%							
(4)障がい者(児)が困っている時、声をかけ手助けする人	↗	4～6歳親 31.9%	28.9%	B	健康と生活習慣に関するアンケート(H22)	20～69歳 74.4%			B
		小5親 34.4%	26.7%						
		小5 23.8%	19.1%			小5 67.7%			
		中1 19.2%	21.2%			中1 63.6%			
		高3 20.4%	14.7%			高3 41.0%			

【ホップ】

項目	目標値	基準値 (14年度)	中間値 (18年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値 (福島県)	比較値 (国)	最終 評価
1 整備された施設・設備件数の把握 (市内保育所・幼稚園・小・中・高校)		未調査	41.8%	—		未調査			
2 障がい者(児)と話しをしたり遊んだりしたことがある人	↗	4～6歳親 60.5%	67.6%	A					
		小5親 61.9%	66.8%						
		小5 43.3%	55.2%						
		中1 57.2%	65.6%						
高3 55.9%	66.4%								
3 障がいに関する学習会への参加者数	未調査	—	4～6歳親 17.2%	—					
4 障がい児等との地域活動への参加者数	未調査	—	4～6歳親 12.1%	—					
			小5親 24.0%						

9 病気や障がいのある子どもとその家族とともに

A : よくなっている傾向 B : ほぼ変わらない C : 悪くなっている傾向

【ジャンプ】

項目	目標値	基準値 (14年度)	中間値 (18年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値 (福島県)	比較値 (国)	最終 評価
1 保育所・学校等以外で困った時、家族以外に手助けを求める障がい児等	↗	23.4%	33.3%	B	未調査				
2(1)子どもとゆっくりした気分で過ごせる時間がある障がい児等の親	↗	62.5%	57.5%	B					
(2)子育てに自信がもてない障がい児等の親	↘	36.2%	24.4%	B					
(3)ア 子どもを虐待していると思う障がい児等の親		10.4%	4.9%	A					
イ 子どもを虐待していることを否定できないと思う障がい児等の親		18.8%	7.3%	A					
(4)障がい児等のきょうだいに無理や我慢をさせている障がい児等の親		47.9%	未調査	—					

【ステップ】

項目	目標値	基準値 (14年度)	中間値 (18年度)	中間 評価	最終値の把握方法	最終値	比較値 (福島県)	比較値 (国)	最終 評価
1(1)保育所・学校等以外で家族以外と話をする障害児等	↗	77.1%	56.4%	C	未調査				
(2)障がい児等が困っている時、声をかけ手助けする人		4～6歳親 72.7%	未調査	—					
小5親 80.0%									
小5 64.9%									
中1 55.3%									
高3 46.1%									
2(1)ア 育児によく参加している障がい児等の父親	↗	25.0%	41.0%	A	未調査				
イ 育児に時々参加している障がい児等の父親		54.2%	43.6%	C					
(2)親が悩んだり、心配した時の相談相手		↗	72.9%	80.0%					
◆配偶者	62.5%		67.5%						
◆保育所・学校等の先生	56.3%		57.5%						
◆主治医	37.5%		30.0%						
◆友人	35.4%		32.5%						
◆保健師	6.3%	2.5%							
◆近所の人	10.4%	2.6%	A						
(3)一時的に保育ができない時の預け先がない障がい児等の親	↘								

【ホップ】

項目	目標値	14年度	18年度	評価	最終値の把握方法	最終値	比較値 (福島県)	比較値 (国)	項目の 評価
1 障がい児等とその家族のつどいの参加者数	↗	未調査	68.4%	—	未調査				
2 子どもの病気・障がい・福祉・教育等についての情報を得られている障がい児等の親		70.2%	73.7%	B					

第5章 「健康アップ21」「すこやか親子21」最終評価

3 「須賀川市すこやか親子21」施策評価表

評価基準 4 十分できている 3 ほぼできている 2 あまりできていない 1 できていない

1	施策	事業名	開始年度	21年度実施状況(回数等)	評価				今後の方向性
					中間		最終		
					事業	施策	事業	施策	
安心でききる子育て	【快適な妊娠出産に関する情報提供の推進】								母子健康手帳交付時は現行通り、個別相談を実施する。パパママ学級の参加者増のため、より参加しやすい体制づくりを行っていく。
	母子健康手帳交付時の健康相談の充実	母子健康手帳交付時の健康相談	継続	全妊婦と個別面接相談(保健師・看護師が対応) 【相談者数:687人】	4	4	4	4	
	母親学級での仲間づくり支援	パパママ学級(夜間コース)	継続	1コース3回×3コース 【延数:148人】	4		4		
	【育児支援体制の充実】								乳幼児健診、パパママ学級等にて父親の育児参加促進を図っていく。また、安心して子育てができるような地域づくりのための子育ての応援者を育成していく。
	(1)父親の育児参加の推進								
	①父親の育児手帳交付	①父子健康手帳交付	16	母子健康手帳交付時 【交付数:687冊】	4		4		
	②父親のための育児講座の開催	②パパママ学級(夜間コース)	継続	1コース3回×3コース 【夫参加延数:69人】	4		3		
	(2)地域の育児支援活動の推進								
	①子育て応援者の育成	こんには赤ちゃん事業	20	健康づくり推進員による訪問 【訪問件数:482件】			4		
	②乳幼児訪問指導の充実	保健師による訪問指導 心理相談員による訪問指導	継続	【延数:828人】 【5回、延数:5人】	3		3	4	
③乳幼児健診等での情報交換の場の設定	乳幼児健診	継続	【74回、受診者:2743人】	2		2			
④育児サークルの育成支援及び運営支援			※児童館、子育て支援センター等での子育て支援の充実に伴い、直接的な育児サークル運営支援は行っていない。	4		1			
⑤子育て情報誌の配布	子育てハンドブックの作成、配布	継続	年間900部作成し、出生児及び転入者へ配布	4		4			
⑥健康づくり推進員の育成及び支援	健康づくり推進員の育成及び支援	20	こんには赤ちゃん事業のための研修会【1回】	3		4			
全体施策評価					3		4		

2	施策	事業名	開始年度	21年度実施状況(回数等)	評価				今後の方向性
					中間		最終		
					事業	施策	事業	施策	
責任	【計画外妊娠の予防啓発活動】								教育委員会との情報交換を行いながら、連携を強化していく。
	中・高校生への性教育指導	①赤ちゃんふれあい体験学習(岩瀬地区) ②中学生と赤ちゃんとのふれあい事業(大東地区健康づくりの会)	15 14	岩瀬地区2小学校各1回 【52人】 大東中学校 1回 【60人】※H20年度実績	2	2	3	3	
あきる子育て	【妊娠中の健康管理への啓発活動】								今後の妊娠中の禁煙・禁酒の必要性の啓発活動を行っていく。
	妊娠届出時の禁煙禁酒を含む保健指導	①母子健康手帳交付時の健康相談 ②空間分煙ステッカーの配布事業	継続 16	母子健康手帳交付時の個別相談【687人】 母子健康手帳交付時に分煙ステッカーを配布	3	4	4	4	
	【子どもの安全に関する知識の普及】								各種保健事業の中で予防啓発活動を行っていくとともに、関係機関等との協議を行っていく。
	(1)子どもの事故防止教育の徹底								
	①各種保健事業での啓発活動	乳幼児健診	継続	【74回、受診者:2743人】	3		3		
	②心肺蘇生法実技講習会の開催		継続	※他団体で実施している講習会へ参加勸奨	2		1		
	③乳幼児健診会場での事故防止パネルの展示	乳幼児事故防止啓発活動	18	乳幼児健診会場では事故防止パネルの展示	4		4		
	(2)予防接種普及の啓発活動								
	①乳幼児健診や育児学級での接種勸奨の徹底	予防接種普及啓発	継続	乳幼児健診、家庭訪問等にて接種勸奨の徹底	4		4		
	②「広報すかがわ」等での啓発活動	予防接種普及啓発	継続	「広報すかがわ」等への掲載及びMR接種勸奨チラシの配布	3		4		
(3)保健・医療についての情報提供									
子育て情報誌の配布	子育てハンドブックの作成、配布	継続	子育てハンドブックや休日・平日夜間診療所お知らせを訪問・健診時配付	4		4			
全体施策評価					3		3		

第5章 「健康アップ21」「すこやか親子21」最終評価

評価基準

4 十分できている

3 ほぼできている

2 あまりできていない 1 できていない

3	施策	事業名	開始年度	21年度実施状況(回数等)	評価				今後の方向性
					中間		最終		
					事業	施策	事業	施策	
バラ ン ス の と れ た 食 生 活	【バランスのとれた食生活のための知識の普及】								
	(1)乳幼児健診や育児教室等での栄養指導の実施	①乳幼児健診時のグループ及び個別指導 ②パパママ学級等での健康教育	継続	①グループ(3・4、9・10か月)【37回、1,324人】 個別(すべての健診)【74回、623人】 ②【3回、25人】	4		4		食育推進計画に基づき、ライフステージを通じた知識の普及に取り組む
	(2)「広報すかがわ」・回覧板での啓発	広報すかがわ	継続	【1回】	2		2		
	(3)食生活改善推進員の育成及び支援	①食生活ジャンプアップ講習会 ②食生活改善推進員育成支援	継続	①【11回、延数110人】 ②研修会【17回、延数431人】 会議【58回、延数417人】 推進員数89人	4	3	4	3	
(4)小学生対象の栄養教室の開催	①子どもエプロン隊 ②仁井田食育講座(健康づくりの会、主催事業) ③白方小学校総合学習(スマイルタイム) ④食育塾(中央公民館、食育教室)	①16 ②18 ③15 ④17	①【3回、延数57人】 ※16年度実績 ②【1回、36人】※21年度実績 ③【1回、330人】 ④【8回、延数131人】		3		3		
た 食 生 活	【地域学校での食教育の推進】								
	(1)地域・学校での食教育実施数の把握と推進	①わいわいランチタイム(こども課:4・5歳児対象) ②子どもクッキング(こども課:4・5歳児対象) ③団子さし(食改:3歳児健診時) ④ゆめづくり食育事業(食改:白方こども園) ⑤保育所給食だより(こども課) ⑥着の持ち方教室(こども課) ⑦食生活に関するアンケート調査(こども課) ⑧農業体験(老人クラブ連合会)	①18 ②20 ③15 ④22 ⑤継続 ⑥18 ⑦16 ⑧継続	①【15回、30人】 ②【8回、183人】 ③【1回、94人】 ④【3回、延228人】 ⑤【月1回】17年度~こども課栄養士 ⑥【10回、213人】※22年度実績 ⑦【1回】 ⑧【年数回】	4		4	4	現在の取り組みを活かし、さらなる充実を図る
(2)親子料理講習会の開催	①手づくりおやつ教室(育児サークル) ②親子料理教室(食改:小学生と保護者、各公民館)	①継続 ②継続	①【3回、延数61人】 ※20年度実績 ②【8回、181人】		2		2		
全体施策評価						3		3	

4	施策	事業名	開始年度	21年度実施状況(回数等)	評価				今後の方向性	
					中間		最終			
					事業	施策	事業	施策		
健 康 な 歯	【歯科保健指導の充実】									
	(1)各種保健事業での歯科指導の充実	①乳幼児健診時歯科健診及び歯科相談 ・医師の健診(1歳6か月児、3歳児健診) ・歯科衛生士の相談(9,10か月、1歳6か月、3歳児健診) ②フェスティバル等での歯科相談 歯科衛生士推進員による紙芝居等	継続	【27回、1,398人】 【55回、2,077人】	4		4	4	乳幼児健診や各種保健事業での歯科指導の充実を図る	
	(2)保育所・学校等での歯科指導の充実	①長沼2歳児教室 ②児童館等でのむし歯予防の取り組み ③わいわいランチタイム歯科指導(こども課) ④ハッピー教室(長沼地区小5、中1対象)	①継続 ②継続 ③19 ④11	①【3回】 ②【3回】 ③【14回、297人】 ④【3回、120人】 ※19年度実績		4	4			
	【むし歯予防のための食生活改善の推進】									
(1)乳幼児健診での保護者への栄養指導	乳幼児健診時栄養相談	継続	【74回、2,743人】	4		4				
な 歯	(2)保育所等でのおやつ・食事調査、保育所等への情報提供	①保育所児に「給食だより」の発行(17年度からこども課栄養士発行) ②食生活に関するアンケート調査(こども課)	①16 ②20	①【月1回】 ②【1回】		3	3	4	3	乳幼児健診等における、むし歯予防のための栄養指導の充実を図る
	(3)噛み応えのある食品表の配付	保育所児に「給食だより」の発行(17年度からこども課栄養士発行)	16	【月1回】		2		3		
	(4)歯科指導を含めた親子料理教室の開催	手作りおやつ教室(食改:未就園児と保護者、児童クラブ館)	17	【3回、延数61人】 ※20年度実績		2		2		
	【フッ素によるむし歯予防の推進】									
(1)フッ素の効用についての情報提供	①乳幼児健診時での情報提供 ②1歳児への誕生カード個別郵送による啓発	①継続 ②18	①【55回、2,077人】 ②【延数812人】	4	4	4	4	4	フッ素によるむし歯予防事業を継続する。	
(2)フッ素塗布事業の検討	フッ化物歯面塗布事業(歯科医師会委託:1歳から3歳7ヶ月未満児)	17	(1)②を対象 【延数812人】		4		4			
全体施策評価						3		4		

第5章 「健康アップ21」「すこやか親子21」最終評価

評価基準

4 十分できている

3 ほぼできている

2 あまりできていない

1 できていない

5	施策	事業名	開始年度	21年度実施状況(回数等)	評価				今後の方向性
					中間		最終		
					事業	施策	事業	施策	
楽 し く 運 動	【公園、運動施設、サークル等の情報提供】 乳幼児健診等での情報誌の配布	子育てハンドブックの配付	継続	年間900部の作成、配布	2	2	2	2	関係機関・団体で作成している情報等も合わせて市民に提供する。
	【親子でできる遊び・運動の普及】 育児学級、育児サークルでの普及啓発	乳幼児健診 家庭訪問	18	乳幼児健診、家庭訪問等で子育て支援事業のチラシを配布し、普及啓発を行っている。	2	2	3	3	乳幼児健診時等で啓発する。
	【体づくりのための環境整備】 学校体育館・校庭・地域体育館等利用の促進				1	1	1	1	関係機関との連携、地域の社会資源の情報収集を図り、運動できる場所の情報提供をしていく。
	【親子の運動関連教室参加者数の把握と参加促進】				2	2	1	1	
全体施策評価					2	2	2	2	

6	施策	事業名	開始年度	21年度実施状況(回数等)	評価				今後の方向性
					中間		最終		
					事業	施策	事業	施策	
喫 煙 ・ 飲 酒 ・ 薬 物 乱 用 の 防 止	【未成年者への喫煙・飲酒防止教育の充実】 ①児童・生徒への教育	喫煙防止教育(全10校)	継続	【中学校10校、各1回】 【参加者数:1,022人】	3		4		喫煙防止教育の内容充実を図っていく。 飲酒防止教育も含め、地域、関係機関との連携のもと施策の充実を図る。
	②PTAや家庭教育学級を通しての保護者への啓発	喫煙防止教育パンフレット配布	継続	パンフレット配布 【1,022部】	3	3	4	3	
	③地域の「声かけ組織」等の育成				2		1		
	④個別相談の充実	相談窓口の周知		喫煙防止教育時の案内 【1,022人】	2		2		
喫 煙 ・ 飲 酒 ・ 薬 物 乱 用 の 防 止	【未成年者の喫煙・飲酒防止の環境整備】 未成年者へのたばこ・酒販売の禁止				1	1	1	1	国の施策でもあるため、具体的な取り組みはしていないが、地域、関係機関との連携のもと施策の充実を図る。
	【妊婦への喫煙・飲酒防止教育の充実】 母子健康手帳交付時や母親学級での指導	①母子健康手帳交付時個別相談	継続	母子健康手帳交付時の健康相談【687人】	3	3	4	4	今後も継続して個別相談を実施していく。
		②パパママ学級(夜間コース)	継続	1コース3回×3コース 【参加延数:148人】			4		
	【家庭での空間分煙の推進】 ①母子健康手帳交付時や乳幼児健診・育児学級での指導	分煙ステッカーの配付	17	妊婦届出時「分煙ステッカー」配付【687人】	4		4	4	今後も家庭及び地域での分煙を勧めていく。
喫 煙 ・ 飲 酒 ・ 薬 物 乱 用 の 防 止	②住民健診時等での空間分煙の啓発	健康づくり推進員活動	18	特定健康診査【90回、6,278人】 産業フェスティバル【1回、1,160人】 地区活動【17回、320人】	4		4	4	
	【薬物乱用防止教育の実施】 児童・生徒・保護者への教育				2	2	1	1	教育委員会、県中保健福祉事務所等の関係機関との連携のもと施策の充実を図る。
全体施策評価					3	3	3	3	

第5章 「健康アップ21」「すこやか親子21」最終評価

評価基準 4 十分できている 3 ほぼできている 2 あまりできていない 1 できていない

7	施策	事業名	開始年度	21年度実施状況(回数等)	評価				今後の方向性
					中間		最終		
					事業	施策	事業	施策	
思 春 期 を こ こ ろ 豊 か に	【発達段階に合わせた性教育の実施】								
	①幼児期からの教育	乳幼児健診	継続	1歳6か月児健診及び3歳児健診【37回、1,395人】	2	2	3	3	関係機関との協議のうえ実施方法等を検討していく。
	②小・中・高校生に対する乳幼児とのふれあい体験	赤ちゃんと中学生のふれあい事業	15	大東中学校【1回、60人】 ※20年度実績	2		3		
		赤ちゃんふれあい体験学習	継続	白方小学校【1回、21人】 白江小学校【1回、31人】	2		3		
	【親への性教育の実施】								
①育児学級・乳幼児健診等での教育	個別相談		必要に応じて個別相談を実施	2	2	3	2	関係機関との連携のもと事業を推進していく。	
②PTAや家庭教育学級等を通しての講演会の開催				2		1			
【地域での子育て支援活動の推進】									
育児サークルの育成及び運営支援	育児サークル運営支援事業			※児童館、子育て支援センターと随時、情報交換をしている。	3		3	2	関係機関、児童館、子育て支援センター等との連携を図っていく。
【思春期の相談体制の充実】									
①相談機関の情報提供		20	心の健康相談リーフレットの配布 市内小学校6年生対象	2	2	3	3	教育委員会、学校との連携を図っていく	
全体施策評価					2		3		

評価基準 4 十分できている 3 ほぼできている 2 あまりできていない 1 できていない

8	施策	事業名	開始年度	21年度実施状況(回数等)	評価				今後の方向性	
					中間		最終			
					事業	施策	事業	施策		
ノ ー マ ラ イ ゼ ー シ ョ ン に あ ふ れ た ま ち	【施設・設備の整備】	作業療法士による訪問指導	継続	主に身体障がい児への在宅生活を支援している。	3	2	2	2	障がい者福祉計画との整合性を図り、社会福祉課等関係機関との連携を図っていく。	
	【ノーマライゼーションに関する啓発活動の充実】									
	①保育活動や学校教育の「総合学習」に障がいについての学習導入の検討	障がい者と小学生のふれあい活動(大東健康づくりの会主催)	16	大東小学校【1回、48人】	3		3	2		
	②「広報すかがわ」等での啓発活動	「広報すかがわ」に掲載		広報すかがわに特集記事を掲載	3		2			
	③学習会・講演会の開催	こころの健康づくり講演会	14	こころの健康づくり講演会	2		2			
	【障害児等とその家族への地域活動参加の支援】									
	①交流会の開催	個別支援	継続	事業の実施はないが、障がい児が地域事業に参加できるよう個別支援を行っている。(地区でのウォーキングへの参加勧奨等)	3	3	1	1		
②公民館活動への参加				3		1				
③育成会・老人クラブ等との交流				3		1				
【地域・学校等での活動状況の把握と推進】	仁井田ふれあい会活動支援	16	年1回幼稚園生と高齢者の交流会を実施している。	3	3	1	1			
全体施策評価					2		2			

第5章 「健康アップ21」「すこやか親子21」最終評価

評価基準 4 十分できている 3 ほぼできている 2 あまりできていない 1 できていない

9	施策	事業名	開始年度	21年度実施状況(回数等)	評価				今後の方向性
					中間		最終		
					事業	施策	事業	施策	
病 気 や 障 が い の あ る 子 ど も と そ の 家 族 と も に	【交流場所等の充実】								
	(1)障害児等とその家族のつどいの開催	なかよし教室 (保護者教室)	継続	障がい児をもつ保護者の交流、学習会【8回、延数60人】	3		4		同じ障害を持つ保護者同士が交流できるような機会を設けていく。
	ピアカウセリング、社会体験等	同上		同上	3		4		
	(2)障がい児等のサークル化と活動支援	なかよし教室OB会(なかよし交流会)	継続	随時、支援している。	3	3	3	3	
	①子どもサークル活動の支援	なかよし教室OB会(なかよし交流会)	継続	随時、支援している。	3		2		
	②ボランティアの活用推進	子育てボランティアの育成	継続	※20年度で終了	2		2		
	(3)地域等での活動状況の把握と推進	地域団体への支援	継続	随時、支援している。	2		2		
	【相談・情報交換の体制整備】								
	(1)障がい等に関わる関係者の支援体制づくり								20年より障がい者自立支援協議会が設立されたことにより、体制整備を目的とした事業は19年度で終了とした。今後は関係機関と連携のもと推進していく。
	①保健・医療・福祉・教育の連携システムの構築	(運営会議)	継続	※19年度で終了	3		3		
②関係者研修会・処遇検討会の充実	(関係者研修会)	継続	※19年度で終了	3		3			
③専門医・心理相談員による発達相談会の充実	発達相談会	継続	【2回、延数4人】	3	3	4			
(2)障害児等及び保護者対象の教室の開催	①なかよし教室(保護者教室) ②おひさま学級(親子教室)	継続	①なかよし教室は、前出 ②おひさま学級は、精神運動発達要観察の児童と保護者の親子遊びの教室【10回、延数64人】	4		4			
(3)子育て情報誌の配布	子育てハンドブックの配布	継続	出生児訪問時転入者へ配布	2		4			
全体施策評価					3		3		

須賀川市
健康増進計画策定に係る
市民意識調査報告書
～ 概要版 ～

須賀川市
健康福祉部健康づくり課

第1部 調査の概要

I. 調査目的

平成17年度に中間評価を実施した「須賀川市健康アップ21」と、平成18年度に中間評価を実施した「須賀川市すこやか親子21」の最終評価を行うとともに、平成17年に施行された食育基本法による「食育推進計画」を新たに加え、これらの計画を統合した「須賀川市健康増進計画 新・健康アップ21（仮称）」を本年度に策定するところである。

新たな計画を策定するにあたり、民意意識反映の一環として、市民の実態・意識・意向などをアンケート方式による調査を行い、それら調査結果を計画策定に反映させるための基礎資料とすることを目的とする。

II. 調査設計

- 調査期間：平成22年7月（8月11日着までの回収分を含む）
- 調査対象：1歳～5歳の保護者
小学5年生
中学1年生
高校3年生
20歳～69歳の成人
- 抽出方法：無作為抽出（1歳～5歳の保護者、20歳～69歳の成人）
- 調査方法：学校を通して配付－回収（小学5年生、中学1年生、高校3年生）
郵送配付－回収（1歳～5歳の保護者、20歳～69歳の成人）
- 調査主体：須賀川市健康福祉部健康づくり課
- 集計分析：株式会社サーベイリサーチセンター東北事務所

III. 回収結果

	配付数①	総回収数	有効回収数②	有効回収率 ②／①
1歳～5歳の保護者	587	328	328	55.9%
小学5年生	200	195	195	97.5%
中学1年生	198	195	195	98.5%
高校3年生	176	173	173	98.3%
20歳～69歳の成人	2,999	1,226	1,225	40.8%
合計	4,160	2,117	2,116	50.9%

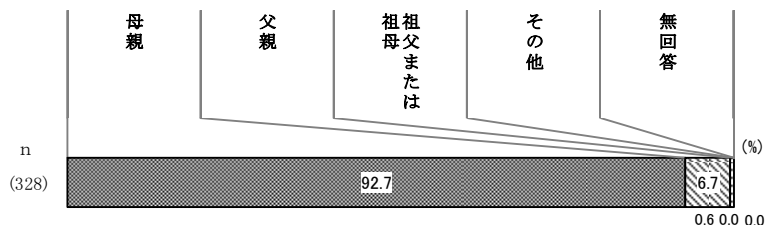
IV. 報告書の見方

- n (number of cases) は比率算出の基数であり、100%が何人の回答に相当するかを示す。
- 回答の構成比は百分率であらわし、小数点第 2 位を四捨五入して算出している。したがって、単一選択式の質問においては、回答比率を合計しても 100%にならない場合がある。また、回答者が 2 つ以上の回答をすることができる多肢選択式の質問においては、各設問の調査数を基数として算出するため、全ての選択肢の比率を合計すると 100%を超える。
- 図表及び本文で、選択肢の語句等を一部簡略化している場合がある。

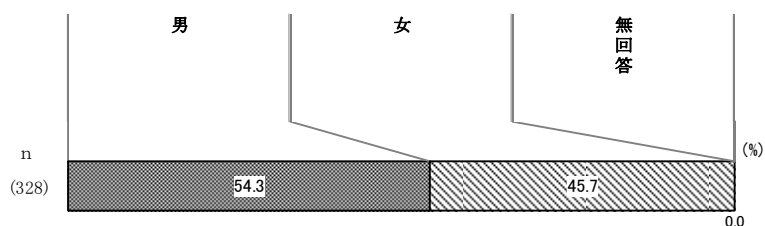
第2部 回答者のプロフィール

I. 1歳～5歳のお子さんをもつ保護者

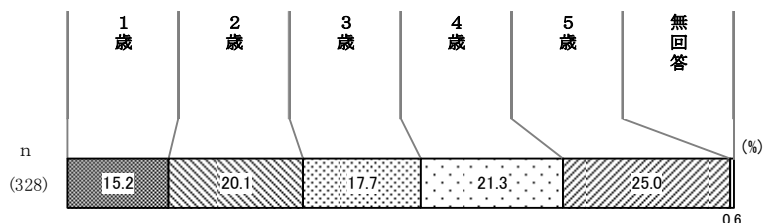
1. アンケート記入者



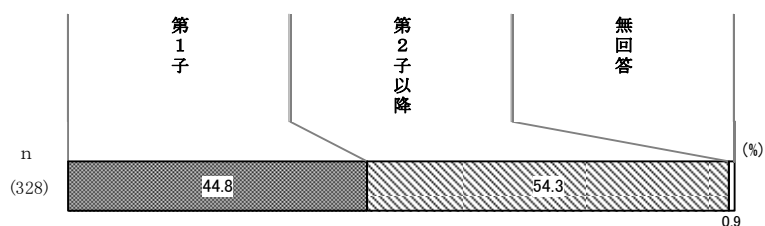
2. 子どもの性別



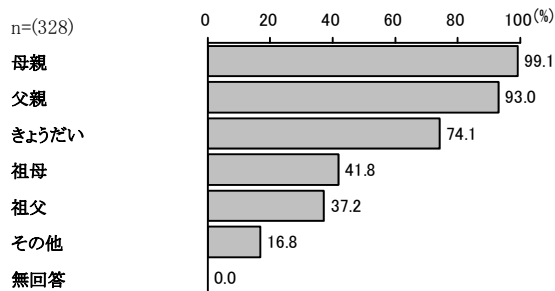
3. 子どもの年齢



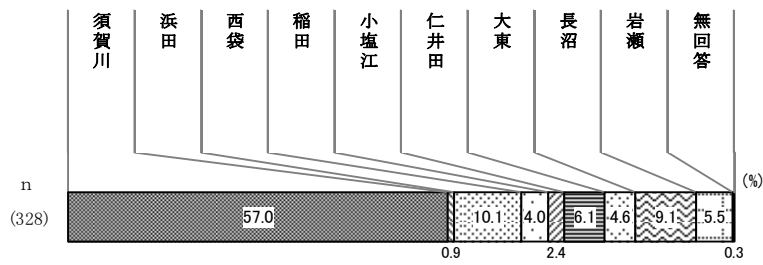
4. 子どもの出生順位



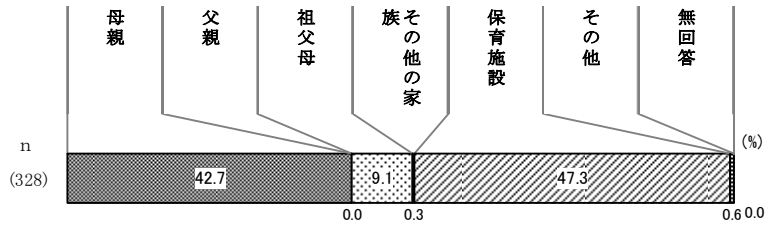
5. 家族構成



6. 居住地域

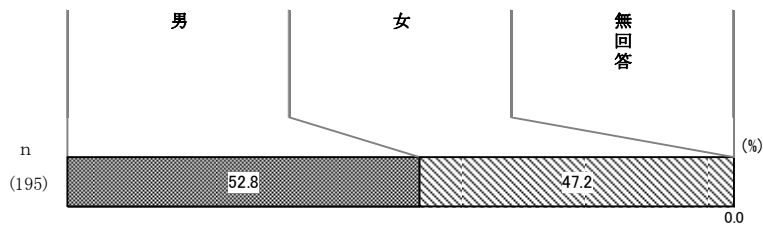


7. 日中の子どもの保育者

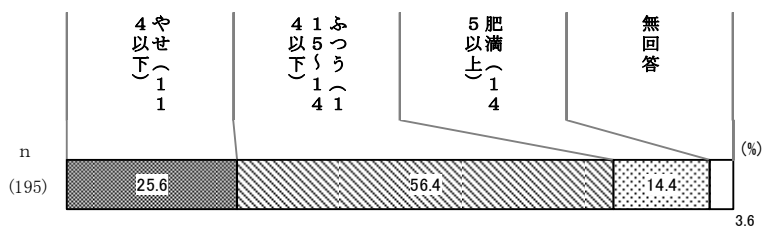


II. 小学5年生

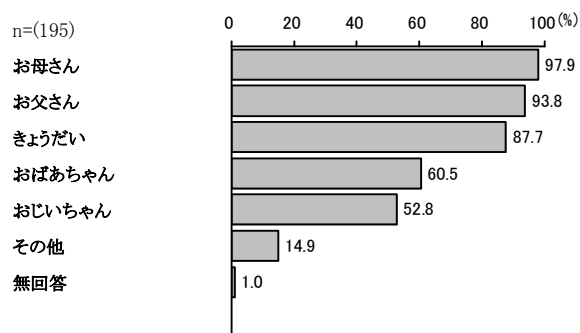
1. 性別



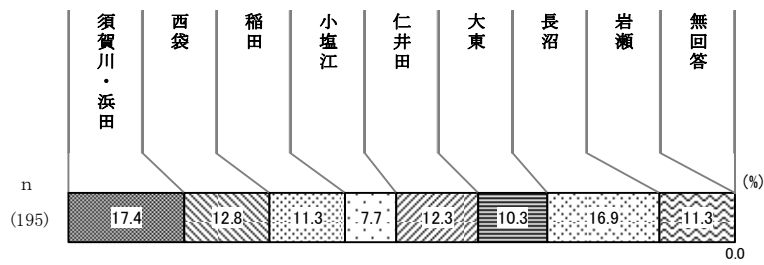
2. 身長・体重（ローレル指数）



3. 家族構成

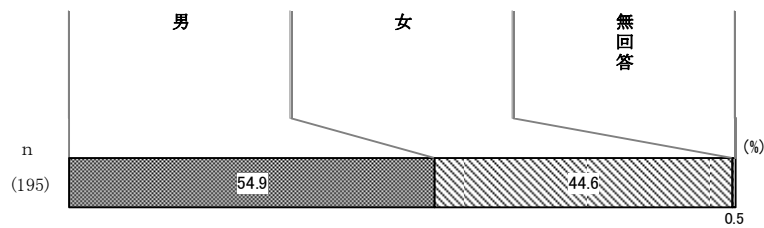


4. 居住地

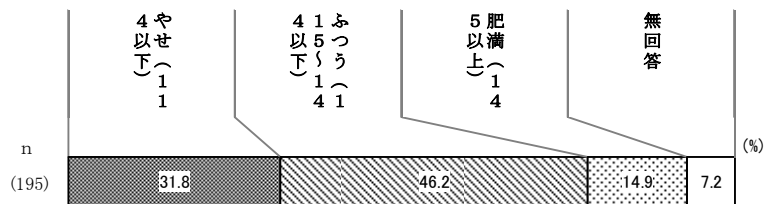


Ⅲ. 中学1年生

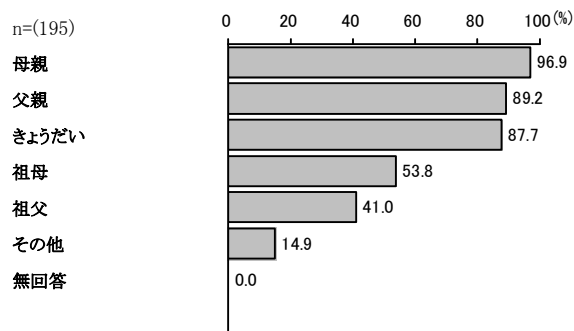
1. 性別



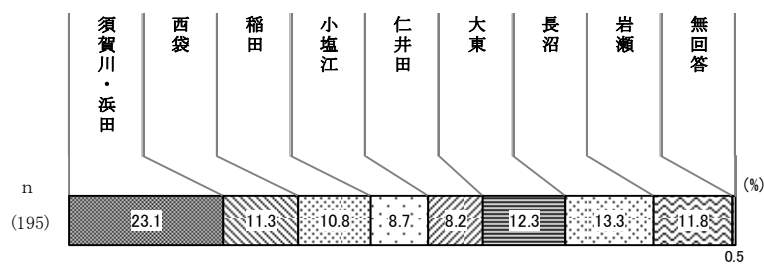
2. 身長・体重（ローレル指数）



3. 家族構成

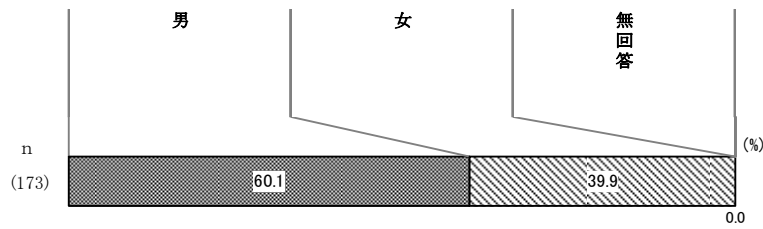


4. 居住地

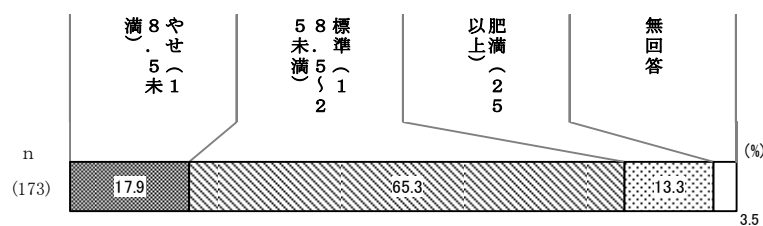


IV. 高校3年生

1. 性別

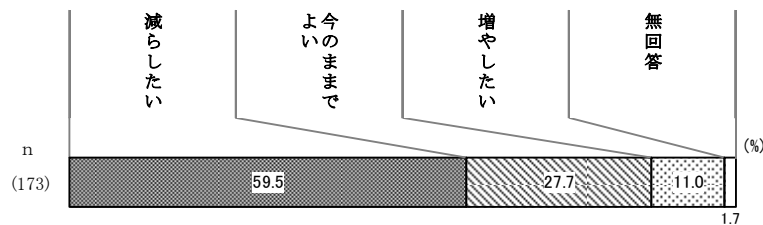


2. 身長・体重 (BMI 指数)

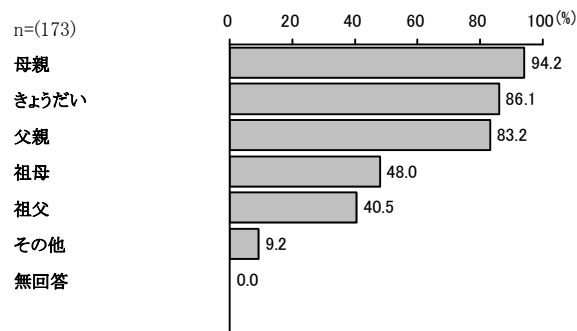


※本来の算出方法はローレル指数だが、前回調査と経年比較を行うため、前回調査に合わせてBMI指数で算出した。

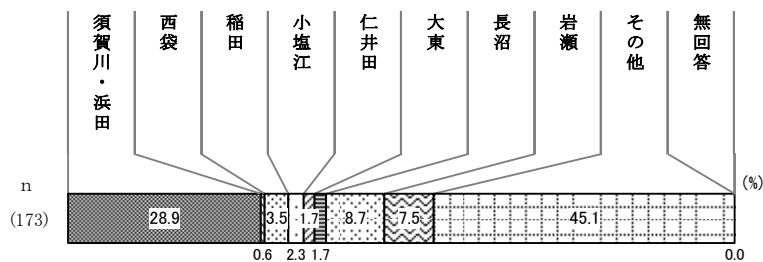
3. 自分の今の体重について



4. 家族構成

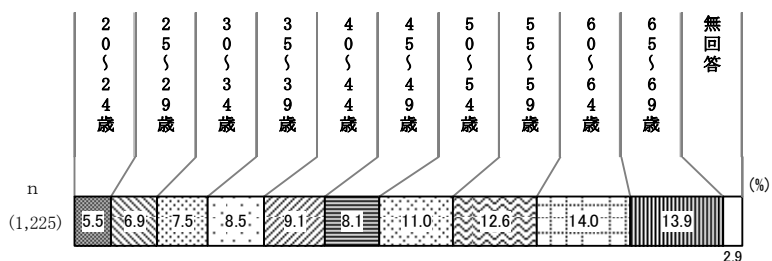


5. 居住地

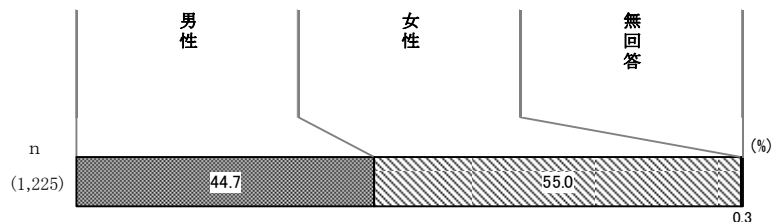


V. 20歳～69歳の成人

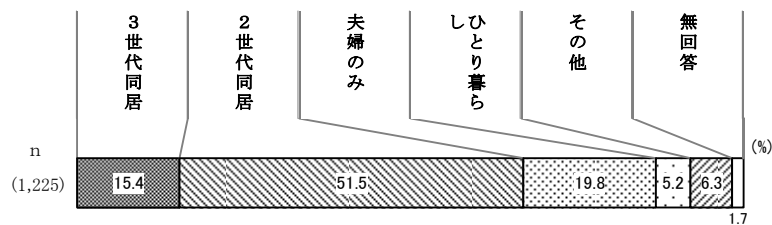
1. 年齢



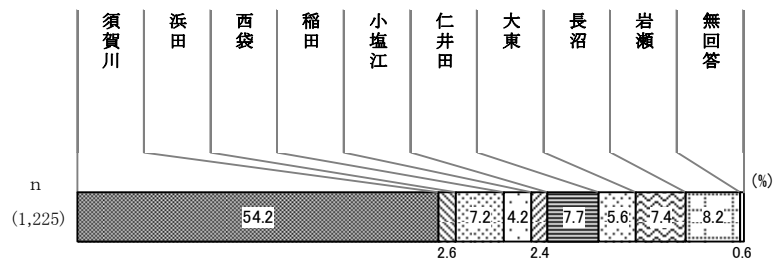
2. 性別



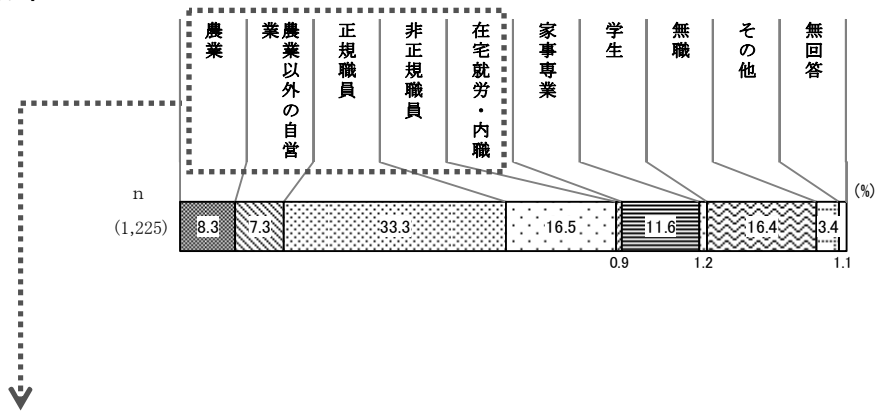
3. 世帯状況



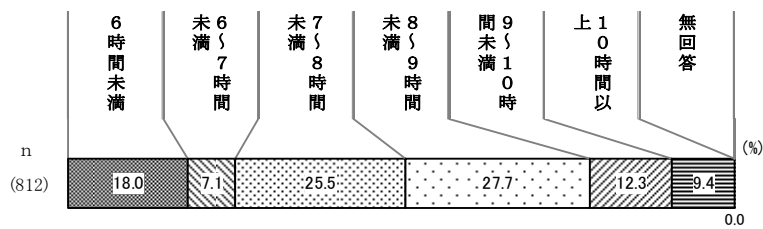
4. 居住地



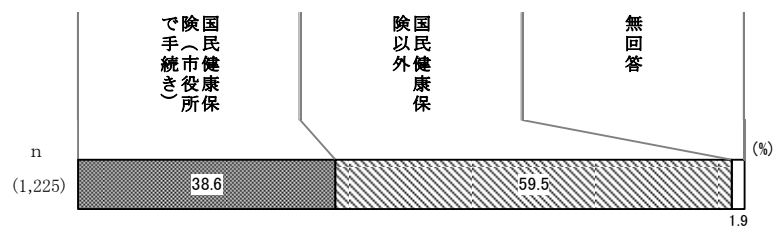
5. 職業



6. 1日あたりの労働時間



7. 健康保険証の種類



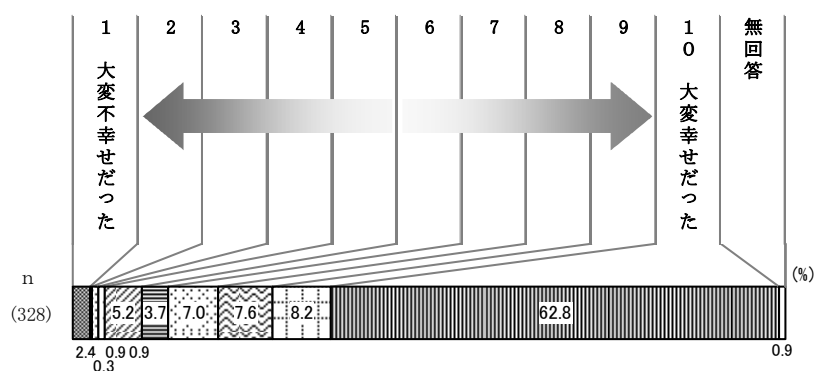
第3部 調査結果の分析

I. 1歳～5歳のお子さんをもつ保護者

1. 妊娠期について

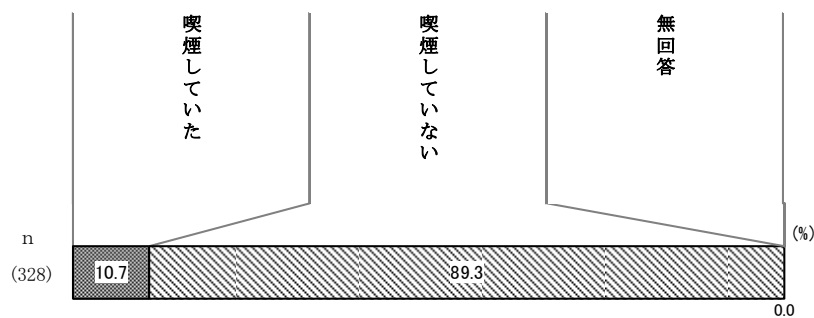
(1) 妊娠した時の気持ち

- ・妊娠した時の気持ちは、「10 大変幸せだった」が6割強と最も多く、10段階のうち、5段階以下は1割未満、5段階以上が約9割を占める。



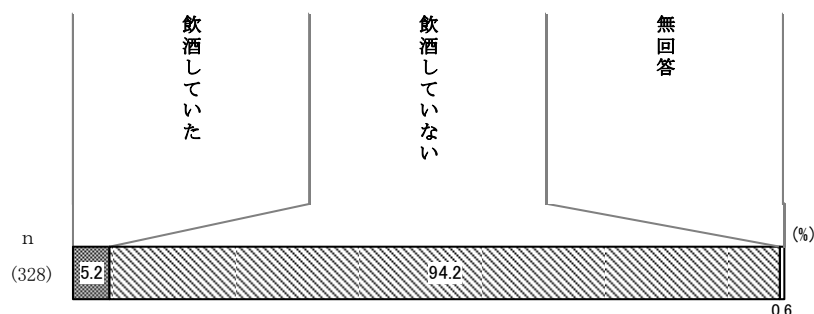
(2) 母親の妊娠中の喫煙状況

- ・「喫煙していた」人が約1割いる。



(3) 母親の妊娠中の飲酒状況

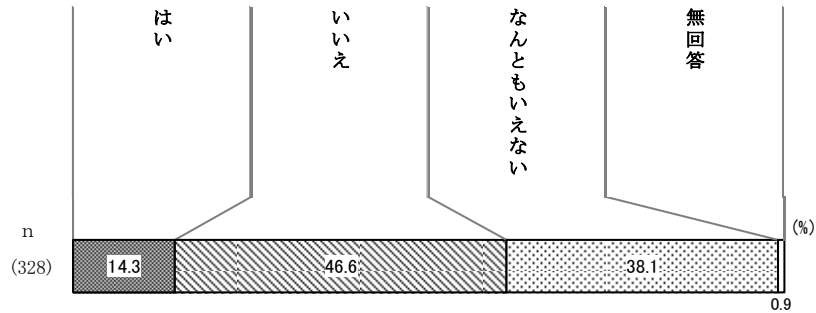
- ・「飲酒していた」人は約5%いる。



2. 子育てについて

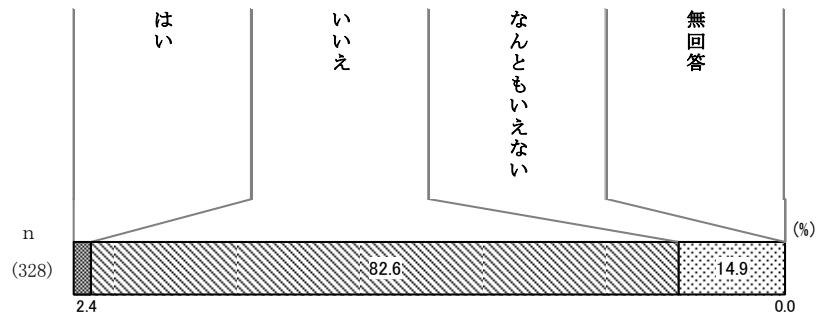
(1) 子育てへの自信度

- ・子育てへの自信がある人が4割半ばと最も多い。「なんともいえない」が4割弱、自信がない人が1割半ばである。



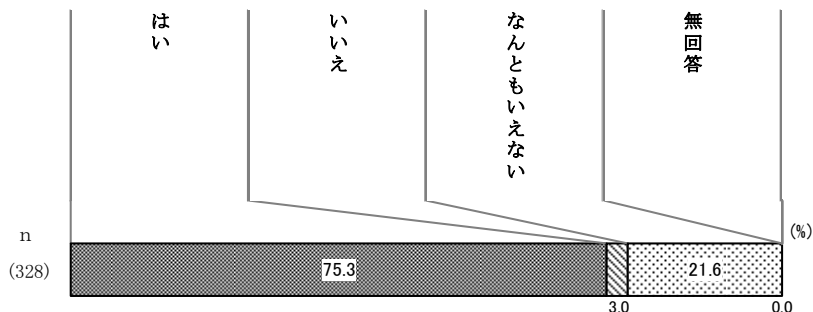
(2) 子どもへの虐待の有無

- ・8割強が子どもを虐待していると思うことはないと回答しているが、「なんともいえない」、「はい」が1割半ばいる。



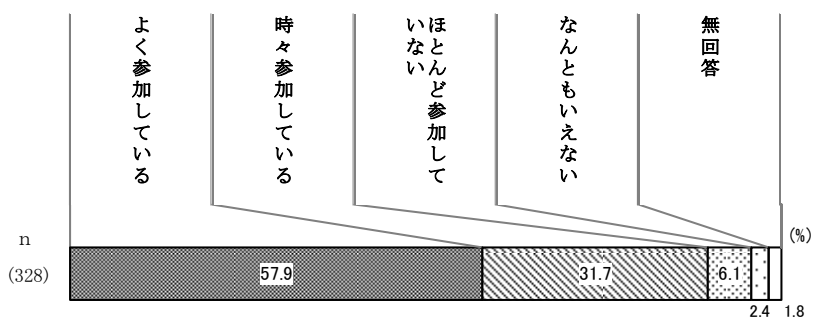
(3) ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間の有無

・ ゆったりとした気分で子どもと過ごせるかは、「いいえ」、「なんともいえない」が2割半ばいる。



(4) 父親の育児参加の状況

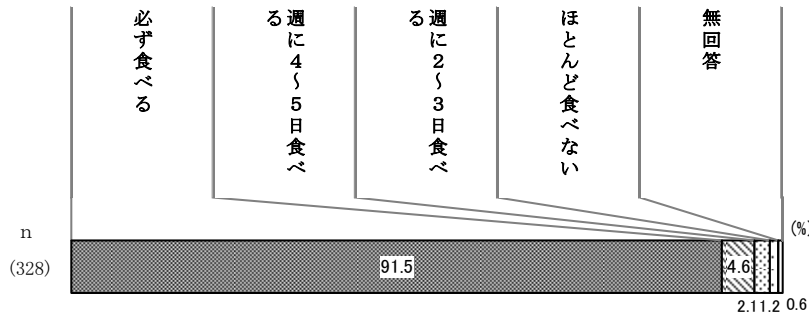
・ 父親の育児参加については、「よく参加している」が6割弱と最も多く、「時々参加している」を合わせると、約9割が参加している。



3. 子どもの生活習慣について

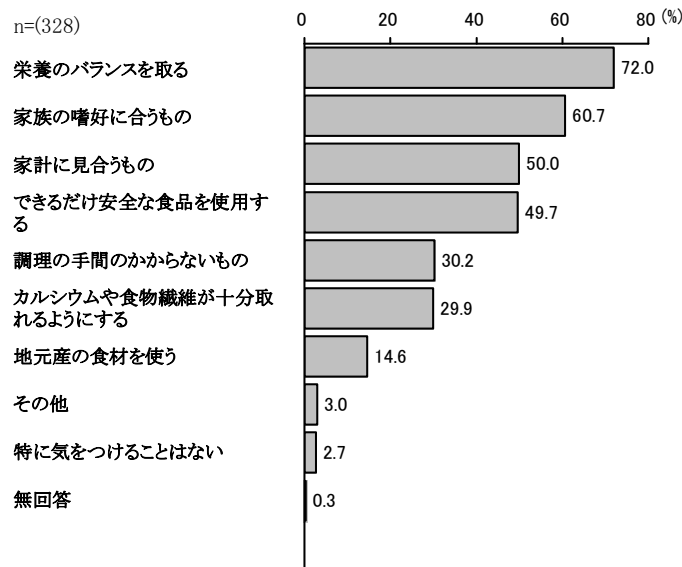
(1) 朝食の摂取状況

- ・約9割が朝食を「必ず食べる」と回答しており、「週に4～5日食べる」、「週に2～3日食べる」、「ほとんど食べない」が1割未満いる。



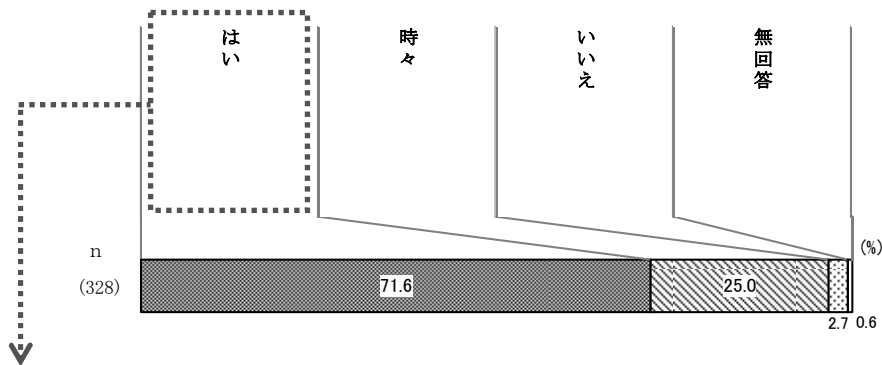
(2) 食事を作る時に気をつけていること

- ・食事を作る時に気をつけていることは、「栄養バランスを取る」が7割強と最も多く、次いで「家族の嗜好に合うもの」が約6割、「家計に見合うもの」、「できるだけ安全な食品を使用する」が約5割と続いている。

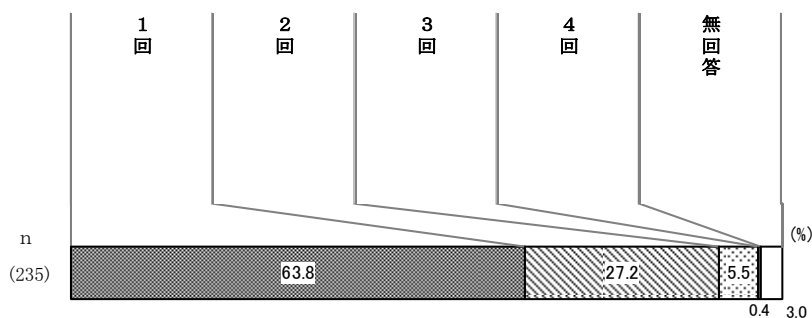


(3) 歯の仕上げみがきの有無

- ・歯の仕上げみがきをしている人は約7割で、1日の仕上げみがきの回数は「1回」が6割強と最も多い。
- ・一方、仕上げみがきを時々する人が2割半ばいる。

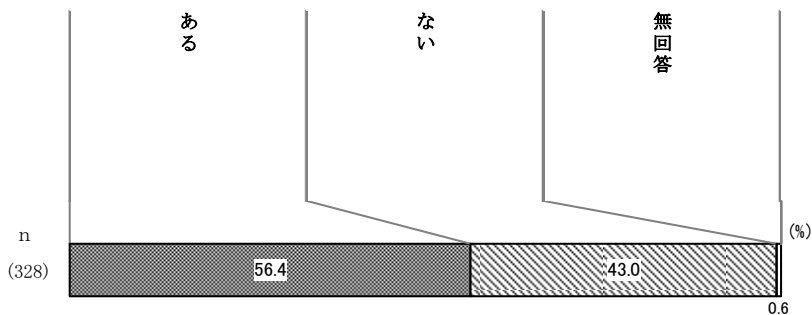


【歯の仕上げみがきの回数】



(4) フッ素塗布の有無

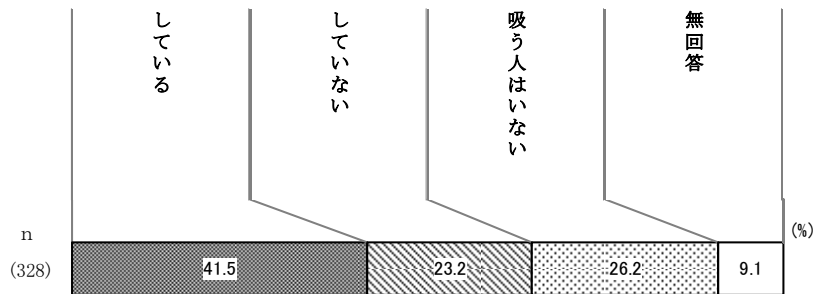
- ・フッ素塗布の受診については、「ある」が5割半ばいる。



4. 家族の喫煙について

(1) 家庭内での空間分煙の有無

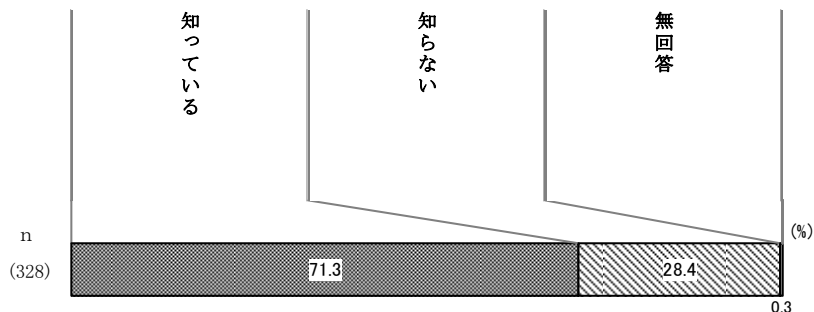
- ・空間分煙をしていない家庭は2割強いる。
- ・一方、している家庭は約4割である。



5. 子どもの事故防止や医療機関について

(1) 「こども救急電話相談（＃８０００）」の認知度

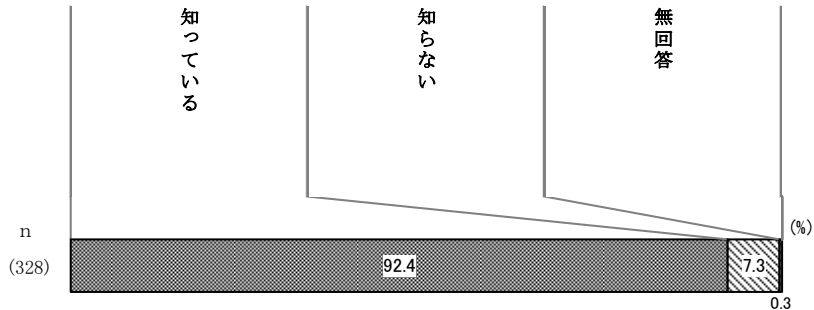
・「こども救急電話相談（＃８０００）」については、「知らない」が3割弱いる。



(2) 休日や夜間等の急病時に対応してくれる救急病院の認知度

・休日や夜間に対応してくれる救急病院については、「知っている」が9割強を占め、認知度は高い。

・一方、「知らない」が1割未満いる。

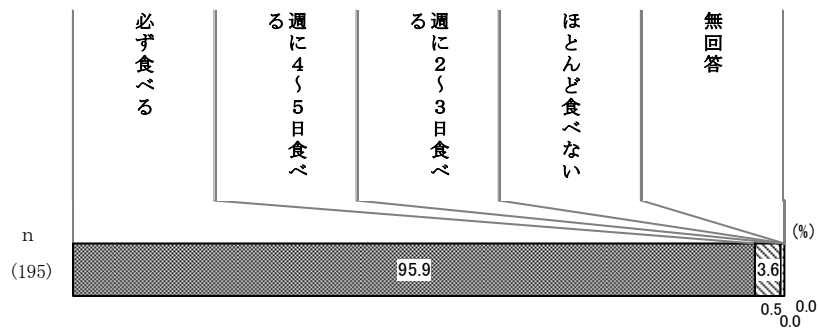


Ⅱ. 小学5年生

1. 食事や運動について

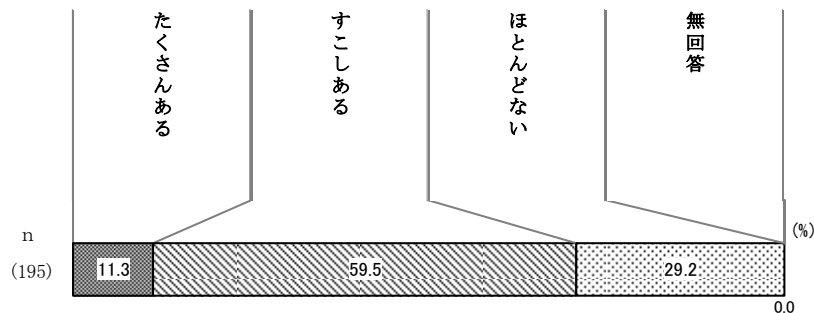
(1) 朝食の摂取状況

- ・「週に4～5日食べる」、「週に2～3日食べる」、「ほとんど食べない」といった朝食を抜くことがある人が1割未満いる。



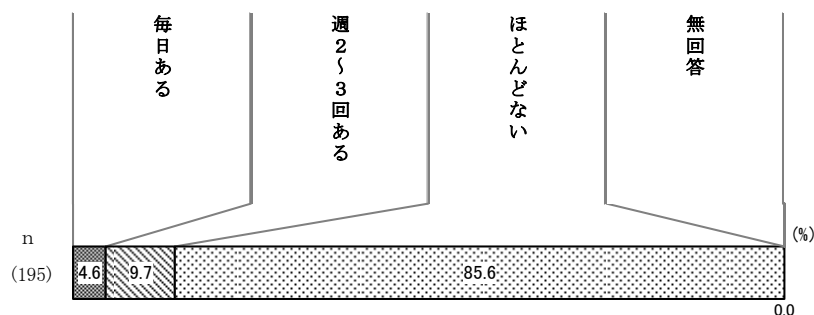
(2) 食べ物の好ききらいの有無

- ・食べ物の好ききらいが「すこしある」が約6割と最も多く、「たくさんある」が約1割いる。
- ・一方、「ほとんどない」が約3割いる。



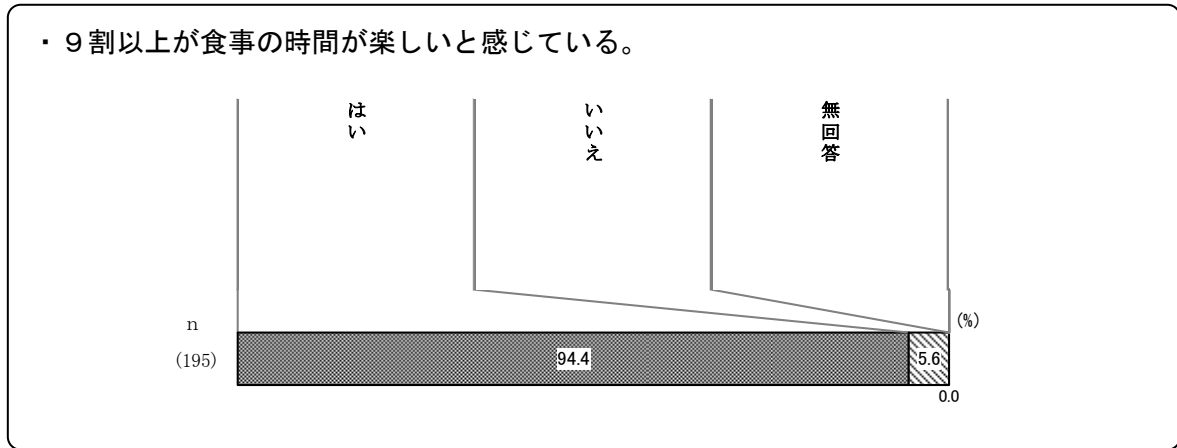
(3) 1日のうち、1人で食事をすることの頻度

- ・1人で食事をするのが、「週2～3回ある」、「毎日ある」が1割半ばいる。



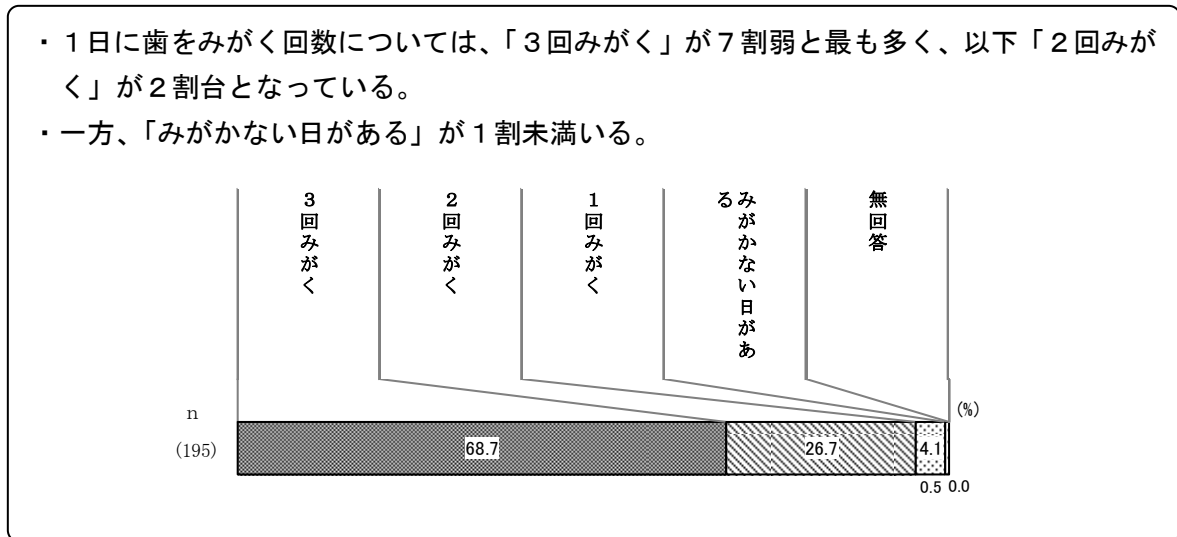
(4) 食事の時間の楽しさ

- ・ 9割以上が食事の時間が楽しいと感じている。



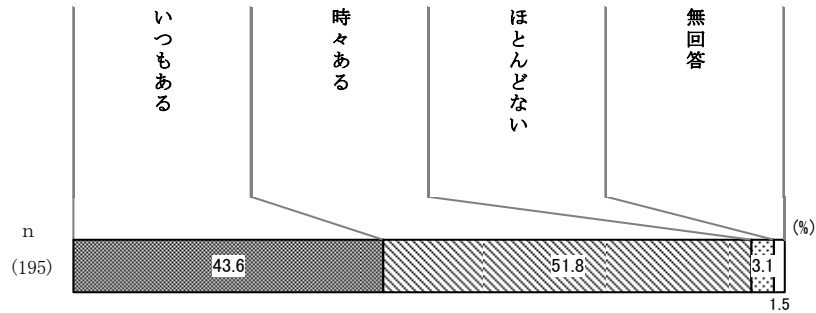
(5) 1日あたりの歯をみがく頻度

- ・ 1日に歯をみがく回数については、「3回みがく」が7割弱と最も多く、以下「2回みがく」が2割台となっている。
- ・ 一方、「みがかない日がある」が1割未満いる。



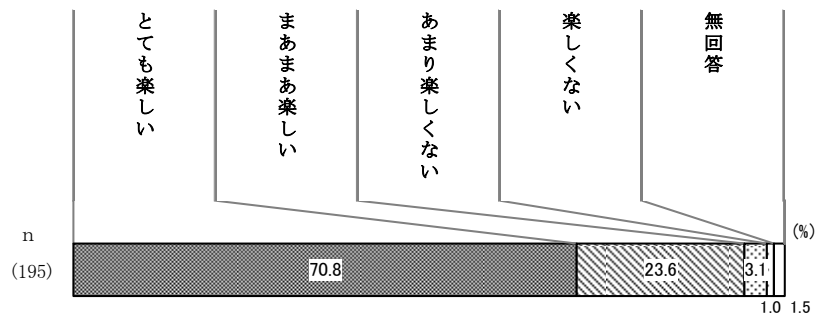
(6) 学校から帰宅後や休日に運動することの有無

- ・からだを動かして遊んだり、運動することについては、「時々ある」が5割強と最も多く、「いつもある」を合わせると小学生の9割以上が、日頃からだを動かしている。



(7) からだを動かすことの楽しさ

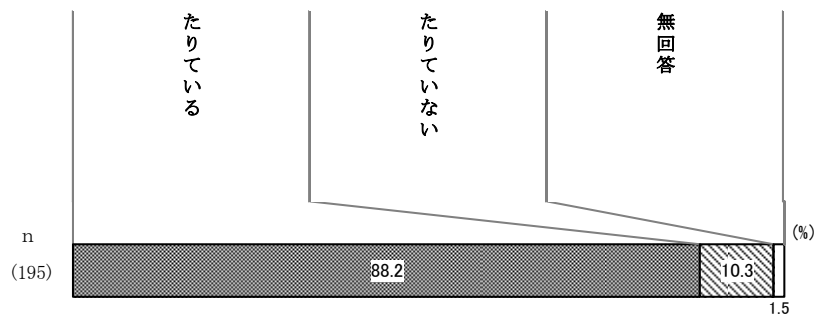
- ・からだを動かすことについては、「とても楽しい」が約7割と最も多く、「まあまあ楽しい」を合わせると、9割以上が楽しくからだを動かしている。



2. 健康について

(1) 睡眠の充足度

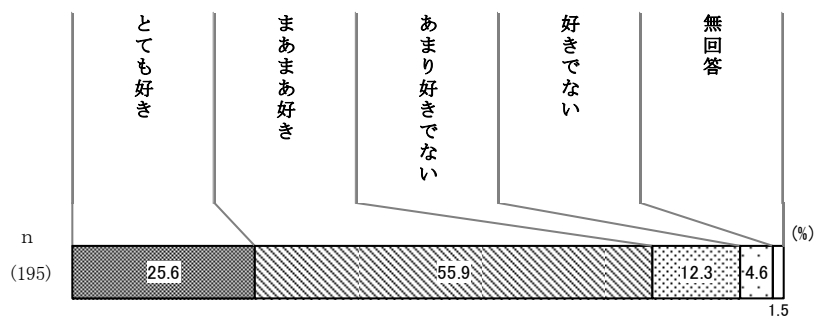
・睡眠が「たりている」は8割以上を占めているが、「たりていない」が約1割いる。



(2) 自分のことが好きか

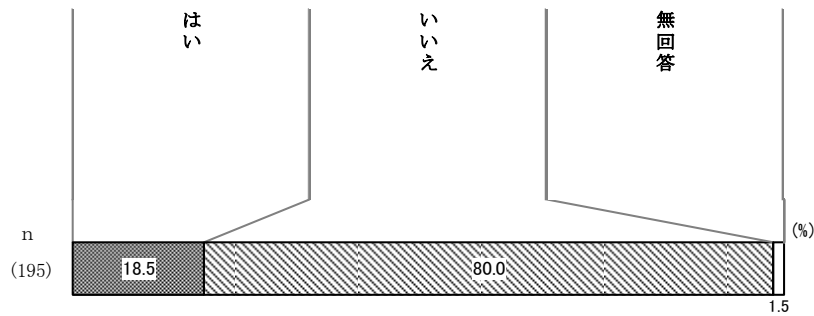
・自分のことを「まあまあ好き」と思っている人が5割台と最も多く、「とても好き」を合わせると、8割以上が自分のことを好きだと感じている。

・一方、自分のことを好きでないが1割半ばいる。



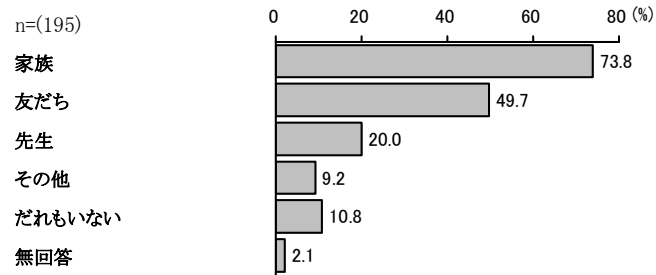
(3) 最近、ひどく困ったことやつらいと思ったことの有無

- ・最近、ひどく困ったことやつらいと思ったことがある人が2割弱いる。



(4) 悩みや心配ごとについての相談相手

- ・悩みや心配ごとの相談相手は、「家族」が7割以上と最も多く、以下「友だち」が約5割となっている。
- ・一方、相談相手が「だれもない」人が約1割いる。

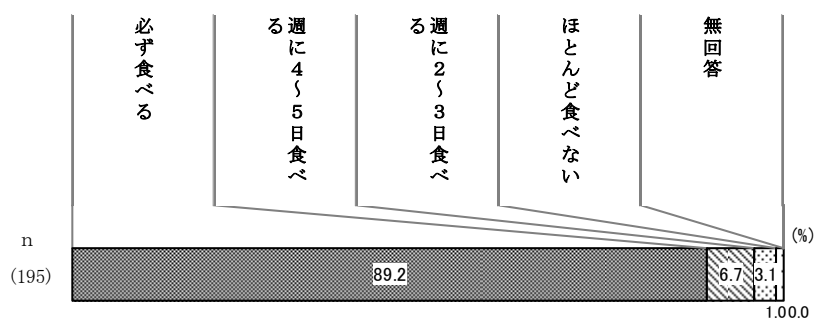


Ⅲ. 中学1年生

1. 食事や運動について

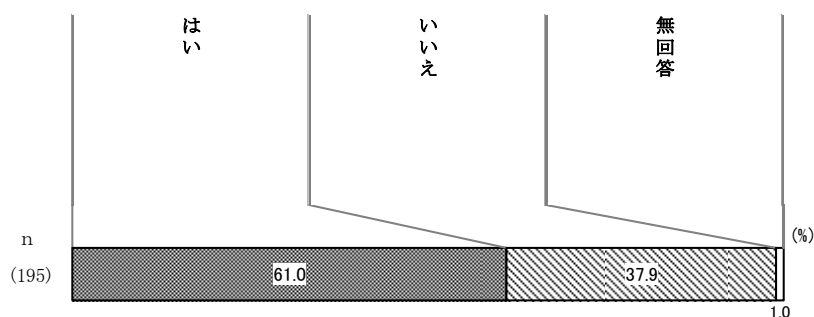
(1) 朝食の摂取状況

- ・約9割が朝食を「必ず食べる」と回答しており、「週に4～5日食べる」、「週に2～3日食べる」、「ほとんど食べない」といった朝食を抜くことがある人が1割未満いる。



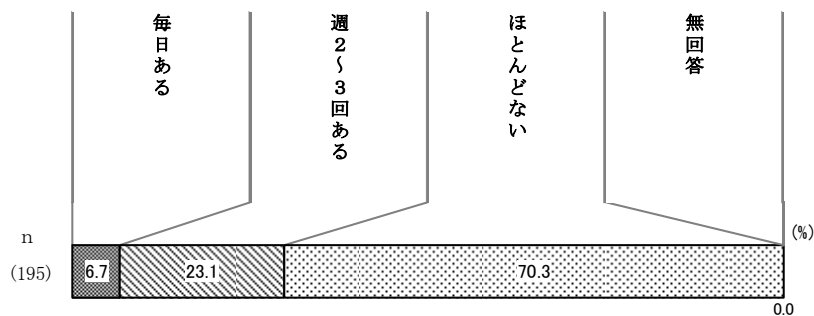
(2) 栄養バランスを考えて食事をしているか

- ・栄養バランスを考えて食事をしている人は約6割となっている。
- ・一方、考えて食事をしていない人が4割弱いる。



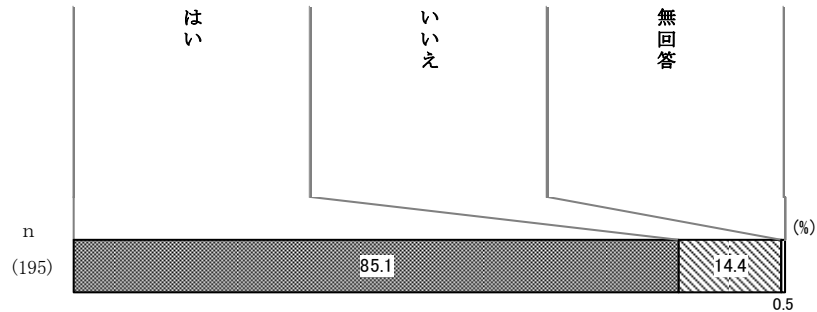
(3) 1日のうち、1人で食事をすることの頻度

- ・1人で食事をすることは、「ほとんどない」が約7割と最も多い。
- ・一方、「週2～3回ある」が2割台、「毎日ある」が1割未満いる。



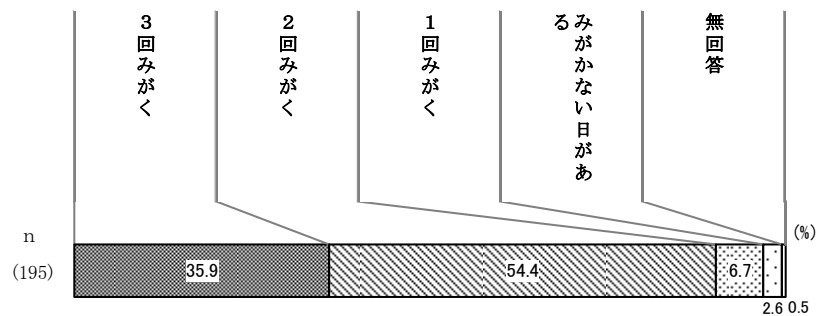
(4) 食事の時間の楽しさ

- ・ 8割半ばが食事の時間が楽しいと感じている。
- ・ 一方、楽しいと感じていない人が2割未満いる。



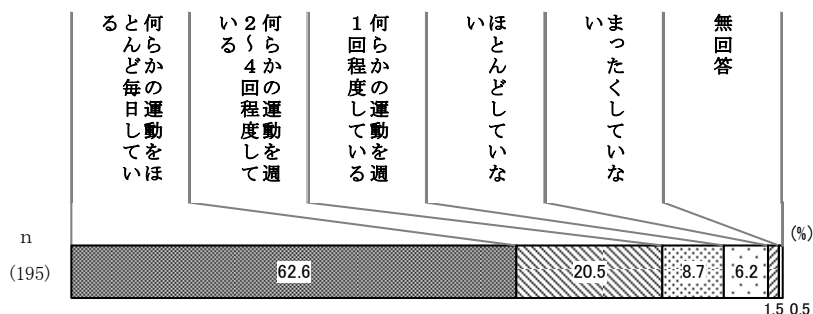
(5) 1日あたりの歯をみがく頻度

- ・ 1日に歯をみがく回数については、「2回みがく」が5割半ばと最も多く、次いで「3回みがく」が3割台と続いている。
- ・ 一方、「みがかない日がある」が1割未満いる。



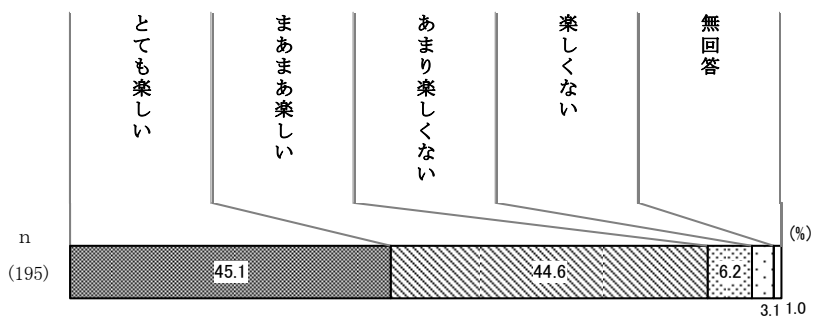
(6) 最近1年間、体育の授業以外での運動している頻度

・体育の授業以外に運動することについては、「何らかの運動をほとんど毎日している」が6割台と最も多く、以下「何らかの運動を週2～4回程度している」が約2割と続いており、何らかの運動をしている人が多いことがうかがえる。



(7) からだを動かすことの楽しさ

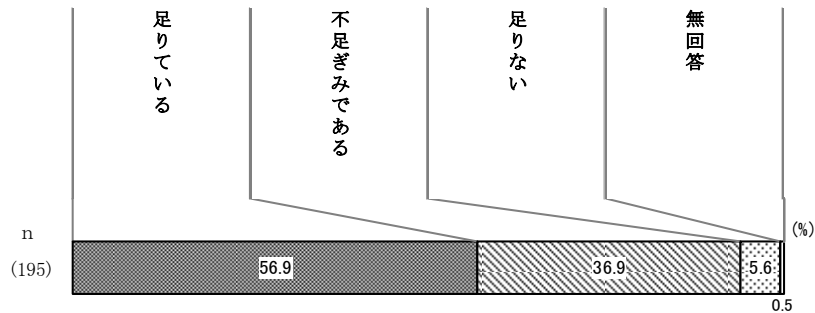
・からだを動かすことについては、「とても楽しい」、「まあまあ楽しい」がともに4割半ばで、合わせると中学生の約9割が楽しくからだを動かしている。



2. 健康について

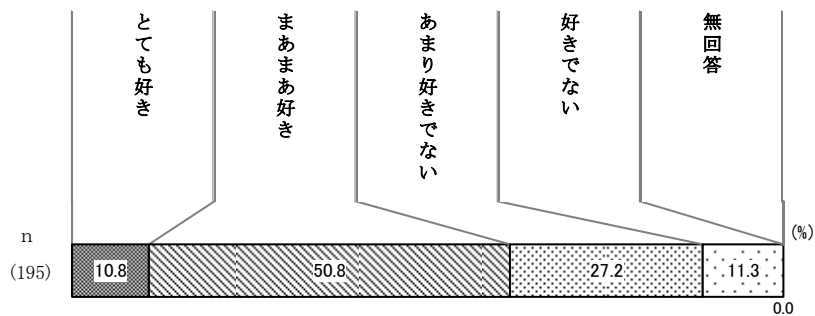
(1) 睡眠の充足度

- ・睡眠が「足りている」は5割以上と最も多いが、「不足ぎみである」が3割台、「足りない」が1割未満と、睡眠が不足している人は4割強いる。



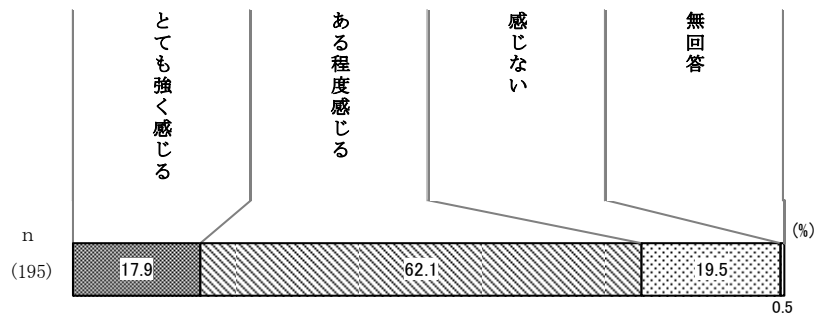
(2) 自分のことが好きか

- ・自分のことを「まあまあ好き」と思っている人が約5割と最も多く、「とても好き」を合わせると、6割以上が自分のことを好きだと感じている。
- ・一方、自分のことを「あまり好きでない」は3割弱おり、「好きでない」を合わせると、4割弱が自分のことを好きでないと感じている。



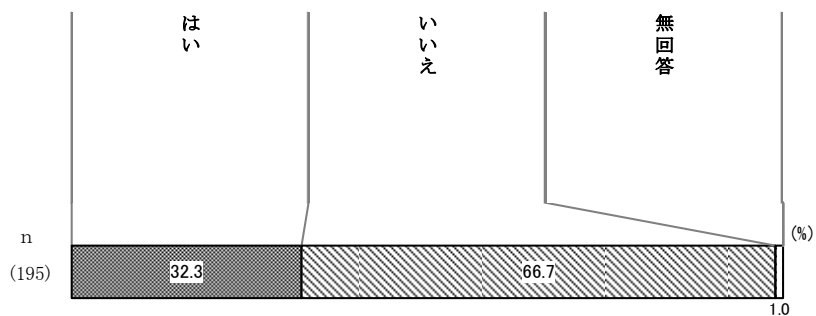
(3) 日頃、ストレスを感じるか

・日頃、ストレスを感じている人は、「ある程度感じる」が6割強と最も多く、「とても強く感じる」を合わせると、約8割が日頃ストレスを感じている。



(4) 最近、ひどく困ったことやつらいと思ったことの有無

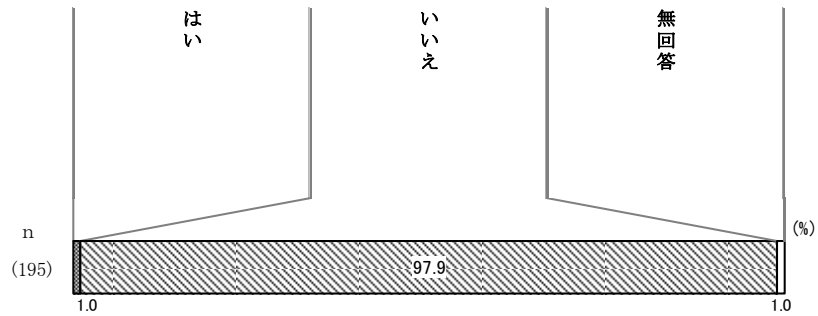
・最近、ひどく困ったことやつらいと思ったことがある人は3割強である。



3. たばこやお酒について

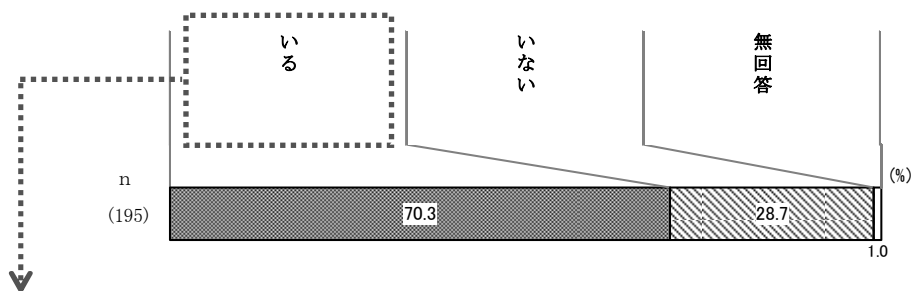
(1) 喫煙の有無

- ・たばこを吸っている人が1.0%いる。
- ・一方、たばこを吸わない人が9割以上いる。

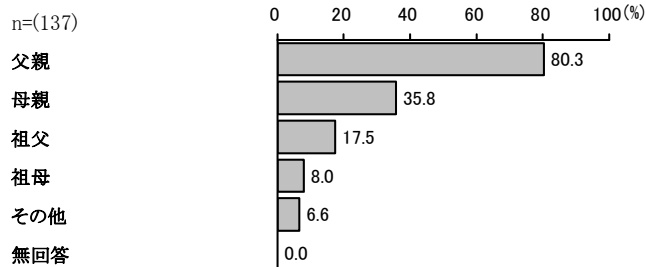


(2) 家庭内での喫煙者の有無

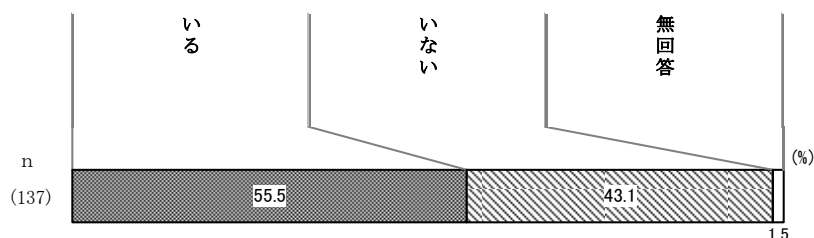
- ・家庭内でたばこを吸う人が「いる」は約7割である。
- ・たばこを吸う人は、「父親」が約8割と最も多く、以下「母親」が3割半ば、「祖父」が2割弱である。
- ・同じ部屋でたばこを吸う人が「いる」は5割半ばいる。



【たばこを吸う方】



【同じ部屋でたばこを吸う方】

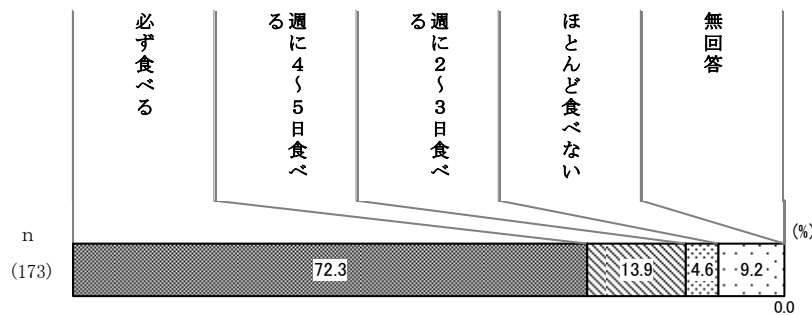


IV. 高校3年生

1. 食事や運動について

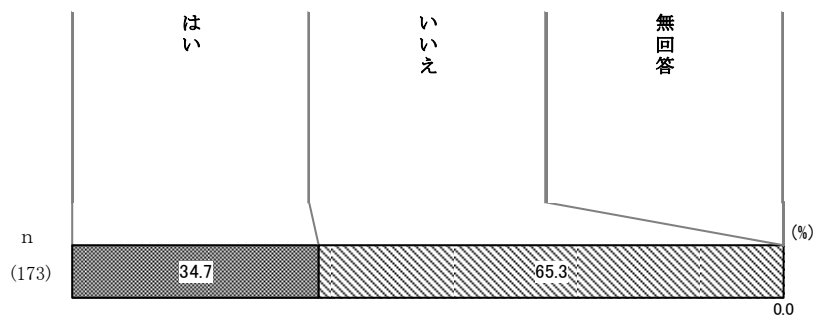
(1) 朝食の摂取状況

- ・「週に4～5日食べる」、「週に2～3日食べる」、「ほとんど食べない」といった朝食を抜くことがある人が3割弱いる。



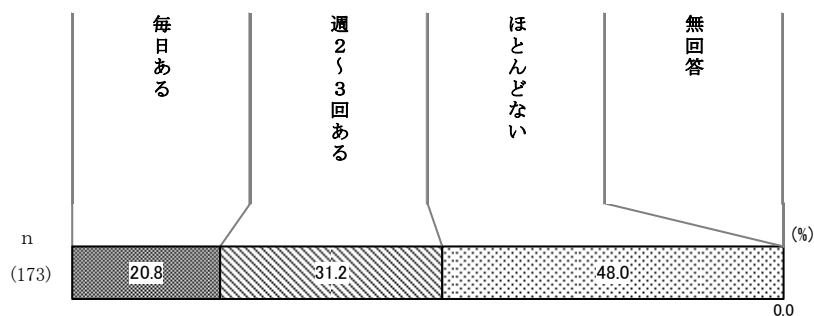
(2) 栄養バランスを考えて食事をしているか

- ・栄養バランスを考えて食事をしている人は3割半ばである。
- ・一方、考えて食事をしていない人が6割半ばいる。



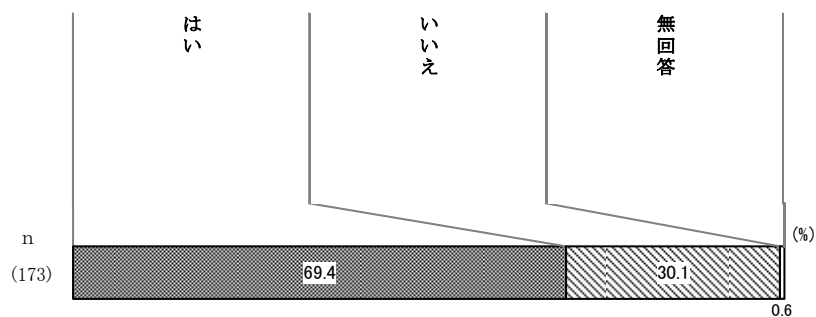
(3) 1日のうち、1人で食事をすることの頻度

- ・1人で食事をする人は、「毎日ある」が約2割、「週2～3回ある」が3割強である。
- ・「ほとんどない」は5割弱である。



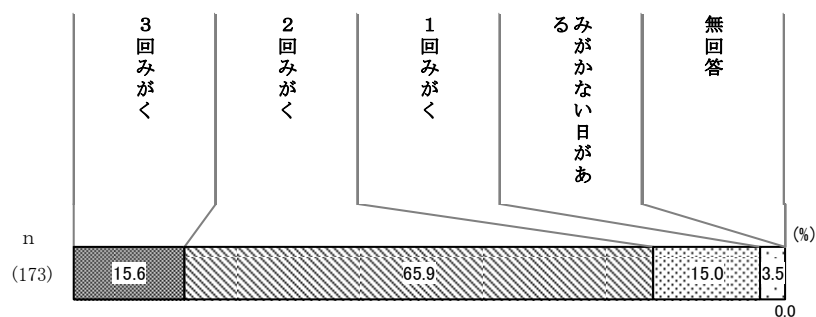
(4) 食事の時間の楽しさ

- ・ 楽しいと感じていない人が約3割いる。
- ・ 約7割が食事の時間が楽しいと感じている。



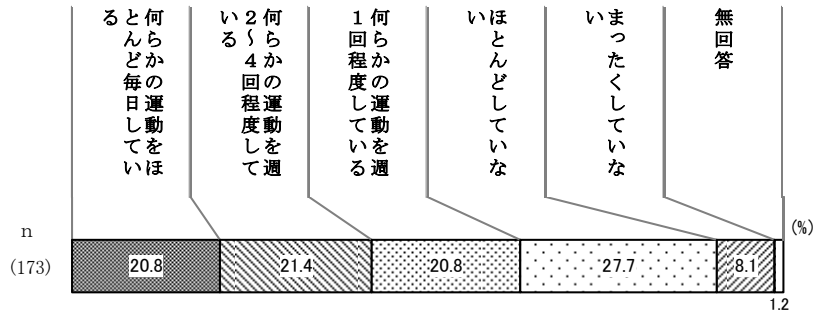
(5) 1日あたりの歯をみがく頻度

- ・ 1日に歯をみがく回数については、「2回みがく」が6割半ばと最も多い。
- ・ 一方、「みがかない日がある」が1割未満いる。



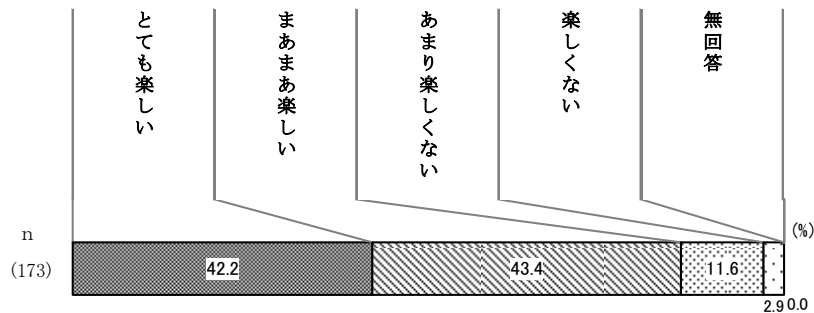
(6) 最近1年間、体育の授業以外での運動している頻度

- ・体育の授業以外に運動することについては、「ほとんどしていない」が3割弱と最も多いが、週1回以上何らかの運動をしている人は6割以上である。



(7) からだを動かすことの楽しさ

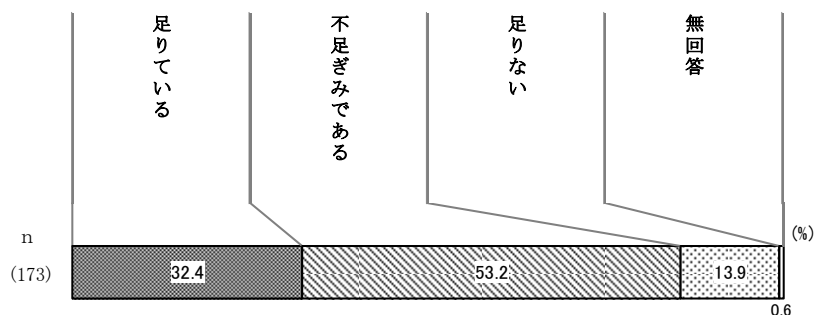
- ・からだを動かすことについては、「とても楽しい」、「まあまあ楽しい」がともに4割台で、合わせると高校生の8割以上が楽しくからだを動かしている。



2. 健康について

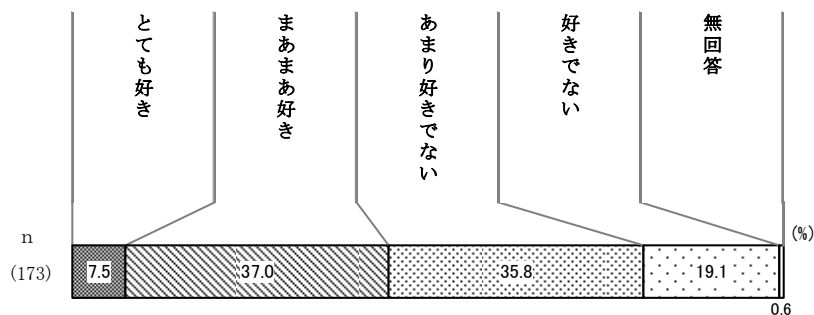
(1) 睡眠の充足度

- ・睡眠が「足りている」は3割強おり、「不足気みである」が5割以上と最も多く、「足りない」と合わせた7割弱が睡眠不足と回答している。



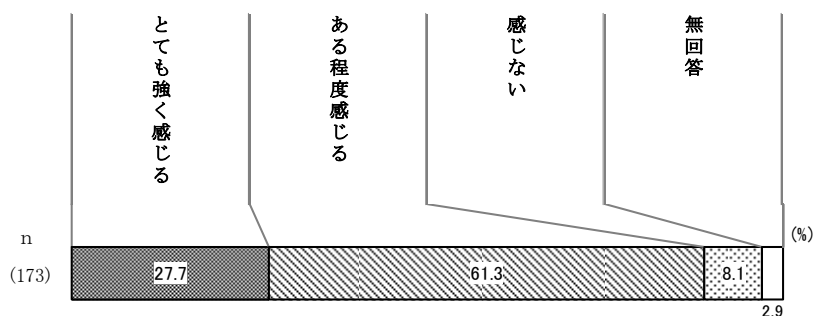
(2) 自分のことが好きか

- ・自分のことを「まあまあ好き」と思っている人が4割弱と最も多く、「とても好き」を合わせると、4割半ばが自分のことを好きだと感じている。
- ・一方、自分のことを「あまり好きでない」は3割半ばおり、「好きでない」を合わせると、5割半ばが自分のことを好きでないと感じている。



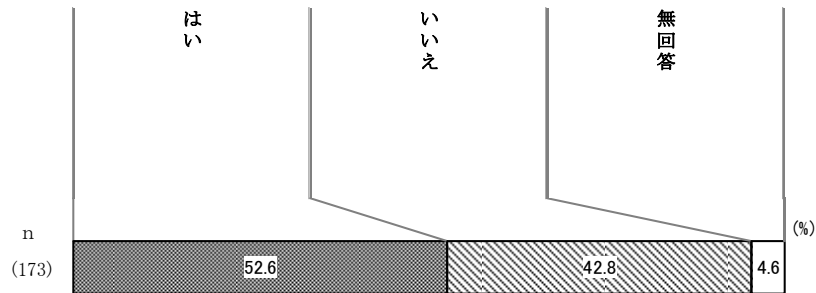
(3) 日頃、ストレスを感じるか

- ・日頃、ストレスを感じている人は、「ある程度感じる」が6割強と最も多く、「とても強く感じる」を合わせると、約9割が日頃ストレスを感じている。



(4) 最近、ひどく困ったことやつらいと思ったことの有無

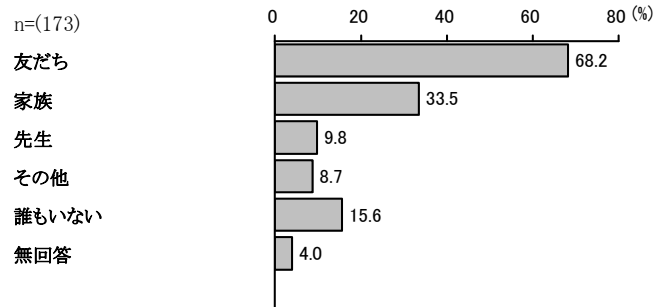
・最近、ひどく困ったことやつらいと思ったことがある人は約5割となっている。



(5) 悩みや心配ごとについての相談相手

・悩みや心配ごとの相談相手は、「友だち」が7割弱と最も多く、以下「家族」が3割台となっている。

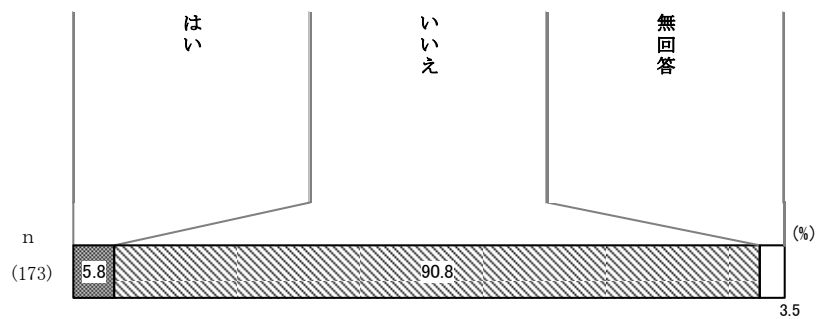
・一方、相談相手が「誰もいない」が1割半ばいる。



3. たばこやお酒について

(1) 喫煙の有無

- ・ たばこを吸う人が1割未満いる。
- ・ 一方、たばこを吸わない人が約9割いる。

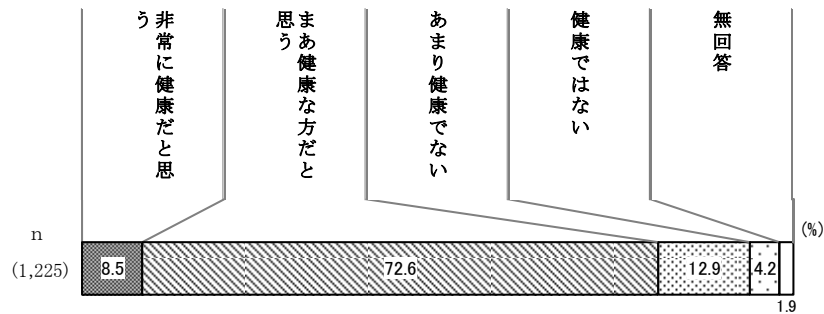


V. 20歳～69歳の成人

1. 健康について

(1) 自身の健康評価

- 健康ではないと感じている人は、2割弱である自分の健康状態については、「まあ健康な方だと思う」が7割強と最も多く、「非常に健康だと思う」を合わせると、約8割が自身を健康だと感じている。



(2) 実際の体型

- 身長・体重から算出したBMI指数は、「肥満 (25以上)」は2割半ば、4人に1人となっている。

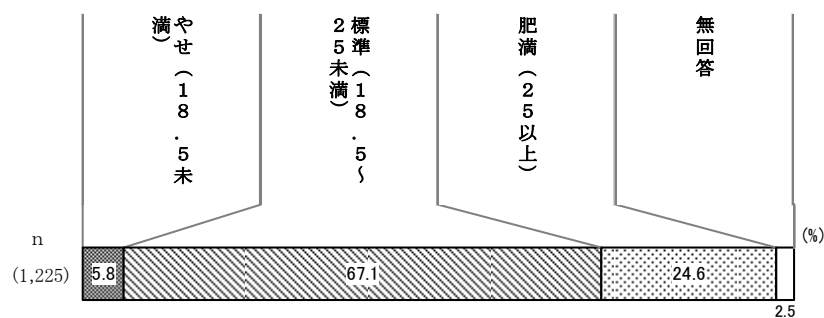
【身長】

調査数	平均	標準偏差	(cm)	
			最小値	最大値
1,207	161.47	8.66	120.00	185.00

【体重】

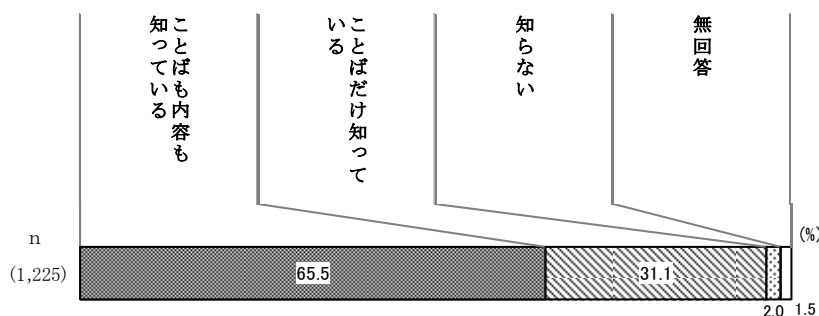
調査数	平均	標準偏差	(kg)	
			最小値	最大値
1,198	59.52	11.22	30.00	125.00

【体格指数 (BMI)】



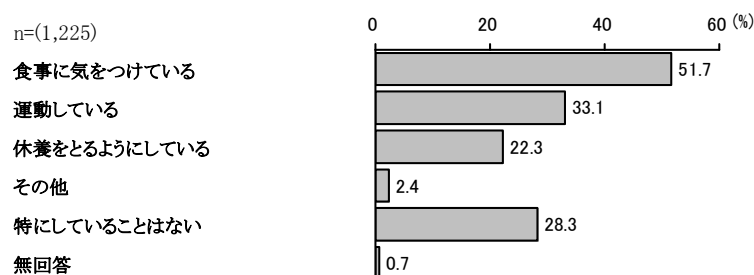
(3) メタボリックシンドロームの認知度

- ・メタボリックシンドロームについて「ことばも内容も知っている」人は6割半ばと最も多く、「ことばだけ知っている」を合わせると、9割以上が何らかの形で見聞きしていることがうかがえる。



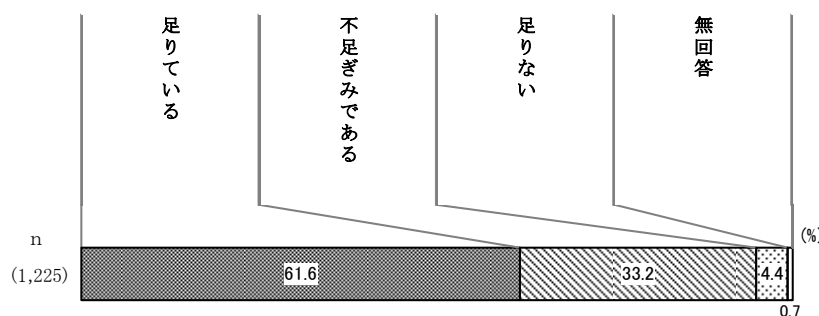
(4) 健康のためにしていること

- ・健康のためにしていることは、「食事に気をつけている」が約5割と最も多く、以下「運動している」が3割台、「休養をとるようにしている」が2割台となっている。
- ・なお、「特にしていることはない」は3割弱である。



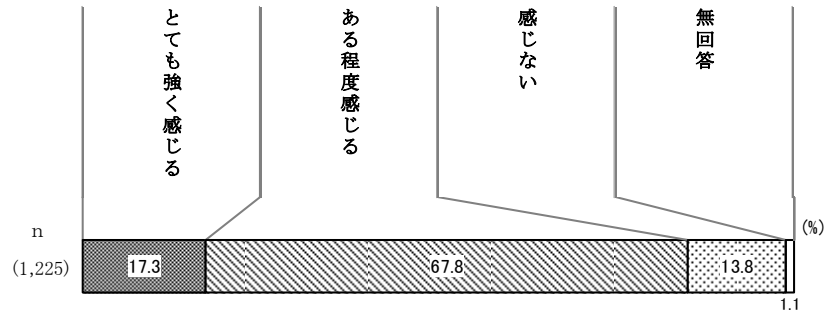
(5) 睡眠の充足度

- ・睡眠が足りている人は約6割と最も多いが、不足している人と足りない人を合わせると、4割弱が睡眠不足と感じている。



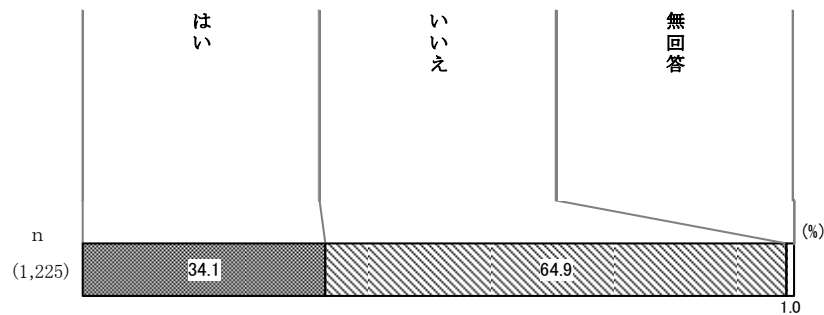
(6) 日頃、ストレスを感じるか

- ・日頃、ストレスについては、「ある程度感じる」が7割弱と最も多く、「とても強く感じる」を合わせると、8割半ばが日頃ストレスを感じている。



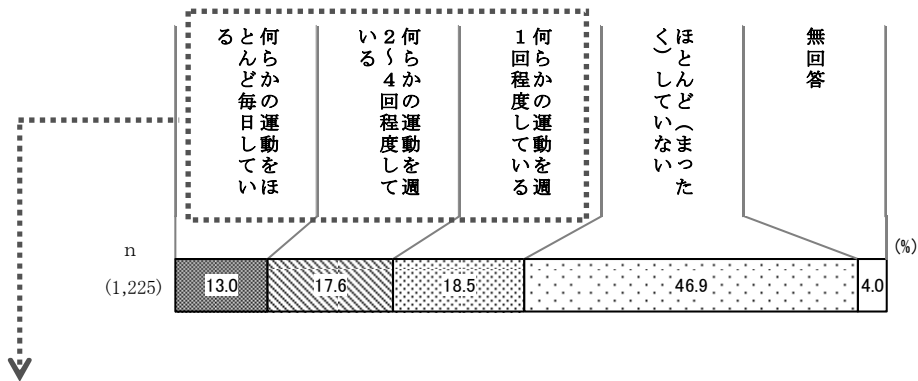
(7) 最近、ひどく困ったことやつらいと思ったことの有無

- ・最近、ひどく困ったことやつらいと思ったことがある人は3割半ばである。

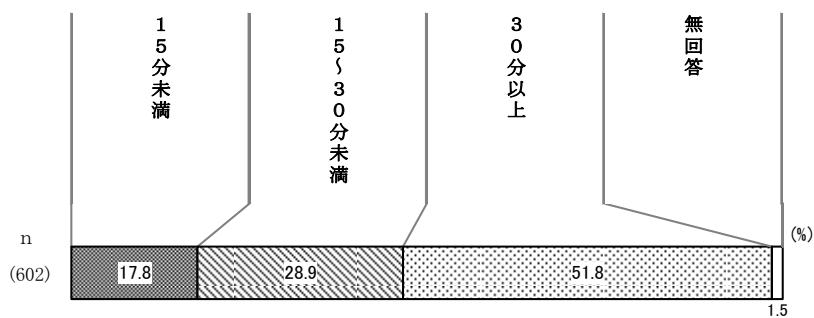


(8) 最近1年間、運動している頻度

・運動している頻度については、「ほとんど(まったく)していない」が4割半ばと最も多くなっているが、約5割の人は何らかの運動を週1回以上しており、1回の運動時間は「30分以上」が最も多い。



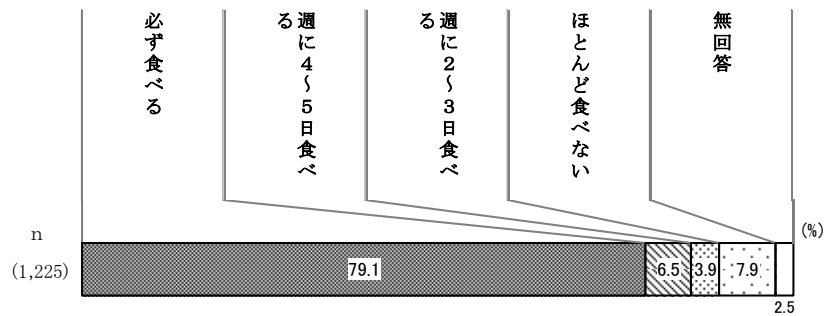
【1回の運動時間】



2. 食生活について

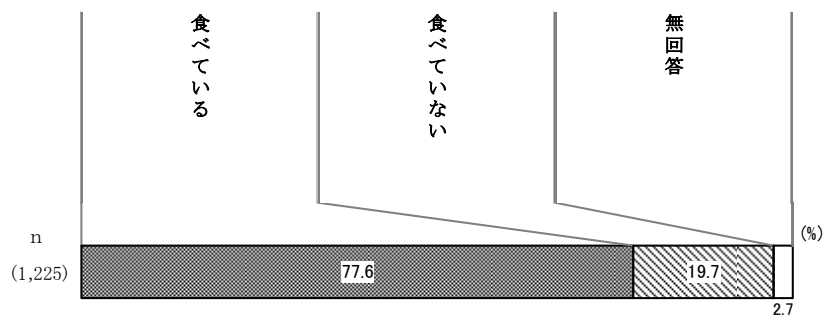
(1) 朝食の摂取状況

- ・約8割が朝食を「必ず食べる」と回答しているが、「週に4～5日食べる」、「週に2～3日食べる」、「ほとんど食べない」といった朝食を抜くことがある人が2割弱いる。



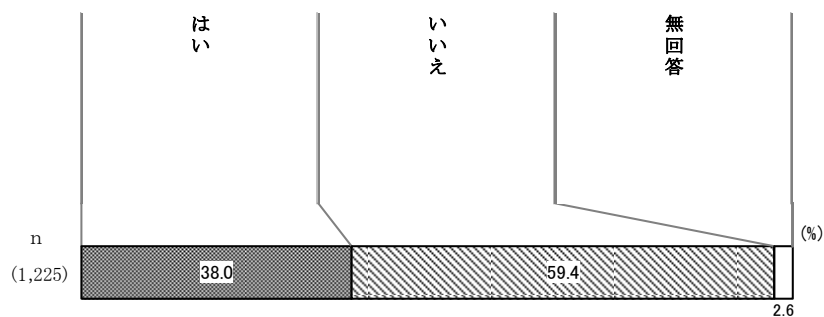
(2) 野菜のおかずを毎食食べているか

- ・8割弱が野菜を使ったおかずを毎食食べている。



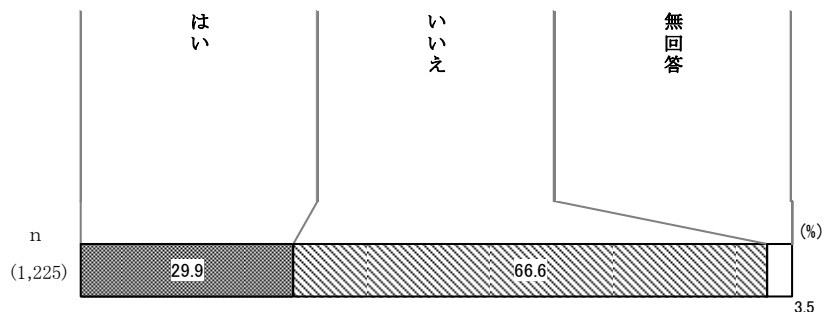
(3) 食事の味付けは濃い方が好きか

- ・食事の味付けについては、濃い方を好む人が4割弱、好まない人が約6割いる。



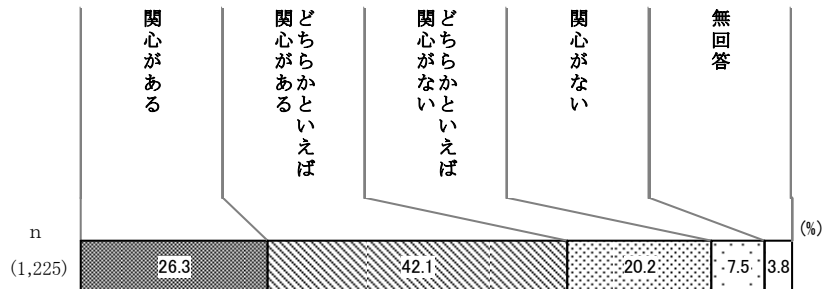
(4) 外食や食品購入時の、栄養成分表示の参考状況

- ・ 栄養成分表示を参考に購入している人は約3割である。
- ・ 一方、参考にしていない人が6割以上いる。



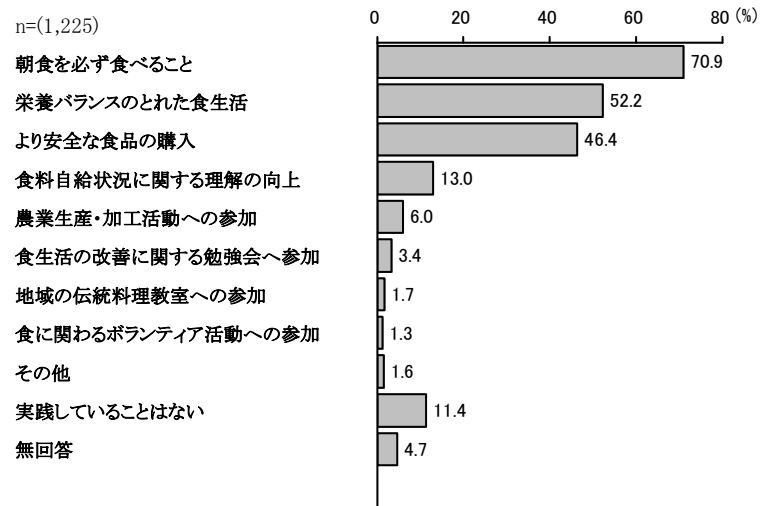
(5) 食育への関心度

- ・ 食育への関心度は、「どちらかといえば関心がある」が4割強と最も多く、「関心がある」を合わせると、7割弱が関心を持っている。
- ・ 一方、関心がない人は3割弱である。



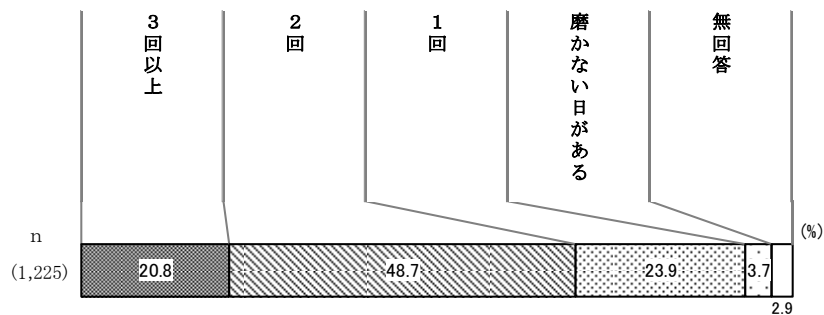
(6) 食育について実践している活動や行動

- ・食育について実践している活動等については、「朝食を必ず食べること」が約7割と最も多く、次いで「栄養バランスのとれた食生活」が5割台、「より安全な食品の購入」が4割台と続いている。



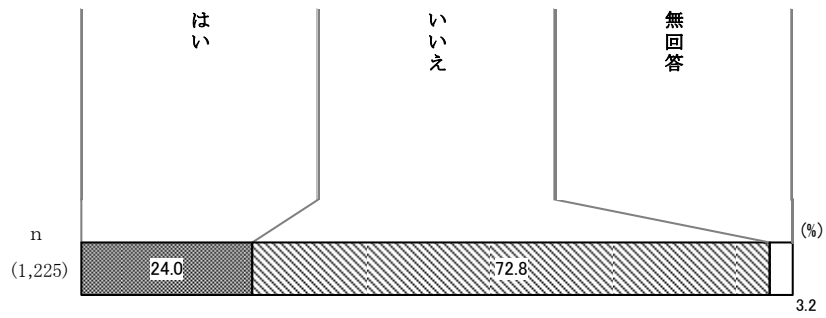
(7) 1日あたりの歯をみがく頻度

- ・1日に歯をみがく回数については、「2回」が5割弱と最も多く、次いで「1回」が2割半ば、「3回以上」が約2割と続いている。



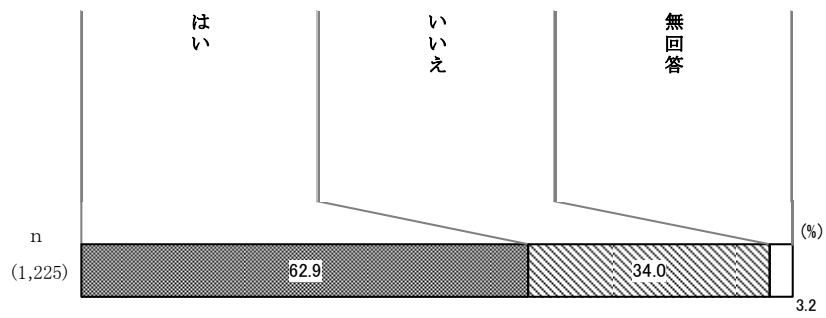
(8) 定期的な歯科検診の受診の有無

・定期的に歯科検診を受診している人は2割台である。



(9) 自身の歯が24本以上あるか

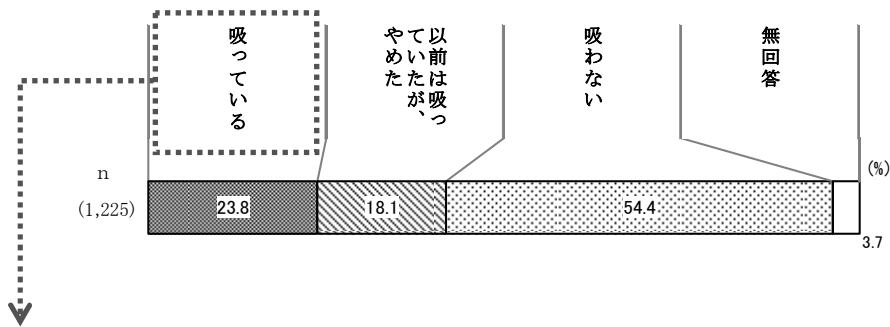
・自分の歯が24本以上の人は6割強いる。



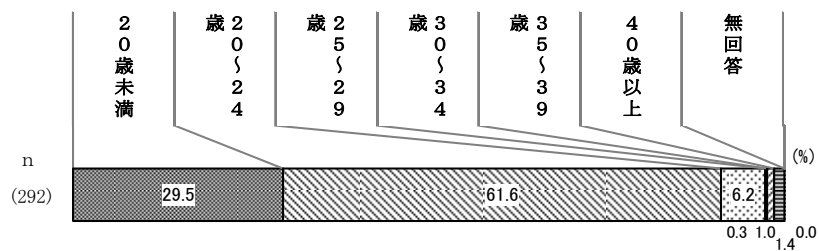
3. たばこについて

(1) 喫煙状況

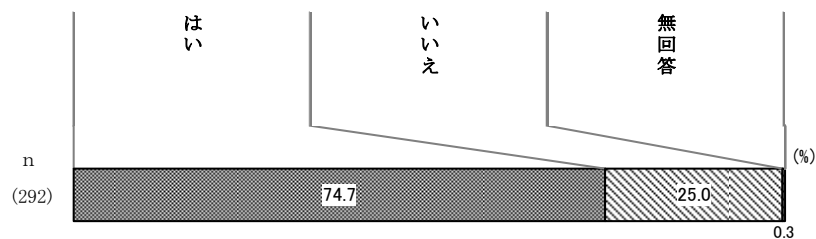
- ・たばこを「吸わない」人が5割半ばと最も多く、「以前は吸っていたが、やめた」を合わせると7割以上が吸わない人である。一方、喫煙者は2割台である。
- ・毎日吸うようになったのは、「20～24歳」が6割強と最も多く、次いで「20歳未満」が約3割と続いている。
- ・喫煙者の7割以上が禁煙したいと思ったことがあると回答している。



【たばこをほとんど毎日吸うようになった年齢】

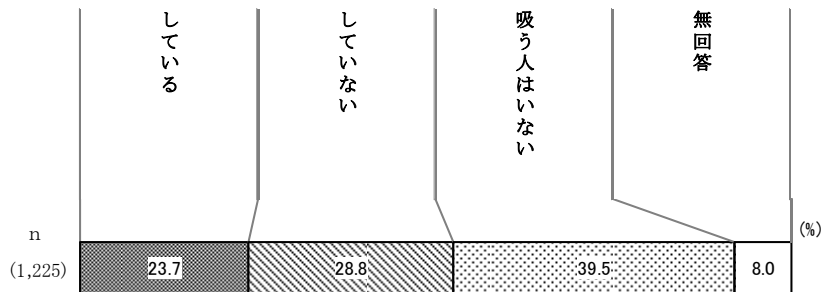


【禁煙したいと思ったことがあるか】



(2) 家庭内での空間分煙の有無

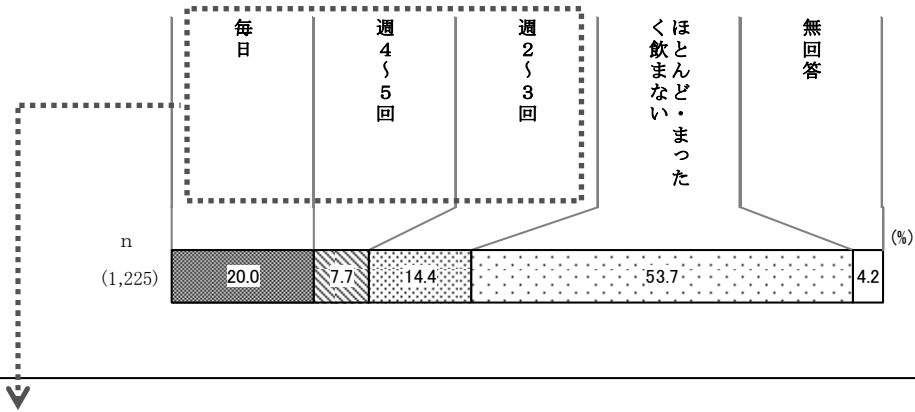
- ・家庭内での空間分煙については、「している」家庭が2割強で、「していない」家庭は3割弱と、「していない」家庭がやや多い。



4. 飲酒について

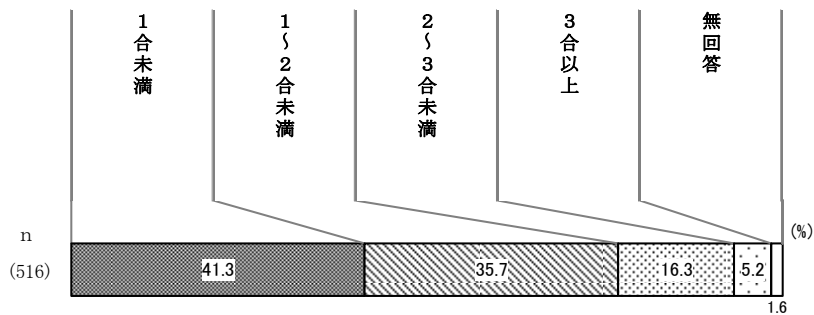
(1) 飲酒の頻度

- ・ お酒の飲む頻度については、「ほとんど・まったく飲まない」が5割台と最も多い。
- ・ 一方、「毎日」、「週2～3回」、「週4～5回」等の週に1回以上飲む人は4割強である。



(2) 1日あたりの飲酒量

- ・ 1日あたりのお酒の摂取量については、3合以上の多量飲酒者が5.2%いる。
- 「1合未満」が4割強と最も多く、以下「1～2合未満」が3割半ば、「2～3合未満」が1割半ばである。



2 市民懇話会

1 市民懇話会設置の趣旨

市民の健康と生活習慣に関するアンケートや生活の現状から窺われる健康課題及びその対策を検討し、健康課題を解決するために必要な行政施策や市民による活動などを計画に反映させるため。

2 市民懇話会構成委員

番号	所属等	氏名	担当領域
1	公募委員	柴田満喜子	健やかなこころ・休養
2		関根邦洋	疾病予防(メタボリック・がん・感染症)
3		柳沼美千子	栄養・食生活と歯
4	乳幼児の親	笹田瑞穂	栄養・食生活と歯
5		伊勢亀智子	健やかなこころ・休養
6	健康教育参加者	永瀬さやか	身体活動・運動
7		江藤よし子	疾病予防(メタボリック・がん・感染症)
8	ゆったりクラブボランティア	照井信一	健やかなこころ・休養
9	在宅歯科衛生士	中山愛子	栄養・食生活と歯
10	健康応援店	大内康弘	たばこ・アルコール・薬物防止
11	事業所(衛生管理者)	大竹 努	健やかなこころ・休養
12		鈴木康弘	健やかなこころ・休養
13	大東地区健康づくりの会	小松 武	たばこ・アルコール・薬物防止
14	仁井田地区健康づくりの会	斎藤敏夫	身体活動・運動
15	須賀川市健康づくり推進委員会	相楽栄子	身体活動・運動
16	須賀川市健康づくり推進委員会	仲畠和子	疾病予防(メタボリック・がん・感染症)
17	須賀川市食生活改善推進委員会	鈴木利子	栄養・食生活と歯
18	須賀川市食生活改善推進委員会	西間木百合子	たばこ・アルコール・薬物防止
19	長沼地区明るいまちづくりの会	奥河敏男	疾病予防(メタボリック・がん・感染症)
20	岩瀬地区明るいまちづくりの会	坂本 宏	たばこ・アルコール・薬物防止
21	公立岩瀬病院	大野 薫	疾病予防(メタボリック・がん・感染症)
22	西袋地区体育振興会	真壁正芳	身体活動・運動
23	須賀川市民生児童委員協議会	兵藤孝子	健やかなこころ・休養
24	(社)須賀川市社会福祉協議会	羽角信恵	健やかなこころ・休養
25	すかがわ岩瀬農業協同組合	上妻恵智子	栄養・食生活と歯
26	須賀川飲食店組合	鈴木敏仁	栄養・食生活と歯

27	須賀川市保健委員会連合会	松島義直	たばこ・アルコール・薬物防止
28	(社)須賀川青年会議所	森 保明	たばこ・アルコール・薬物防止
29	福島県県中保健福祉事務所	積口順子	栄養・食生活と歯
30		佐藤裕美	疾病予防(メタボリック・がん・感染症)
31	総合サービス課	樽川慶久	疾病予防(メタボリック・がん・感染症)
32	農政課	佐藤俊明	栄養・食生活と歯
33	学校教育課	関根宏樹	たばこ・アルコール・薬物防止
34		川田枝里子	栄養・食生活と歯
35	文化・スポーツ課	菅原英明	健やかなこころ・休養
36		上妻秀男	身体活動・運動
37	こども課	渡邊輝吉	健やかなこころ・休養
38		須田直子	栄養・食生活と歯
39	長寿福祉課	八幡秀俊	身体活動・運動

構成委員 39名（内訳 関係団体・機関等委員 30名 須賀川市職員委員 9名）

3 懇話の方法

担当領域ごとに分かれて健康課題、施策等について検討を行い、各領域における検討内容を懇話会の全体会議で報告、検討するなどの方法により進める。

4 開催日時、内容等

	開催日	内 容
第1回	平成22年10月4日(月) 13:30～15:30	・アンケート結果、各種健康データ、日頃の生活から健康課題を考える。 ・健康課題からめざす姿をイメージし、めざす姿になるための要因を検討する。
第2回	平成22年11月12日(金) 13:30～15:30	・それぞれの立場でできること、すでに実施していることを話し合い、ライフステージごとに整理する。
第3回	平成22年12月13日(月) 13:30～15:30	・ライフステージごとに、本人や家族ができる取り組み、地域・関係機関ができる取り組み、行政ができる取り組みの素案を検討する。

3 健康づくり推進協議会

須賀川市健康づくり推進協議会要綱

(設置)

第1条 須賀川市における健康づくりに関して、重要な事項を調査審議するため、須賀川市健康づくり推進協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

(任務)

第2条 協議会は、市長の諮問に応じて、市民の健康づくりに関する重要事項を調査審議する。

2 前項に規定するほか、協議会は、市民の健康づくりに関する重要事項について自主的に調査審議して、市長に意見を具申することができる。

(組織)

第3条 協議会は、次の各号に掲げる者を委員として市長が委嘱し組織するものとする。

- (1) 福島県県中保健福祉事務所長の職にある者
- (2) 須賀川医師会から推薦を受けた医師 3人
- (3) 須賀川歯科医師会の職にある者
- (4) 須賀川薬剤師会長の職にある者
- (5) 岩瀬地方栄養士連絡協議会長の職にある者
- (6) 須賀川市保健委員会連合会長の職にある者
- (7) 須賀川市食生活改善推進員会長の職にある者
- (8) 須賀川市健康づくり推進員会長の職にある者
- (9) 公募による者 5人

(任期)

第4条 委員の任期は2年とする。ただし、前条各号に掲げる委員が異動、改選等に伴い、後任者に引き継ぐこととなった場合は、前任者の残任期間とする。

(会長)

第5条 協議会に会長を置き、委員の互選により定める。

2 会長は会務を総理する。

3 会長に事故あるときは、会長があらかじめ指名する委員が、その職務を代理する。

(会議)

第6条 協議会の会議は、会長が招集し、会議の議長となる。

2 協議会は、委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができない。

(庶務)

第7条 協議会の庶務は、健康福祉部健康づくり課において処理する。

(補則)

第8条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関して必要な事項は市長が別に定める。

附 則

この要綱は、昭和55年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、昭和59年9月1日から施行する。

附 則

この要綱は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成8年4月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成12年10月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成15年5月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成17年5月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成21年5月1日から施行する。

附 則

この要綱は、平成22年4月1日から施行する。

須賀川市健康づくり推進協議会名簿

任期：平成21年5月1日～平成23年4月30日(2年)

	役職名等	氏名	備考
1	福島県県中保健福祉事務所長	柳澤正信	
2	須賀川医師会(3名)	春日明	会長
3		黒澤三良	
4		矢部順一	
5	須賀川歯科医師会長	廣田哲夫	職務代理者
6	須賀川薬剤師会長	関惟祖	
7	岩瀬地方栄養士連絡協議会長	深谷直子	
8	須賀川市保健委員会連合会長	鈴木利男	
9	須賀川市食生活改善推進員会長	柳沼和子	
10	須賀川市健康づくり推進員会長	後藤幸子	
11	公募	牧野まち子	
12	公募	須田文生	
13	公募	中山多美子	
14	公募	味戸一浩	
15	公募	安藤聡	
委員数		15名	

4 計画策定の経過

期 日	内 容
平成22年4月～5月	健康アップ21、すこやか親子21保健計画の見直し、計画策定の体制づくり 市民懇話会構成メンバー検討
平成22年6月	広報すかがわ6月号に市民懇話会委員の一般公募を掲載
平成22年7月～8月	アンケート実施 ・1歳～5歳保護者(587人) ・小学5年生(200人) ・中学1年生(198人) ・高校3年生(176人) ・20歳～69歳の成人(2999人) 計4,160人
平成22年9月	アンケート結果の考察
平成22年10月4日	第1回市民懇話会 須賀川市の健康課題とめざす姿についての話し合い
平成22年11月12日	第2回市民懇話会 それぞれの立場でできることを話し合い、ライフステージごとに整理
平成22年12月13日	第3回市民懇話会 ライフステージごとに本人、家族、地域、関係機関ができること、行政ができる取り組みについて素案を検討
平成22年12月17日	第1回健康づくり推進協議会 健康増進計画策定状況について経過報告
平成23年1月	計画書素案の作成
平成23年2月	パブリックコメントの実施
平成23年3月24日	第2回健康づくり推進協議会 計画書原案の審議
平成26年10月3日	第1回健康づくり推進協議会 計画期間延長(2年)の審議

発行 須賀川市
編集 須賀川市健康福祉部健康づくり課
〒962-0054
福島県須賀川市牛袋町5番地
(須賀川アリーナ内)
TEL (0248) 88-8123
FAX (0248) 88-8119
ホームページアドレス
<http://www.city.sukagawa.fukushima.jp>
発行日 平成23年3月



須賀川市